

告申立ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル事如左

上告趣意書ハ其意義明瞭ナラズト雖モ原判文ニ奉テ以テ菊松ノ頭ヲ打テ又ハ足ヲ以テ菊松ヲ蹴リトアルノミニシテ同人肋骨ノ骨折ヲ爲スニ至リタルハ果シテ如何ナル所爲ニ因ルモノナル乎ヲ明示セザリシハ不法ナリト云フモノ、如シ○果シテ然ラハ其論旨ハ不立何トナレハ菊松ノ肋骨ヲ折リタルハ被告カ足ヲ以テ同人ヲ蹴リタルニヨル事判文上自ラ明瞭ナレハナリ

辯護士高木益太郎辯明書第一ハ原判決ノ説明ニ「菊松カ負傷ノ爲メ疾病休業六週間ニ至リタル事ハ大谷幾三郎ノ鑑定書ニヨリ明白ナレハ當院ハ前記ノ如ク事實ノ認定ヲ爲シタルモノナリ」トアレトモ其鑑定書ニハ如何ナル申立アリシヤヲ明示セス即チ改正刑事訴訟法第二百三條ニ所謂罪トナルヘキ事實ニ付證據ニヨリ認めタル理由ノ明示ヲ欠ク裁判ナリト云フニアレトモ○該鑑定書ニ疾病休業六週間ニ至ル負傷ナル事ノ記載アルハ前掲ノ判文上自ラ明カナルヲ以テ是等ノ場合ニ於テハ重テ其鑑定書ニアル事項ヲ記セサルモ理由ノ明示ヲ欠キタルモノト爲スヘカラス

第二ハ本案創傷事件ハ明治三十二年二月十二日ノ出來事ナリシ事ハ原院ノ認ムル處ニシテ大谷幾三郎ノ鑑定ヲ爲シタルハ同年二月二十三日ナリトス而シテ鑑定人ニ於テハ右創傷ハ既ニ七八日以上ヲ經過シ疾病休業六週間ニ至ルヘキモノト考量シタルニ止マリ現實六週間ニ至リタルモノナルヤ否ヤハ將來未必ノ事ニ屬スルヲ以テ固ヨリ同鑑定書ノ確定シタル處ニアラス殊ニ同鑑定書ニハ負傷ノ原因ヲ汎ク

鈍體ノ衝突ニ因スト掲ケタルニ止マリ毆打ニ原因シタルモノト明言シタルモノニアラス故ニ右鑑定書中菊松ハ毆打ノタメ疾病休業六週間ニ至リタル事實ヲ掲ケタルカ如ク判示シタルモノトセン乎乃チ鑑定書ニ記載ナキ事柄ヲ恰モ記載アルカ如ク之ヲ掲ケタルモノト云フヘシ結局證據明示ノ點ニ付失當ノ裁判タルヲ免カレスト云フニアレトモ○原判決書ハ行文上聊カ穩當ヲ欠クノ嫌ナキニアラスト雖モ其意鑑定書ニ負傷ノ原因ハ鈍體ノ衝突ニヨリ云々トアルヲ以テ菊松カ骨折ノ負傷ハ被告カ足ニテ蹴リタルニ因ルモノナリト認定シ又同書ニ六週間許ノ疾病休業ニヨリ治癒スヘキ云々トアルヲ以テ菊松ノ疾病休業六週間ニ至リタルハ該負傷當然ノ結果ナリト認定シ其認定ノ架空ニアラサル事ヲ證スル爲メ該鑑定書ヲ採用シタルモノニシテ論旨ノ如ク鑑定書ニ毆打ノ爲メ疾病休業六週間ニ至リタル事實ノ記載アリトシテ之ヲ掲記シタルニアラサル事明カナルヲ以テ原判決ハ論旨ノ如キ失當ナキモノトス

第三ハ大谷幾三郎ノ鑑定書ニハ明治三十二年二月二十三日トアルモ同人ノ宣誓書ニハ三十二年一月二十三日トアリテ此宣誓書ハ本案公訴提起以前ノ日附ニ係ルモノナレハ本案被告事件ニ對スル適法ノ宣誓書ナリト認め難シ故ニ幾三郎ノ鑑定ハ適式ノ宣誓ヲ經タルモノニアラサルニ原判決カ之ヲ罪證ニ供シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニアレトモ○契印ヲ以テ該宣誓書ニ接續セシメタル明治三十二年二月二十三日附ノ調書ニ(前略)鑑定人ニ宣誓セシメ云々トアル等ニヨレハ宣誓書ニ一目云々トアル一ノ字ハ二ノ字ノ誤記ナル事明瞭ナルヲ以テ本論旨ハ不立

右ノ理由ニヨリ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十二年六月二十三日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十二年非常上告第三號  
明治三十二年六月二十九日宣告

○判決要旨

詐言ヲ設ケテ支出スヘキ金錢ヲ支拂ハサルニ止マリ取財ノ事實ナ  
キ所爲ハ詐欺取財罪ヲ構成スルモノニ非ス

原 審 札幌地方裁判所

被告人 藤井豊吉

右官名詐稱及ヒ詐欺取財被告事件ニ付明治三十二年三月十五日札幌地方裁判所ニ於テ言渡シタル判決  
確定ノ後檢事總長野崎啓造ハ非常上告ヲ爲シタリ

非常上告ノ趣意ハ本案二罪ノ中詐欺取財ノ事實ハ明治三十二年三月二日夜札幌區演劇場大黒座ニ至リ  
警察官ナリト詐稱シ無償ニテ入場シ木戸錢十五錢機敷料十五錢ヲ詐取シタルモノト認メ刑法第三百九

十條第一項同第三百九十四條ヲ適用シテ之ヲ罰シタルモ是只拂フヘキモノヲ拂ハサルニ過キヌシテ取  
財ノ事實之レナク刑事訴訟法第二百九十二條ニ所謂法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタルモ  
ノナルニ依リ原判決ヲ破毀シ適法ノ判決ヲ求ムト云フニアリ○依テ原判文ヲ閱スルニ其第二ノ所爲ハ  
被告ハ明治三十二年三月二日夜札幌區演劇場大黒座ニ至リ警察官ナリト詐稱シ無償ニテ入場シ木戸錢  
十五錢機敷料十五錢ヲ詐取シタリト認メ之レニ對シ刑法第三百九十四條第一項第三百九十四條ヲ適用處  
斷シアルモ右事實ハ非常上告論旨ノ如ク只拂フヘキモノヲ拂ハサルニ過キヌシテ取財ノ事實アルニア  
ラサルヲ以テ刑法第三百九十條ニ所謂詐欺取財ノ罪ヲ構成セサルモノトス然ラハ原裁判所カ右ノ所爲  
ニ對シ該法條ヲ適用處斷シタルハ則チ法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタルモノニシテ破毀  
ヲ免カレサルモノトス

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百九十二條第二項ニ從ヒ原判決擬律ノ部ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ  
判決スル左ノ如シ

藤 井 豊 吉

原判決ノ認メタル事實ニ依レハ被告カ第一ノ所爲ハ刑法第二百三十二條ニ該當スルヲ以テ同條ニ從ヒ  
被告ヲ重禁錮一月ニ處シ罰金四圓ヲ附加ス第二ノ所爲ハ刑事訴訟法第二百二十四條ニ依リ無罪トシ押  
收ノ物件ハ差出人ニ還付ス

明治三十二年六月二十九日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○過怠破産ノ件

明治三十二年第七五四號  
明治三十二年六月三十日宣告

○判決要旨

刑事訴訟法ニハ被告ノ抗辯及ヒ其抗辯ニ關スル證據ヲ排斥スルノ理由ヲ明示スヘシトノ規定ナシ

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 小倉利助  
大慈六三郎

右兩名ノ過怠破産被告事件ニ付明治三十二年五月二十五日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告兩名ヨリ上告ヲ爲シテ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ  
被告兩名ノ上告趣意ハ凡ソ刑事事件ノ判決ヲ爲スニハ其有罪タルト無罪タルトヲ問ハズ其有罪ナリト判決スルニハ無罪ナリト主張スル處ノ被告ノ抗辯及立證方法ニ對シテ一々其無罪ヲ立證スルニ足ラサ

ル所以ノ理由ヲ明示シ又無罪ヲ言渡スニハ其有罪ナリト論告スル論旨及ヒ立證方法ニ對シ一々其有罪ヲ認定スルニ足ラサル所以ノ理由ヲ明示セサルヘカラサル事ハ刑事訴訟法ノ規定スル處ナリ然リ而シテ本件上告人等ニ對スル被告事件ヲ原院ニ於テ取調ヘタル際ニ上告人等ハ上告人小倉利助振出ニシテ上告人大慈六三郎ノ裏書ヲ以テ綱本已之助ニ交付シタル額面金二百五十圓及金三百圓ノ約束手形ハ何レモ其支拂期日ナル明治三十一年七月二十六日ニ至ラサル同月十一日ニ於テ疾ク已ニ諸多ノ債權者總員即黒川力松外二十四名ノ集議決定ニ基キ上告人小倉利助所有ノ大阪市西區川北築地町浮船ノ割通稱櫻島坪數六千四百五十七坪ヲ償却ノ目的ト爲シ時機ヲ謀リ之レヲ賣却シ其得タル代價ノ内ヨリ抵當借入元利金額ヲ返却シ殘金ハ悉ク無抵當債主全體ニ平等ニ配當スルモノトシ此決議ハ各債權者一同ノ評決ニアラサレハ變更スル事ヲ得サル事ニ定メ各債權者ハ決議承諾ノ證トシテ記名捺印シタルヨリ全ク手形金支拂ノ義務ヲ更改シタルモノナルヲ以テ素ヨリ破産宣告ヲ受クヘキモノニアラサルモ既ニ一旦破産者ナリト宣告セラレタル以上ハ最早此點ニ對スル恢復策ヲキモ元來破産者タル可キ事實ナキモノトスレハ從テ支拂停止ノ事實ナク支拂停止ノ事實ナケレハ五日內届出ノ責任モ又々從テ生セサル次第ナルヲ以テ該集議決定書ニ記載セル事實ノ取調ヲ仰度旨主張シ集議決定書及該集議決定ニ基ク明治三十一年十月三十一日付公證人木幡正起役場公正證書作成證明書並ニ明治三十一年七月二十一日付小倉利助差出人取扱人羽生太一郎綱本已之助河村彌八宛副書控等ヲ上告人等ノ各利益ノ證據トシテ提出シ

且ツ證人訊問ヲ申請シタルノ結果集議決定書中ノ黒川力松綱本巳之助及副書控ニ取扱人トシテ署名シタル羽生太一郎等三名ヲ喚問セラレタルニ其證人タル綱本巳之助ハ本年五月二十日第二回公判廷ニ於テ集議決定書ニ代人河村彌八ヲシテ署名捺印セシメタル事ハ相違ナク代人ノ致セシ事ハ自分自ラ爲セシト同様ナリ約束手形二通ノ外ニハ更ニ取引ナシト證言シ同證人黒川力松羽生太一郎モ亦同一ノ證言ヲ爲シテ以テ約束手形ハ全然其義務ヲ更改シタル事ヲ明確ニ申立タル以上ハ上告人等ノ主張セル事實ヲ認ムルニ充分ナルヘキニ原院ニ於テハ如此重要ナル無罪主張ノ抗辯及其立證方法ヲ無視シ其判決ヲ爲スニ際リテ一言半句ノ之レカ説明ヲ爲サズ漫然空過シタルハ判決ニ理由ヲ附セサルノ不法アルモノト信ス然ルニ原判決ニ於テハ大阪地方裁判所檢事小川正治ノ作成シタル上告人等ノ聽取書中往々上告人等ニ不利益ナル陳述ヲ記載アリ専ラ之ニ重キヲ置テ有罪ノ判決ヲ爲シタルモノ、如キモ上告人等ハ元來無學旨味ノ商人ニシテ事ノ利害ヲ辨識スルノ能力ナク該檢事ノ取調中義務更改ノ事實ヲ陳述スルコト能ハサリシノミ然レ共義務更改ノ事實ハ原院ニ於ケル取調上充分明瞭ナリトス故ニ原院判決ハ有罪トスヘキ證據ノミナリ信シテ其無罪タルヘキ證據ト互ニ對照查覈シテ以テ遂ニ其無罪タルヘキ主張立證ハ有罪タルヘキ主張立證ニ打勝ツ程ノ力ナカリシ所以ノ理由ヲ明示セサルノ不法アルモノトスト云フニ在リテ

○要スルニ原院カ被告ノ抗辯及其證據ヲ排斥シタル理由ヲ説明セサルヲ不法ナリト攻撃スルト雖モ刑事訴訟法ニハ罪トナルヘキ事實及證據ニヨリ之ヲ認メタル理由ヲ明示スヘキ旨ノ規定アリシモ敢テ不法ト云フヲ得ス

リト雖モ被告ノ抗辯及ヒ其抗辯ニ關スル證據ヲ排斥スル理由ヲ明示スヘシトノ規定ナキヲ以テ必スシモ之ヲ排斥スル理由ヲ明示スルヲ要セス故ニ原院カ被告ノ抗辯及其證據ヲ排斥シタル理由ヲ明示セザリシモ敢テ不法ト云フヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニヨリ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十二年六月三十日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

○竊盜ノ件

明治三十二年第七六二號  
明治三十二年六月三十日宣告

○判決要旨

證人ノ陳述ハ一括シテ其意ヲ詳ニスルヲ得ヘキモノナルヤ又ハ分割シテ解釋シ得ヘキモノナルヤヲ判定スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬ス

第一審 奈良地方裁判所五條支部

第二審 大阪控訴院

被告人 高木長七

證據解釋ノ職權

右長七ニ對スル竊盜被告事件ニ付明治三十二年五月三十日大阪控訴院ニ於テ原判決ハ之ヲ取消ス被告  
高木長七ヲ重禁錮六月ニ處シ監視六月ニ付ス公訴裁判費用ハ全部被告ニ於テ負擔スヘシト言渡シタル  
判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ  
如シ

上告趣意ハ原判決ハ中谷藤四郎ノ豫審調書中「棚ノ物ハ一體動かサナカツタノデスカラソウ云フ事ハ  
ナイト思ヒマスガ云々ト答ヘ居リ藤四郎ハ竊取セラレタルモノトノミ思考シ居ル次第ニテ」ト説明シ  
該調書ヲ以テ犯罪行為ヲ認メタル資料ニ供セラレタレトモ右調書ノ問答ヲ看ルニ「問煙草入ハ長七ハ  
七平ノ所ニ行ク途中ニテ拾ツタト云フ答棚ノ物ハ一體動かサナカツタノテスカラソウ云フ事ハナイ  
ト思ヒマスガ混雜ノ際テスカラドウカシテ參ツタカモ分リマセン」トアリテ煙草入ハ或ハ他ニ遺失セ  
ラレタルヤモ圖ラレサルノ意ヲ陳述シ居リ其果シテ棚ノ中ニ存在セシヤ否ヤハ之ヲ明カニスルヲ得ツ  
ルノ申立ナル事ハ右問答ノ趣意ニヨリ明確ナリ然ルニ原判決ハ藤四郎ノ答辯中「混雜ノ際テスカラ」云  
々以下ノ上告人ノ利益トナルヘキ陳述ヲ故ラニ削除シ上段ノ陳述ノミヲ分割シテ證據ニ供セラレタル  
ハ不法ナリ蓋シ右藤四郎ノ陳述ハ之ヲ一括シテ始メテ其者ヲ詳ラカニスルヲ得ヘク一部分ノミヲ分割  
スル事ハ證據採用ノ上ニ於テ決シテ許スヘカラス即チ該調査中單ニ竊取セラレタリトノミ思考スル意  
味ノ陳述アル事ナケレハ原判決ハ虛無ノ證據ヲ採用シタル不法アルモノナリト云フニアレトモ○右藤

四、ハ、陳述ハ一括シテ始メテ其意ヲ詳ニスルヲ得ヘキモノナルヤ又ハ分割シテ解釋シ得ヘキヤハ事實  
問題ニ屬スルモノナリ而シテ原院ハ之ヲ分割シ得ヘキモノト爲シ從テ職權内ニ於テ其上段ノ陳述ノミ  
ヲ採用シテ證據ト爲シタルモノナレハ證據採用ノ方法ヲ誤リ若クハ虛無ノ證據ヲ採用シタル不法アル  
モノニアラストス

辯護士上告趣意擴張書ハ原判決ハ事實認定ノ一資料トシテ第一審公判始末書ヲ證據ニ供シ「原裁判所  
ノ公判廷ニ於ケル始末書ニヨレハ裁判所ヨリ種々推問ヲ受ケタル末藤四郎ハ臺處ノ棚ノ中ヘ右煙草入  
ハ置イタノテ何處ニモ持出シタル事ナク全ク竊マレタルニ相違ナキ旨ヲ申立居ルカ如何トノ問ニ左様  
テスカ大ニ心得違ヲ致シマシタト答ヘ左レハ右煙草入ハ竊取シタル譯カトノ問ニ否拾ヒマシタケレト  
モ左様藤四郎カ申シ居レハ仕方ハアリマセスト答ハ漸次ニ犯罪ヲ自認セルカ如キ形跡アルヲ以テ見レ  
ハ云々ト説明セリ然ルニ一件記録ニ徵スルニ右第一審公判廷ノ問答ハ詐欺誘導ノ訊問ニ係ル不法ノ自  
認(自認ト云フヲ得ハ)ナリ今一件記録中中谷藤四郎ノ豫審調書ニ依ルニ「問煙草入ハ長七ハ七平ノ處  
ニ行ク途中ニテ拾フタト云フソ答棚ノ物ハ一體動かサナカツタノテスカラソウ云フ事ハナイト思ヒマ  
スガ混雜ノ際テスカラドウカシテ參ツタカモ分リマセン」藤四郎ハ煙草入ノ竊取セラレタルニ相違ナ  
キ事ヲ確認シタルニアラスシテ却テ混雜ノ際或ハ其物件ヲ他ニ遺失セラレタルヤモ保シ難キ旨ヲ陳述  
セリ其他書類全般ニ徵スルニ藤四郎ニ於テ煙草入ノ竊取セラレタルニ相違ナキ旨ノ陳供アルヲ看ス然

ルニ第一審公判廷ニ於テ裁判所ハ「竊マレタルニ相違ナキ旨ヲ申立居ルカ如何」ト詐欺ノ事實ヲ構造シテ訊問ヲ發シ此訊問ニヨリ誘導セラレタル答ハ法律上無効ノ自白ナル事ハ當然ナリ原院判決ハ如斯不法ノ訊問ニヨリ成立タル自白ヲ有效トシ第一審公判始末書ヲ有要ノ證據ニ供セラレタルハ法則ニ違背セル事明確ナリト確信スト云フニアレトモ○右第一審判事カ訊問シタル事項ハ假リニ事實ニ相違スル所アリトスルモ故ラ詐言ヲ用テ誘導シタルモノト認ムヘキ事實ナキ限リハ直チニ其問答ヲ違法無効ノモノト爲スヲ從テ原院カ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルモ不法ト云フヲ得サルモノトス

右ノ理由ニヨリ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

○證書騙取ノ件

明治三十二年七月六九號  
明治三十二年六月三十日宣告

○判決要旨

(判旨第五點) 證人ニシテ傳聞ノ事實ヲ陳述スルモ探テ斷罪ノ資料ニ

供スルヲ妨クルモノニ非ス

(判旨第六點) 證人タル資格ノ有無如何ニ拘ラス證人トシテ宣誓ノ上  
虛偽ノ陳述ヲナシタルトキハ偽證罪ヲ構成ス

(判旨第七點) 重罪ヲ曲庇セントスルモノナルヤ將タ輕罪若クハ違警  
罪ヲ曲庇セントスルモノナルヤハ偽證者ノ意思ニ依テ甄別スヘキ  
モノトス

第一審 奈良地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 (林田萬吉  
小島福治)

右萬吉ニ對スル證書騙取福治ニ對スル偽證被告事件ニ付明治三十二年五月三十一日大阪控訴院ニ於テ  
原判決ヲ取消ス更ニ被告林田萬吉ヲ重禁錮三月罰金四圓ニ處シ六月ノ監視ニ付ス被告小島福治ヲ重禁  
錮一月罰金二圓ニ處ス押收品ハ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用ノ金三圓九十錢ノ内二圓十錢ハ被告林  
田萬吉ニ於テ金一圓八十錢ハ被告小島福治ニ於テ各々之ヲ負擔スヘシト言渡シタル判決ヲ不法トシ被  
告兩名ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
萬吉上告趣意書第一ハ本件告訴ノ本人ハ石田治ナル事稲田佐市郎ノ豫審調書ニ明カナル如クナルニ告  
訴狀ニ石田治三郎ノ署名アリテ本人治ノ署名ナキハ刑事訴訟法第二十條ニ違背スルヲ以テ該告訴狀ハ

無效ノモノナルニ原院カ探テ證據トナシタルハ不法ナリト云フニアレトモ○原院ハ石田治三郎ノ告訴狀ヲ採用シタルモノニシテ石田治ノ告訴狀ナル事ハ認メサル所ナルヲ以テ本論旨ハ不相立』第二ハ原判決ニ二月十五日石田治カ稻田佐市郎方ニ來リ被告萬吉ニ證書ノ認印ヲ求メタルニ被告ハ之ヲ受取リ實印ヲ持參スル事ヲ失念セシニ付歸宅ノ上認印シ持參セント云ヒ之ヲ携ヘ去リタル事實ハ(中略)福田佐市郎ノ豫審調書中相一致シタル記載アリ云々ト説明シアルモ同人ノ豫審調査ニハ兩人ハ種々談話シ居リ私ハ茶ヲ入レテ居ルトキ林田ハ其證文ヲ持テ歸宅致シマシタトアリテ原院カ認メタル如ク被告カ詐言ヲ用ヒタル事ハ之ヲ云ハス然ルニ原院カ何等ノ説明ヲ付セスシテ被告ノ不利益ニ之ヲ解釋シタルハ不法ナリト云フニアレトモ○調書ノ意味ヲ解釋スル等ハ原院ノ職權ニ屬ス而シテ其解釋ニ付テハ必スシモ一々説明ヲ爲ス必要ナキヲ以テ本論旨ハ不相立』第三ハ原院ハ稻田佐市郎ノ豫審調書中被告カ言ヲ構ヘテ遂ニ其證書ヲ還付セス云々ト説明シタルモ同人ノ供述ニヨレハ證書ヲ還付セサリシハ小島福治ニシテ被告萬吉ニアラサレハ原判決ノ説明ハ不當ナリト云フニアレトモ○右佐市郎ノ調書ニ福治カ云々ト述ヘテ還付セサル旨ノ記載アルモ萬吉カ福治ヲシテ之ヲ拒マシメタルモノナル趣旨ハ該調書ニヨリ自ラ明カナルヲ以テ原院ハ其事實ニヨツテ萬吉カ其還付ヲ拒ミタルトノ趣旨佐市郎ノ陳述アル旨説明シタルモノナレハ不當ノ説明ニアラストス』第四ハ原判決ニ其實印ヲ持參セサリシハ最初ヨリ期シタル所ト看ルノ外ナシ又被告ハ其當時受取リタルハ草稿ナリトテ警察署ノ取調以來云々ト説明シ

タルハ推測ヲ以テ斷罪ノ基礎ト爲シタルモノニシテ不法ナリト云フニアレトモ○原院カ認メタル事實ニ對スル證據ハ判文ニ明示スル處ナリ畢竟本論旨ハ其職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサリナリテ上告ノ理由トナラス

判旨第五點

福治上告趣意書第一ハ原院ハ證人稻田佐市郎ノ陳述ヲ援用シ其證書ハ林田カ福治ヨリ渡シタト云ヒタル旨ノ記載アリ云々ト説明シタルトモ同人ノ調書ニハ林田カ福治ニ渡シタト云フニ付福治カ持テ居ルモノト思フテ居リマシタトアリ又林田カ福治ニ渡シタト云ヒシハ佐市郎ニアラスシテ鳥居藤吉ナル事ハ藤吉ノ豫審調書等ニ明瞭ナル事ナレハ右佐市郎ノ陳述ハ傳聞ニ係リ證據ノ效力ナキモノナルニ原院カ之ヲ採用シテ斷罪ノ證據トナシタルハ不法ナリト云フニアレトモ○假令傳聞ノ事ヲ述ヘタルモノトスルモ法律上別ニ制限ナキヲ以テ採テ證據ト爲スナ妨ケサルモノトス』第二ハ被告小島福治ハ林田萬吉ト五等親(父ノ兄弟ノ孫)ノ關係アリテ民法上親族ノ範圍内ニアルモノナリ而シテ刑事訴訟法第十四條ニ此法律ニ於テ親族ト稱スルハ刑法第十四條第十五條ノ規定ニ從フトアルモ抑モ親屬ノ關係ハ民法ニ於テ規定スヘキモノニシテ現行刑法ニ之ヲ掲ケタルハ一時ノ便法ニ過キサリシナリ即チ刑事訴訟法第二十四條ト其性質ヲ同フスル民事訴訟法施行條例第九條ニ當分ノ内刑法ノ親屬例ニ依ル云々トアリテ其意民法ノ制定ヲ待ツモノナルコト疑ナシ故ニ今日已ニ民法ノ施行セラレタル上ハ民法ニ從フヘキハ當然ノ事ナルヲ以テ萬吉被告事件ニ付被告福治ハ證人タル資格ナシ從テ偽證ヲ爲シタリトスルモ偽

判旨第六點

證罪ヲ構成セサルモノナルニ原院カ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニアレトモ○證人タルヘキ資格ノ有無如何ニ拘ハラス已ニ證人トシテ宣誓ヲ爲シタル上虛僞ノ陳述ヲ爲スニ於テハ偽證罪ヲ構成スルモノナルヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由トナラス

右福治辯護士上告趣意擴張書第一點ハ刑法第二百十八條ノ偽證罪ハ其重罪タルト輕罪タルト違警罪タルトニヨリテ處分ヲ異ニスルノミナラス此區別アルカ爲メ罪ノ體様ニ於テ重罪タリ輕罪タリ違警罪タルハ一ノ成立要素ナリトス然ルニ元來豫審ナル者ハ重罪豫審輕罪豫審ノ區別ナキヲ以テ到底豫審ニ於ケル供述ヲ以テ偽證罪ノ成立ヲ認ムル事能ハサルナリ然ルニ論者或ハ說ヲ作シテ曰ク偽證罪ノ重罪輕罪違警罪ノ區別ハ檢事ノ起訴シタル事件ノ罪名ニ由テ區別チナスヘシト然レ共此說ハ立法ノ精神ハ暫ク措キ明文ノ解釋トシテハ採用スヘカラサル說ナリトス何トナレハ檢事ノ起訴ニヨリ事件カ豫審ニ繫屬シタル後ハ豫審ニ重輕違ノ區別ナキヲ以テ其終結決定アリタル後ニアラサレハ事件ノ重罪タルカ輕罪タルカ將ク違警罪タルカ判然セサルモノナレハ第二百十八條ノ區別モ之ヲ知ルニ由ナシ故ニ事件カ裁判所ノ公判ニ付セラレタル以後ニアラサレハ刑事ニ關スル偽證罪ハ成立セサルモノト解釋スルヲ妥當ト信スト云フニアレトモ○其重罪ヲ曲庇セントスルモノナルヤ將ク輕罪若シクハ違警罪ヲ曲庇セントスルモノナルヤ等ハ證人ノ意思如何ニ依テ區別シ得ヘキモノニシテ其事實ハ初メヨリ識別シ得ヘキヲ以テ爲メニ陳述スル所ノ事件ノ終結決定ヲ待ツニアラサレハ判決シ能ハサルモノニアラス故ニ本論

判旨第七點

旨ハ上告ノ理由トナラス』第二點ハ原判決ハ其理由中「明治三十二年二月二十七日奈良地方裁判所ニ於テ宣誓ノ上前事實ニ記載ノ證言ヲ爲シタル事實ハ被告ノ豫審調書中其事實供述ノ記載及ヒ當公廷ノ自認被告萬吉證書騙取事件ノ證人トシテ豫審調書ニ其事實記載アルヨリ明確ニシテ」ト判示セラレタルノミニシテ被告カ如何ナル事實ノ供述カ偽證罪ヲ構成セシ歟又公判廷ニ於テハ如何ナル陳述カ之ヲ自認シタルヤノ明示ナキハ是レ即チ法律ニ定メラレタル罪トナルヘキ事實及證據ニ依テ之ヲ認メタル理由ヲ明示シタルモノト云フヲ得ヘカラス且ツ法律ノ適用ニ至リテハ「被告福治ノ所爲ハ刑法第二百十八條第二號ニ該當スルヲ以テ其刑ノ範圍内ニ於テ處斷スヘシ」ト云ヒ單ニ該當シタル法條ヲ示スノミ其何カ故ニ認定ノ事實カ第二百十八條第二號ニ該當スルカノ點ニ至リテハ毫モ説明ヲ與ヘラレス是レ明カニ法律ヲ適用シテ其理由ヲ付セサルモノナレハ改正法文ノ本旨ニ反スルヤ勿論ナリト信スト云フニアレトモ○原判決文ハ前ニ被告カ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル事項ヲ掲テ後ニ(前略)前事實ニ記載ノ證言ヲ爲シタル事實ハ被告ノ云々ニヨリ明確ニシテ云々トアルハ即チ被告カ爲シタル同一ノ陳述ヲ採テ認定ノ理由ト爲シタルモノナル事明ラカニシテ只重テ之ヲ記載セサリシニ過キササルヲ以テ證據ノ明示ナ欠キタルモノニアラス又事實ノ部ニ於テ被告カ輕罪曲庇ノ偽證ヲ爲シタル事ヲ明示シ法律ノ部ニ於テ輕罪曲庇ニ適用スヘキ法條ヲ明示シ之ニ依テ處斷セル旨ノ理由ヲ明示シタル上ハ法律ノ理由ハ充分ナルヲ以テ其他ニ説明ヲ要スル事ナシトス故ニ本論旨ハ總テ不立



右ノ理由ニヨリ刑事訴訟法第二百八十五條本ニ從ヒ件上告ハ總テ之ヲ棄却ス  
明治三十二年六月三十日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治三十二年第七八二號  
明治三十二年六月三十日宣告

○判決要旨

(判旨第二點) 共同被告人ノ陳述ト雖モ探テ斷罪ノ資料ニ供スルコト  
ヲ得

(判旨第四點) 金圓ノ受授ナキニ拘ラス既ニ受授シタルモノ、如キ公  
正證書ヲ作成シ其證書ニ基テ強制執行ニ着手シタル所爲ハ詐欺取  
財ノ未遂ナリ

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 (一) 山松 兼次  
(二) 佐々木 兼次

右山松兼次ニ對スル私書偽造行使詐欺取財被告事件山松ニ對スル詐欺取財未遂被告事件等ニ付明治三十二年五月三十一日大阪控訴院ニ於テ原判決ヲ取消シ更ニ被告山松兼次ヲ各重錮禁一年六月罰金二十圓ニ處シ六月ノ監視ニ付ス偽造ニ係ル吉龍リキ名義ノ委任狀三通ハ之レヲ沒收ス其他ノ差押物件ハ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ被告山松ノ負擔トス云々ト言渡シタル判決ヲ不當トシ被告兩名ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

由松上告趣意書ハ原判決ハ法律ニ違背シタル不法ノ裁判ナリ詳細ノ理由ハ擴張書ヲ以テ辯明スヘシト云フニ在リテ其擴張書第一ハ係爭公正證書中被告人ノ署名カ自署ニアラサルトキハ佐々木兼次砂子德兵衛等カ金三千圓ヲ受取ラストノ主張ハ相立タサル筋ナリ而シテ鑑定人ハ右署名ハ被告人ノ自署ニアラスト鑑定シタルニモ拘ハラス原院ニ於テ此點ニ付何等ノ理由ヲ說明セザリシハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ證據ニ依テ被告ノ犯罪事實ヲ明示シタルヲ以テ其他採用セザル鑑定書等ニ付キ一々其理由ヲ說明セザルモ不法ニアラス第二ハ共同被告人ノ陳述ハ事實ノ參考トナルニ過キササルモノナルニ原院カ之レヲ探テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリ又今瀧澄男ハ公正證書騙取及金三千圓ノ詐欺取財未遂ノ二事件ニ付各別ニ證人トナリタルモノナルコトハ原判文ニ依テ明カナル所ナルニ原院カ右甲事件ノ證言ヲ以テ乙事件ノ證人證據ト爲シタルハ不法ナリ又壹千壹百圓ト七百圓トハ全ク別途ノ判旨第二點  
モノナルニ之ヲ相關係セルモノト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○共同被告人ノ陳述ト雖モ探

テ、斷罪ノ證據ト爲スニ妨ケナキハ論ヲ待タス又前掲公正證書騙取及三千圓ノ詐欺取財未遂罪ハ最モ密接ノ關係ヲ有シ相牽聯シタルモノニシテ且ツ同一被告ニ對スル事件ナルヲ以テ原院カ之レヲ併合シテ審判スルニ當リ其甲乙ノ證言ヲ混同シテ採用シタルモ不法ニアラストス又後段論旨ハ事實認定ノ批難ニ過キサルヲ以テ共ニ上告ノ理由トナラス』第三ハ原判決第四項ニ明治三十一年七月中被告カ本件ノ罪ヲ犯シタルモノト判示シタレトモ被告カ明治三十一年六月以來大阪地方監獄ニ拘禁セラレタルモノナルコトハ記錄上明瞭ナレハ原院ハ不法ニ犯罪時日ヲ認メタルモノナリト云フニ在レトモ○被告カ明治三十一年六月以來監獄署ニ拘禁セラレタルモノナルコトハ原判決ニ認メサル所ナレハ本論旨ハ畢竟事實認定ノ批難ニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナラス

右由松辯護士上告事件辯明書第一ハ原判決理由ニ「右第一ニ記載シタル日時場所ニ於テ未タ金員ノ交換ナキニ既ニ交換アリタル如キ金三千圓ノ公正證書ヲ作りタルコト後ニ至リ其記載ノ同時場所ニ於テ該證書ニ基キ其記載ノ手續ニヨリ強制執行ニ着手シタルモ砂子徳兵衛ノ告訴ニヨリ其金員ヲ取立テ得サリシコトハ被告申松カ當公廷ニ於テ自認スル所ニシテ」ト掲ケアレハ原院公判始末書中被告ノ供述ニ右事實ヲ自認シタル形迹全ク存在セサルノミナラス記錄第二百三十一枚目ノ第五行目以下ニ「現金ノ貸借ハ致シタルモノニ相違アリマセント供述シアルヲ以テ未タ金員ノ受授ナキニ既ニ受授アリタル如キ金三千圓ノ公正證書ヲ作りタルコト等ヲ認メタルコトナキヤ明白ナリ然ルニ原院カ前掲ノ如ク

表示シタルハ架空ノ證憑ヲ表示シタルノ違法アルモノナリト云フニ在レトモ○原院始末書中被告ノ答辯ニ(前略)一日中比ニテ金カ出來マセナンダガ其後ニ出來テ貸シタニ相違御座リマセントアリテ被告カ該公正證書作成ノ當時金員ノ受授ヲ爲サリシコトヲ自認シタル事跡明カナルヲ以テ本論旨ハ不成立

第二ハ原院ハ本件被告ニ數個ノ犯行為アルコトヲ認メナカラ之レニ相當スル各刑期金額ヲ指示セシ漫然「由松ハ以上四罪俱發ニ罹ルヲ以テ刑法第百條ニ照ラシ犯情ナルモ重キ第四ノ所爲ニ從ヒ處斷ス」トノ説明ニ止マリシハ刑事訴訟法第二百三條ニ所謂法律ヲ適用シ其理由ヲ付スヘシトノ規定ニ違反セリト云フニ在レトモ○數罪俱發一ノ重キニ從テ處斷スル場合ニ於テハ其輕キモノニ對シ一々刑期ヲ指示スルノ必要ナキヲ以テ本論旨モ相立タス

兼次上告趣意書ハ被告兼次カ犯シタルモノトセラレタル罪ハ一罪ノミナルニ數罪アル相被告由松ト同一ノ刑期ニ處シタルハ不法ナリ又被告兼次ハ由松及安田龜太郎ヲ信認シテ同人ノ依頼ニ應ジ全ク犯罪事實ヲ知ラスシテ本件貸借金ノ取扱ヲ爲シタルモノナルコトハ各證人ノ申立ニ依ルモ明カナルヲ以テ無罪ノ判決ヲ求ムト云フニ在レトモ○犯情ヲ量リ刑期ヲ定ムルハ原院ノ職權ニ在テ他ヨリ批難スルヲ得サルモノナルヲ以テ前段論旨ハ上告ノ理由トナラス又後段論旨モ原院ノ職權ニ屬スル事實認定ノ批難ニ過キサルヲ以テ是亦上告ノ理由トナラス

共同被告人ノ陳述○事實虛無ノ公正證書

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ總テ之レヲ棄却ス  
明治三十二年六月三十日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

大審院刑事判決錄

第五輯 第七卷

○奉養ヲ缺クノ件

明治三十二年第七六七號  
明治三十二年七月三日宣告

○判決要旨

大 缺奉養罪ノ構成ニハ祖父母父母ノ飢餓ニ迫リタル事實ヲ必要トセ

(参照) 子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セス其ノ他必要ナル奉養ヲ缺キタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第三百一十條第一項)

養子ノ其養家ニ於ケル親族ノ例ハ實子ニ同シ

奉養ヲ缺ク罪ノ構成○養子ノ親族例

被告人 金井 磯

右養母ニ對スル奉養ヲ欠キタル被告事件ニ付明治三十二年六月六日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
上告趣意第一點ノ要領ハ金井家ノ財産ハ被告ノ財産ニシテヨネハ被告ノ家族ナリヨネハ衣食シタルモノハ即チ被告ノ財産ニ依リタルモノニシテ豫審調書ニ家財道具ヲ賣リ賃仕事ヲ爲シテ生活ス云々トアリ被告ヨリ直接ニ衣食料トシテ供給セスト雖モ優ニ生活シ得タルモノナレハ必要ナル衣食ヲ供給セストノ事實ナシ原判決ハ畢竟ヨネノ生活シタル資料ハ戶主タル被告ノ財産ナルヤ否ヤヲ判決セスシテ罪ヲ斷シタル不法アリト云フニ在レトモ○原判決ハ其理由ノ示ス如ク拾七圓五拾錢ヲ以テヨネカ一ケ年間ノ生計ニ當テ云々ヨネハ天保二年出生ノ老者ニシテ當時物價騰貴ノ爲メ斯ル些少ノ金圓ニテハ生活困難ナルヨリ云々被告ノ寄留宅ニ同居シタル處被告ハヨネヲ嫌惡シ實家ナル同町平井武之助方ニ起臥シ前顯ノ如ク養家ノ財産ヲ繼承シナカラ同年五月頃ヨリ以後ヨネニ對シ毫モ必要ノ衣食ヲ供給セズ云々認定シタルモノナレハ其生活ノ資料カ被告ノ財産ナルヤ否ヤヲ判示スルノ要ナキノミナラス衣食ヲ供給セストノ事實ナシトノ論難ノ如キ要スルニ事實認定ノ批難ニ外ナラスシテ上告ノ理由トナラ

ス」同第二ノ要領ハ原判決ハ第一審判決ノ認メタル同年六月以後衣食ヲ供給セストノ事實ヲ讞シ同年五月頃ヨリ云々ト認定シタルニ拘ハラス第一審判決ヲ廢棄セサリシハ不法ナリト云フニ在レトモ○六月以後ト云ヒ五月頃ヨリト云フモ此差異ハ毫モ犯罪ノ構成ニ關係ヲ及ホサ、ル事柄ナルヲ以テ原判決カ第一審判決ヲ廢棄セサルハ不當ニアラス」同第三ノ要領ハ原判決中ヨネノ豫審調書ニヨネカ東鹽田村ニ遺シ置カレタルコト、アルモ調書中斯ル語ナシ又被告カ其兄武次之助ニ養家ノ家屋ヲ賣リタリトテヨネヲ逐ヒ出シタルコト、アルモ被告カ逐ヒ出シタルコトノ記載ナシ又三十一年五月以後米穀其他仕送り與レサルノ記載アリトアレトモ六月以降トアリテ五月以降トノ記載アルコトナシ即チ原判決ハ虛無ノ事實ヲ作リテ罪證トナシタル不法アリト云フニ在レトモ○ヨネノ豫審調書ヲ査閱スルニ其第四葉ニ「小諸町ニ行テ仕舞ヒ私ハ東鹽田村ニテ暮スコトニナリ」トアリ又其第六葉ニ「武次之助カ私共居ル家ヲ買タカラ一寸モ置シコトハ出來ヌ云々私等ヲ追ヒ出シ」云々トアリ又其第十三葉ニ「小遣錢ハ云々五月後ニナリテハ受取リマシタコトハアリマセン」云々トアリテ原判決ハ是等調書中ニ散見スル陳述ノ趣旨ヲ採リ認定ノ資料ニ供シタルモノナレハ虛無ノ事實ヲ作り罪證ニ供セリトノ論難ハ謂ハレナシ」同第四點ノ要領ハ刑法第三百六十四條ハ衣食ヲ供給セサルカ爲メ飢餓ニ迫リタルニ非サレハ其罪ヲ構成スヘキモノニアラス然ルニ原判決ハ此事實ヲ示サスシテ處罰シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑法第三百六十四條ハ其明文ノ如ク衣服ヲ供給セズ其他必要ナル奉養ヲ欠キタルニ依リ其罪ヲ成

ハ、モ、ノ、ニ、シ、テ、飢、餓、ニ、迫、リ、タ、ル、事、實、ノ、有、無、ハ、犯、罪、ノ、構、成、ニ、關、係、ナ、シ、即、チ、原、判、決、カ、飢、餓、ニ、迫、リ、タ、ル、事、實、ヲ、示、サ、ル、モ、不、法、ニ、ア、ラ、ス、』同第五點ノ要領ハヨネハ被告ノ家族ナリ戸主ノ意ニ反シテ住所ヲ定ムルヲ得ストヨハ實ニ被告ノ指定シタル住所ニ行カスシテ勝手ニ居所ヲ定メタリ故ニ此事實ヲ證スル爲メ小山九郎作前田トヨヲ證人トシテ喚問ヲ申請シタルニ之レヲ棄却シ却テヨネノ住所ヲ指定シタルコトハ之レヲ認ムヘキ證憑ナシト判決シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○證人喚問ノ申請ヲ許スルハ事實承審官ノ職權ニ屬スルヲ以テ之レニ對スル不服ハ以テ上告適法ノ理由トナラス

上告追加書第六點ノ要領ハ原判決ニ金五拾圓ヲ上田第十九銀行へ年利五分ヲ以テ三年間ノ定期預ケケテ爲シ其利七圓五拾錢ハ被告ヨリ年々拾圓ヲ出金云々トアレトモ該銀行利子ハ年七分ニシテ拾圓五拾錢之レニ拾圓ヲ加ヘテ與ヘタル事實ニシテ七圓五拾錢トノ記載アルコトナシ原判決ハ事實ヲ經ヒテ犯罪ノ資料ト爲シタル不法アリト云フニ在レトモ○ヨネノ豫審調書第四葉ニ「百五拾圓ヲ十九銀行へ貯金シ此利子七圓五拾錢」云々トアリ又被告第三回豫審調書第二葉ニ「年内拾七圓五十錢デハ暮シ出來ヌ故云々文之助等ト話ナシテ云々文之助等カ話ナスル時ニ預リ合ヒ云々」トアリテ上田十九銀行預ケ金利子ノ七圓五十錢ナルコトハ豫審調書中記載ナシト言フヲ得ヌ即チ論告ハ原承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ取捨ニ對スル批難ニ過キスシテ上告ノ理由トナラス』同第七點ノ要領ハ金百五十圓ヲ養母ヨネノ十九銀行ニ預ケタルコトハ爭ヒナキ事實ナリ故ニ三十一年五月ヨリ本件告訴ノ起リタル同年

九月迄五ヶ月間此百五十圓ニテハ生活シ能ハサルヤ否ヤヲ審理スルニ非サレハ未ダ以テ必要ノ衣食ヲ供給セサモノト斷定スヘカラス然ルニ原判決ハ百五拾圓ヲ養母ノ爲メニ預ケ置タル事實ヲ認メナカラ以上ノ點ニ付判決セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○金百五拾圓ハ養母ヨネノ養料トシテ預ケタルコト殊ニ此百五拾圓ハ告訴ノ起ル五ヶ月前ヨリヨネノ養料トシテ費用シ得ルコトハ毫モ原判決ノ認メサル所ニシテ原判決ノ認メタル事實ハ百五拾圓ノ利子一ヶ年七圓五十錢等ヲヨネノ養料ニ充テタルコト及ヒ被告カ右些少ノ金額ニテハ生活困難ナリトノ協議ヲ受ケ一旦同居シタルモヨネチ嫌惡シ實家ニ起臥シテ願ミス三十一年五月以後毫モ衣食ヲ供給セスシテ奉養ヲ欠キタルコトニ在リテ此認定シタル本件事實ニヨレハ該百五十圓ノ預ケ金ニテハヨネノ生活シ能ハサルヤ否ヲ斷定スヘキノ要ナシ之レヲ要スルニ論告ハ原判決ニ副ハスシテ漫リニ論難ヲ試ムルニ過キス毫モ上告ノ理由ナキモノトス』同第八點ノ要領ハ刑法第三百六十四條ノ子孫トハ血族ノミヲ指スモノニシテ其子孫ノ配偶者ヲ包含セズ本件被告ハ原判決ノ認ムル如シ婿養子ニシテケサノノ配偶者ナレハ該條ノ子孫ニ包含セサルヲ以テ罪ヲ成サ、ルモノナルニ原判決カ之レヲ罰シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○本件原判決ノ認メタル事實ニ依レハヨネト被告トハ養母子ナルヲ以テ養子ノ其養家ニ於ケル親族ノ例ハ實子ニ同シク即チ養子ナル被告カ養母ヨネニ對シ衣食ヲ供給セス奉養ヲ欠キタル所爲ハ刑法第三百六十四條ノ制裁ヲ受クヘキハ當然ニシテ論告ハ其理由ナシ』同第九點ノ要領ハヨネカ其長女ケサノト同居スル以上ハ必要ナル

衣食ヲ供給スルノ責任ハ被告ニアラスシテ被告ノ配偶者ケサノニ在ルモノト言ハサルヘカラス刑法第三百六十四條ハ衣食ヲ供給スル責任者ニ於テ其義務ヲ欠キタル場合ニ適用スヘキモノナルニ其責任者ハ誰タルヤヲ判決セス直ニ被告ヲ罰シタルハ不法ナリ云フニ在レトモ○養家ノ財産ヲ繼承シ其戸主トナリタル養子ハ養母ヲ奉養スルノ義務アルハ勿論ニシテ原判決ニ於テ「同家ノ戸主トナリ所有ノ不動産悉皆ヲ自己ノ名義トシテ讓受ケノ登記ヲ了シ云々前顯ノ如ク養家ノ財産ヲ繼承シナカラ」云々ト判示シタルハ即チ責任者ノ被告ナルコトヲ判定シタルモノニシテ論告ハ共ニ其理由ナシ」同第十點ノ要領ハ檢事ハ被告事件公判ノ初メニ於テ意見ヲ陳述セサルヘカラス然ルニ第一審公判始末書ニハ「檢事ハ被告事件ノ供述ニ代ヘ豫審決定中ノ事實ハ證據ノ部ヲ朗讀ナクフ」トアリテ檢事ハ更ニ意見ヲ述ヘサルト同一ナリ原判決カ此不法ニ基ク其一審判決ヲ是認シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○第二審ニ於テ訴訟手續ノ正當ニ履踐セラレタル以上ハ第一審ニ於ケル訴訟手續上ノ瑕瑾ハ以テ上告ノ理由ト爲スナ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之レヲ棄却ス  
明治三十二年七月三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十二年第八〇一號  
明治三十二年七月四日宣告

○判決要旨

刑事訴訟法第二百十九條ノ規定ニ從ヒ朗讀スヘキ調書ノ必要ナルト否トヲ判別スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬ス

(參照) 判事ハ被告事件ニ付被告人ヲ訊問ス可シ必要ナル調書其他證據書類ハ書記ヲシテ朗讀セシメ又證人ノ供述ヲ聽キ其他ノ證據ノ取調ヲ爲ス可シ(刑事訴訟法第二項)

第一審 秋田地方裁判所 第二審 宮城控訴院  
被告人 黒子高智 辯護人 關 幸太郎

右ニ對スル詐欺取財被告事件ニ付明治三十二年六月三日宮城控訴院ニ於テ原判決ハ之ヲ取消被告高智ヲ重禁錮一年ニ處シ罰金貳拾圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス押收ノ書類ハ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ被告ニ於テ全部負擔ス可シト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
上告ノ趣意ハ原判決ハ違法ナリト云フニ在リテ其ノ不法ナリトスル點ヲ指摘セサルヲ以テ論旨ノ當否

ヲ判定スルニ由ナク上告ノ理由ナシ  
 擴張辯明書ノ趣旨ヲ要スルニ第一點ハ被告ト松之助間ノ行爲ハ合意上ニ成立シタルモノナルコトハ借用證書上申書英橋ノ豫審調書等ニ依リ明カナルニ原院ニ於テ合意上ニ成立シタル契約並ニ證書ヲ無視シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ違法ナリト云ヒ」第二ハ原院判決ニ身元保證金百五十圓ヲ納メ御用商人トナリ居ル云々トアレトモ是レ松之助ノ詐言ニ基クモノニシテ原院カ其詐言ヲ證據トシタルハ違法ナリト云ヒ」第三ハ御用商人ト用達商人ハ大ニ相違セルモノニシテ本件ハ運動上ノ都合ニ依リ裁縫方ノ用達商人ヲ出願スル目的ニ出テタルモノナリ然ルニ本件ノ被服請負ヲ御用商人ノ如ク判定セシハ理由ノ齟齬ナリト云ヒ」第四ハ百五十圓ハ被告カ用達商人ノ許可ヲ得タル上松之助ニ於テ支出スヘキ約定ニシテ合意上ニ成立シタル次第ニ付理由ノ齟齬ナリト云ヒ」第五ハ原院判決ニ百二十五圓ト前記反物云々トアリ右ハ證券二百十圓ノ内ニテ反物ヲ買ヒ求メ其差引計算上不足金七圓ヲ受取タルモノニシテ原院ノ認メタル事實ノ如クナラスト云フニ在リテ○之ヲ要スルニ何レニモ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難スルモノニシテ上告適法ノ理由ナシ」第六ハ原院判決ニ「被告ノ豫審調書ニ依レハ金二百拾圓ヲ信用上松之助ヨリ借受ケ云々其反物ハ或ハ賣拂ヒ云々」トアリ原院ハ果シテ之レニ信ヲ措キタルモノナレハ刑事訴訟法第二百三十九條ニ據リ他ノ證據ヲ取調フヘキニ之ヲ爲サ、ルハ違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原院判決右豫審調書ヲ被告ノ自白トシテ採用シタルニアラサルノミナラス其ノ

他ノ證據ヲ取調ヘテ斷案ノ材料ニ供シアレハ畢竟本論旨ハ原院判決ニ副ハサルモノトス」第七原院判決ニ採用シタル平野貞幹ノ豫審調書ニ依ルモ被告カ現ニ運動ニ盡力シ居リタルコトヲ見ルヘシ欺罔ノ事實ナク其他同人ノ證言ハ事實ニ符合セサルニ之ヲ證據トナシタルハ不法ナリト云ヒ」第八前段ハ寺澤盛岩屋英橋加賀谷松之助等共謀シテ被告等ヲ陷害スル爲メ告發ヲ爲シ重複ノ金員ヲ申立タルモノナルニ原院カ之ヲ信シテ有罪ノ判決ヲ下シタルハ不法ナリト云フニ在リテ○何レモ事實ノ認定證據以當否ヲ論難スルモノニシテ上告ノ理由トナラス」第八後段ハ加賀谷松之助ニ付テハ第一審判決ニ證人タルコトノ明記ナクハ刑事訴訟法第二百三條ノ定式ヲ履行シタル證人ニアラサルヘシ然ルニ原院ニ於テ其證言ヲ證據トナシ有罪ノ判決ヲ下シタルハ不法ニシテ大ニ私訴ニ關係アリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二百三條ノ規定ニ從ヒ同人ヲ證人トナシタルコトハ其ノ豫審調書ニ依リ明瞭ナレハ原院カ其證言ヲ採用シタルハ違法ニアラス元本件ニ付テハ私訴ノ提起ナクハ私訴ニ付キ論争スルハ原院判決ニ副ハサル論示ニシテ上告ノ理由ナキコト勿論ナリ」第九ハ原院ニ於テ證據調ヲ終リタル際被告ニ意見ノ有無ヲ問ヒ且ツ利益トナルヘキ證據ヲ差出スヘキコトヲ得ル旨ヲ告知セサリシハ違法ナリト云フニ在レトモ○原院ニ於テ處論ノ手續ヲ盡シタルコトハ公判始末書ニ明記シアリテ一モ論旨ノ如キ不法ノ廉ナシ

辯護人關幸太郎ノ擴張趣旨第一點ハ刑ノ言渡ヲ爲スニハ事實及ヒ法律ニ依リ其ノ理由ヲ明示スヘキハ



刑事訴訟法ノ命スル處ナリ然ルニ原判決書ヲ閱覽スルニ事實理由ハ明示シアレトモ法律適用ノ理由ヲ明示セズ只「依テ法律ヲ案スルニ刑法第三百九十條第一項第三百九十四條ニ該當スル」旨ヲ記シアル迄ニテ其之レヲ適用スヘキ理由ヲ明示セラレサルハ法律ニ違背スル裁判ナリト云フニ在レトモ○本案事實ニ適合スル法條ヲ掲ケ其事實カ該法條ニ該當スル旨ヲ明示シアル以上ハ法律ヲ適用シタル理由ハ明瞭ニシテ刑事訴訟法第二百三條ニ違背スルコトナシ

第二點原判決理由中其證據ニ採用セラレタル證人加賀谷松之助ノ明治三十二年二月二十日附豫審調書ニ(記錄四十枚目前半ページニ在リ(前略)貳拾八圓其ノ他數拾圓ヲ數度ニ持行キタリシモ)トアリ之ヲ原判決ノ證據ニ採用セラレタレトモ「其他數拾圓」ノ文字ハ挿入ニ係リ而シテ其挿入シタル數ノ記載無シ左レハ刑事訴訟法ノ規定ニ依リ其ノ變更増減ノ効無キニモ拘ラス之ヲ證據トシテ採用セラレタルハ違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二十一條ニ於テ字數ノ明記ヲ要スルハ削除ノ場合ノミニシテ挿入ニハ認印アレハ有効ナリトス然ルニ所論ノ調書中「其他數十圓」ノ挿入ニハ認印アルヲ以テ適法ニシテ原判決ノ探證ニ違法ノ點ナシ

第三點又原判決ノ證據トシテ採用セラレタル證人平野貞幹ノ豫審調書ニシテ且殊更ニ其證言中ヨリ摘採セラレタル文字中「ニ付」ノ二字挿入シアリ又「然ラハ其ノ受負人ハ誰ナリヤト話シタル處大町四丁目ノ遠藤小太郎ト云フ者ナル由ニ付キ」トアル小太郎ノ「小」ノ字ヲ挿入シアリ又「誰ニモ話サス」トアル

ル六字ノ挿入アレトモ其挿入シタル事ノ記載無シ然ルニ該調書ヲ其ノ儘ニ證據トシテ採用セラレタルハ前上告點ト同シク訴訟法ノ規定ニ背キ其ノ増減變更ノ効無キ調書ヲ採用シタル違法アリト云フニアレトモ○挿入ニハ認印ノミニヲ要シ挿入シタルコトヲ記載スルヲ要セサルヲ以テ其ノ挿入ハ有効ニシテ原判決カ此證言ヲ採用シタルハ失當ニアラス

第四點ハ原判決ノ證據トシテ採用セラレタル加賀谷松之助及平野貞幹ノ調書ヲ閱覽スルニ朱墨ヲ以テ塗抹シタル處其幾ケ所ナルヲ知ラス而カモ其塗抹シタル文字ハ原判決理由ニ採用セラレタル處多シ右ハ承審官ニ於テ記憶ノ爲メ其印ノ付セラレタル處ナルヘシト雖モ罪ノ有無ヲ判斷スヘキ重要ノ書類ニ如斯恰モ反古同様ニ歸スヘキ事ヲ爲スヘカラサルハ論ヲ俟タス既ニ如斯反古同様ニ塗抹セラレタル調書ナル以上ハ犯罪ノ證據トシテ採用セララルヘキ價值ヲ存セサルモ亦勿論ナリ然ルニ之ヲ斷罪ノ證據ニ供セラレタルハ不法ナリト云フニアレトモ○所論ノ調書ニ朱點ヲ施シタルモノト認ムルヲ得サルノミナラス好シ朱抹シタルモノトスルモ刑事訴訟法第二十一條ノ法式ヲ履行セサルヲ以テ其ノ朱抹ハ無効ニシテ其ノ朱點ヲ施シタル所ヲ取り證據ト爲シタルモ違法ニアラス

第五點ハ原審公判始末書中ニ「問其外澤山ノ證據物アルカ先刻表示シタルモノ、外ハ別ニ必要ナシト認メタル故一々申聞ケサルカ併シ一切ノ證據物件ヲ示スニ付辯解アレハ申立ヨ此時裁判長ハ押收ノ物件一切ヲ被告人ニ示シタリ答更ニ辯解スヘキコト無之問先刻來朗讀シ聞ケタル記錄ニ對シ意見アリヤ

答無之トアリ然ルニ法律上調書ノ朗讀ヲ要スル所以ハ裁判官ノ犯罪ノ事實ヲ認ムルニ必要ナル爲メノミニアラスシテ被告人カ其ノ利益ノ事實ヲ證明スルカ爲メニモ亦必要ナルハ勿論ナリ故ニ裁判官ハ必要無シト認メラルトモ尙之ヲ朗讀セシメサルヘカラス然ルニ原審裁判官ハ其ノ必要ナシトシテ朗讀ヲ省キ其朗讀ヲ略スニ就キテ訴訟關係人ノ意見ヲ問ハサリシハ全ク越權ノ處分ナリ既ニ越權ノ處分ナリ以テ爲シタル裁判ナル以上ハ法律ニ違背スル判決ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二百十九條ニ「必要ナル調書其他ノ證據書類ハ書記ヲシテ朗讀セシメ」トアリテ本案ヲ斷スルニ付キ必要ナル書類ヲ朗讀ズレハ足ルモノトス而シテ其ノ必要ナルト否ヲ判別スルハ事實裁判官ニ在リ故ニ原院ノ證據調ハ違法ニ非ラスシテ上告ハ其理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治三十二年七月四日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

○冒認ノ件

明治三十二年第七〇四號  
 明治三十二年七月七日宣告

○判決要旨

不動産ニ付テモ委託物費消罪ヲ構成ス

第一審 仙臺地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 今野宇太郎

右宇太郎ニ對スル冒認被告事件ニ付明治三十二年五月十一日宮城控訴院ニ於テ原判決ハ之レヲ取消ス  
 被告宇太郎ヲ重禁錮一月十五日ニ處シ罰金三圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス押收書類ハ各差出人ニ還付ス  
 ト言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告申立ヲ爲シ本院檢事與宮正治ハ附帶上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル處

被告人上告趣意書ノ要領ハ本件ノ地所ハ被告ノ先代ヨリ所有セルモノニシテ區ノ共有財産ニアラサルコトハ疑キニ先代ニ於テ其一部ヲ他ヘ讓渡タル際ニ他ヨリ異議スルモノナシ又町村制施行ノ後ニ於テモ名義ノ書換ヘチ爲サ、リシ等ノ事跡ニ徴シ自ラ明瞭ニシテ其後明治二十七年ニ至リ初メテ借地料ヲ區ヘ支拂フコトニ爲リタルモ其際被告ハ不在ニシテ諸事鈴木利助ナルモノニ委任シ置キタルヲ以テ被告ハ何事モ知悉セサリシナリ故ニ借地料ヲ支拂ヒタル事實ハ本件犯罪成立スルト否ヲ判斷スヘカラスシテ之レヲ斷定セシニハ其權限ニ遡リ所有ノ權果シテ何レニ在ルヤチ定メサルヘカラス然ルニ原判決

不動産ニ對スル委託物費消罪

ハ事茲ニ出テス借地料ヲ支拂ヒタル一事ノミヲ以テ被告ノ所有地ニアラスト判定シタルハ失當ナリ又被告ハ幼年ヨリ他所ニ在テ永ク家ニ居ラザリシヲ以テ地所ノ關係如何等ハ知悉セザリシニ依リ豫審ニ於ケル被告ノ陳述ハ確實ナラスシテ證據トスルニ足ラス假リニ原院カ認メタル如ク被告ニ犯罪アリトスルモ詐欺ノ未遂ニシテ已遂犯ニアラサルニ已遂ト處斷シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○本件ノ地所ハ元來原村字南目區ノ共有物ニシテ被告ハ只名義主タルニ過キサレトハ原院カ數多ノ證據ニ基キ詳説セル所ニシテ單ニ借地料ヲ支拂ヒタル事ヲ以テ直ニ被告ノ所有地ニアラスト速了シタルニアラス而シテ其詐欺ノ行爲ハ未遂ニシテ已遂ニアラストノ論旨ニ付テハ辯護士擴張書第一點ニ對シ説明スル如キ理由アルヲ以テ爰ニ其當否ヲ説明スルノ必要ナシ他ハ事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難スルニ過キササルヲ以テ上告ノ理由トナラス

辯護士擴張書第一點ハ原判決ハ本件事實ニ對シ刑法第三百九十五條後段第三百九十條第一項第三百九十四條ヲ適用セラレタリ然レトモ原判決ノ認ムル處ニヨレハ上告人ノ所爲ハ未タ以テ右法條ニ該當セサルモノナリ何トナレハ上告人ニ於テ南目區共有財産所有名義ヲ大友忠藏名義ニ移轉シタルモ是素リ原院ノ認ムル如ク表面上假裝ニ出テタルト明白ナレハ仲藏名義ニ移リシ以後ト雖モ其以前ハ何等ノ異ナル處ナキモノナリ即チ費消ノ實ナキ者ナリ且原判決ハ「字南目區ノ返還請求ヲ受クルニ當リ名ヲ親族協議ニ託シテ殊更時日ヲ遷延シ時ニ之レヲ拒ミタリト雖モ原院ノ認ムル事實證據ニ依ルニ單ニ親族

ニ協議シタル上云々ト陳述シタルモノニシテ即ハ仲藏名義ニナリ居ルニモ拘ハラズ親族ノ協議ヲ經由スルノミヲ唯一ノ要件トナシタルモノニシテ時日ヲ遷延シタルコトモナク之レヲ拒ミタルコトナキ次第ナリ況ンヤ原判決ハ「前記ノ土地ヲ詐欺ノ手段ニテ其儘自己ノ所有ニ歸セシメント企テ」ト云フモ毫モ其所謂詐欺ノ手段ナル者ナク結局費消ノ實ナキノミナラス詐欺ノ所爲ナキ者ナルヲ以テ到底該法條ニ間擬スヘカラサル者ナルニ之レヲ適用セラレタルハ失當ヲ免カレスト信スト云フニ在リ○因テ審案スルニ原院カ認メタル所ハ上告論旨ノ如ク被告ハ字南目區ヨリ返還請求ヲ受クルニ當リ名ヲ親族協議ニ託シテ時ニ其返還ヲ拒ミ若クハ假裝ノ賣買ヲ以テ所有名義ヲ他ニ移シタルニ止リ詐欺ノ手段ヲ施シタルモノト認ムヘキモノナキヲ以テ此事實ニ對シ刑法第三百九十五條後段ヲ適用シタルハ失當ナルヲ以テ其判決ハ破毀スヘキモノナルモ其名義ヲ他ニ移シタルハ則チ委託物費消ノ罪ヲ完了シタルモノナルヲ以テ費消ノ實ナキモノトノ論旨ハ不相互

第二點ハ原判決ハ「原町々長高澤平四郎ノ告訴狀押收ノ借地料領收證ニ依リ明ナリ」トスト云ヒ其認定事實ノ證據ニ供セラレタリ然レトモ高澤平四郎告訴狀中如何ナル記載ヲ指サヤ借地料領收證中何レノ部分ニヨリテ明カナルヤチ明示セサルモノニシテ證據ノ明示チ欠ク理由不備ノ失當アルヲ免カレスト信スト云フニ在レトモ○右告訴狀并借地料領收證ノ如キハ原判決舉證ノ主旨ニ於テ證據其物自體カ自カラ其内容ヲ示セルヲ以テ本論旨ハ相互タス

本院檢事附帶上告趣意ハ不動産ニ付テハ費消罪ヲ構成スヘキモノニアラサルヲ以テ原院カ認メタル事實ニ對シ刑法第三百九十五條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在レトモ○不動産ニ付テハ費消罪ヲ構成スヘキモノニシテ原院ノ認メタル事實ハ辯護士擴張書第一點ニ對シ説明スル如ク委託物費消ノ罪ニ該當スルヲ以テ本論旨ハ不立

右ノ理由ニ依リ辯護士擴張書第一點ニ基キ刑事訴訟法第二百八十七條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スルコト左ノ如シ

今野 宇太郎

原院ノ認メタル事實ニ依リ刑法第三百九十五條前段ニ照シ被告ヲ重禁錮一月ニ處シ押收書類ハ刑事訴訟法第三百二條ニ從ヒ差出人ニ送付ス

明治三十二年七月七日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

○誣告並ニ恐喝取財ノ件

明治三十二年第七七五號  
明治三十二年七月七日宣告

○判決要旨

(判旨第三點) 誣告罪ハ不實ノ告訴ヲ受クヘキ管轄官廳ニ爲スニ非サレハ成立セス

(判旨第七點) 被告人其供述ニ付増減變更ヲ申立タルニ拘ラス豫審判事再訊問ヲ爲サスシテ豫審ヲ終結スルモ之カ爲メ現ニ作成シタル調書ノ效力ニ影響ヲ及ホサス

(判旨第九點) 私訴判決ニ付テハ採用シタル證據ノ内容ヲ判文ニ明示スルヲ要セス

第一審 宇都宮地方裁判所栃木支部 第二審 宮城控訴院

被告人 古澤繁治

民事原告人 大野源右衛門

右繁治ニ對スル誣告並ニ恐喝取財被告事件ノ公訴及ヒ之ニ附帶ノ私訴ニ付明治三十二年五月三十日宮城控訴院ニ於テ原公訴判決中被告繁治ニ關スル部分並ニ原私訴判決ノ全部ハ之ヲ取消ス被告繁治ヲ重禁錮一年六月ニ處シ罰金二十圓ヲ附加ス私訴ハ之ヲ却下ス押收ノ書類ハ各差出人ニ還付ス公訴裁判費

誣告罪ノ成立○豫審調書ノ供述變更申立○私訴判決ノ證據說明

用中筆跡鑑定ニ關スル部分ハ被告繁治ニ於テ相被告タリシ稻葉源吉ト相連帶シテ負擔スヘシト言渡シタル第二審判決ニ對シ被告人及民事原告人ヨリ上告ヲ申立テタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

被告人上告ノ趣旨ハ原院カ本件審理ノ際必要ナル證據書類ノ朗讀ヲ爲サ、リジハ刑事訴訟法第二百十九條ニ違背シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院カ證據書類ノ朗讀ヲ爲シタルコトハ原院公判始末書ニ徴シ明カナレハ本論旨ハ其ノ理由ナシ

辯護士上告趣旨追加書ノ要旨第一點ハ本件誣告罪構成ニ必要ナル事實理由ハ告訴狀記載ノ事實カ不實ナルヤ否ヤニ在リ然ルニ原判決ニ依レハ其告訴狀ニ記載シタル事實カ如何ニ不實ナルヤ之レカ事實理由ノ見ルヘキモノナシ是レ刑事訴訟法第二百三條ニ違背シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決ヲ查スルニ被告ハ憤懣ノ餘大野又市外八名ヲ誣告シ輕罪ニ陷シ私憤ヲ漏サンコトヲ欲シ稻葉源吉ニ其ノ意ヲ告ケテ偽造セシメタル書翰一通及其ノ他ノ書翰ヲ同人ヨリ受取り而シテ大野又市外八外カ源吉ヲシテ再ヒ金圓ヲ騙取セシメントシタルモ被告ノ爲メ取押ヘラレタル旨ヲ記載シタル告訴狀ニ前記書翰ヲ添附シ且ツ偽造ノ書翰ハ田中藤右衛門ノ自筆ナル旨ヲモ記載シ之ヲ古河警察署ニ差出誣告シタル旨明記シアリテ其ノ前後ノ文章ヲ對照セハ告訴狀記載ノ事實ハ不實ナルコト自ラ判明ナレハ事實ノ理由ニ於テ欠ク處ナシ故ニ本論旨モ其ノ理由ナシ

判旨第三點

其第二點ハ刑事訴訟法第四十九條ニ依レハ告訴ハ犯罪ノ地若シクハ被告人所在地ノ檢事又ハ司法警察官ニ提起セサルヘカラス本件誣告ノ原因タル告訴事件ハ犯罪地及ヒ被告人處在地トモ栃木縣ニシテ茨城縣ニアラス然ルニ原判決ノ事實ニ依レハ古河警察署ニ告訴シタルモノニシテ該告訴ハ管轄違ナルヲ以テ正當ニ受理セラルヘキモノニ非ス故ニ古河警察署ニ提出シタリトノミテハ誣告罪ニ要スル正當ノ告訴ナル事實理由ヲ欠キタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○告訴狀ヲ閱スルニ本件誣告ノ原因タル告訴事件ノ相被告タリシ稻葉源吉ノ住處ハ茨城縣ナルヲ以テ古河警察署カ其告訴ヲ受理シタルハ正當ニシテ原判決ニ古河警察署ニ告訴シタル旨明示シアル上ハ同警察署カ正當ノ管轄ナルコトハ判文上別ニ之ヲ明示スルノ要ナキヲ以テ之ヲ明示セサルモ判決ニ事實ノ理由ヲ欠キタル不法アリト云フヲ得ス故ニ本論旨ハ相立タス

其ノ第三點ハ原判決證據ノ理由ニ證人宮内長太調書第三乃至第七問答被告ニ對スル何々ノ問源吉ニ對スル何々ノ問ニ對スル供述云々トアリテ判決自體ニ於テ其理由明瞭ナラサルニ依リ刑事訴訟法第二百三條ニ違背シタル理由不備ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○右問答ハ何レモ本件犯罪ノ遠因ニ關スル事項ニシテ犯罪構成ノ要素ニ關係ナキヲ以テ其ノ供述ノ顛末ヲ明示セサルモ判決ニ證據ノ理由ヲ欠キタル不法アリト云フヲ得ス故ニ本論旨ハ其ノ理由ナシ

其第四點ハ原判決カ掲ケタル證據中如何ナル證據ニ依リ被告カ惡意アルコト又被告カ不實ノ告訴ヲ爲

シタルコトヲ認定シタルヤ之ヲ知ルニ由ナキヲ以テ理由不備ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院ハ犯罪構成ニ關スル各證據ヲ湊合シテ被告ハ惡意アリ又被告カ不實ノ告訴ヲ爲シタルコトヲ認定シタルモノナルコトハ原判決證據ノ理由ニ徴シ明カナルヲ以テ本論旨モ其ノ理由ナシ

其第五點ハ原院公判始末書ニ別紙判決書ノ如ク言渡ヲ爲シトアルハ主文ノミノ言渡ノコトニシテ理由ノ朗讀告知ヲ爲シタル形跡ナキヲ以テ刑事訴訟法第二百四條第二項末段ニ違背シタル不法アリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ニ別紙判決書ノ如ク言渡ヲ爲シトアルハ即チ判決ノ主文及ヒ理由共其言渡ヲ爲シタル意ナルコト瞭然タルヲ以テ本論旨ハ其ノ謂レナシ

其第六點ハ豫審ニ於テ被告カ供述ノ變更増減ヲ申立ツルトキハ再訊問ヲ爲シ豫審判事ハ其ノ訊問及供述ヲ錄取シ被告人ニ讀聞カセ署名捺印セシメサルヘカラス然ルニ原院カ證據ト爲シタル被告第二回訊問調書ニ付テハ明治三十一年三月二十六日及ヒ四月二日附テ以テ増減變更ノ願書ヲ呈出シタルニ豫審判事カ其ノ後訊問ヲ爲サスシテ豫審決定ヲ爲シタルハ不當ナルノミナラス原院カ其ノ第二回ノ訊問調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在リ○依リテ案スルニ被告人ヨリ増減變更ノ申立アルニ不拘豫審判事カ再訊問ヲ爲サスシテ豫審決定ヲ爲シタルモ之レカ爲メ已ニ作成シタル調書ノ無効タルヘキ理ナキヲ以テ原院カ被告ノ第二回訊問調書ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ニ非ス故ニ本論旨ハ其ノ理由ナシ

別旨第七點

民事原告代理人上告ノ趣意ハ公判記錄カ證明スル如ク被告カ民事原告人ヲ恐喝シテ金員ヲ騙取シタルコト明瞭ナルニ原院カ民事原告人ノ請求ヲ却下シタルハ職權ヲ逸出シテ與ヘタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院ハ被告ノ犯罪ノ證據ヲ不十分ナリト認メ民事原告人ノ請求ヲ却下シタルモノニシテ本論旨ハ要スルニ原承審官ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨ヲ論難スルニ過キササルヲ以テ上告理由トナラス

別旨第九點

同辯明書ノ要旨第一點ハ原判決ハ上告人ノ請求ヲ排斥スルニ當リ證人大野又市同源右衛門ノ豫審調書又市外一名ノ告發狀ヲ援用シタルノミニシテ其ノ書類中如何ナル點ニ基キタリヤチ明示セサルハ違法ナリト云フニ在レトモ○私訴判決ニ於テハ別ニ其援用シタル證據書類ノ内容ヲ明示スヘシトノ規定ナキヲ以テ之ヲ明示セサルモ違法ニ非ス故ニ本論旨ハ其ノ理由ナシ

其第二點ハ被上告人カ工事受負運動費水門費トシテ金員ヲ上告人ヨリ受取リタリトハ之レカ支出ヲ爲シタルコトヲ被上告人ヨリ立證セサルヘカラス其立證ヲ爲サル以上ハ上告人ニ之ヲ返還スヘキハ勿論ナリ然ルニ原院カ其ノ事實ノ有無ヲ判示セス上告人ノ請求ヲ却下シタルハ理由不備ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ理由ニ依レハ上告人ハ被上告人ニ對シ運動費水門費トシテ金一千四百圓ヲ與フルコトヲ契約シタル上手形ヲ振出シ其ノ際示談ノ末手形金ノ支拂ヲ爲シタルモノナレハ其ノ手形ノ原因タル運動費水門費等ノ支出ノコトハ被上告人ヨリ立證スルノ必要ハ之レナク從テ其ノ事實ノ有無

ヲ判示スルノ要ナキヲ以テ本論旨モ其理由ナシ

其第三點ハ谷中村堤防復舊工事ノ際同村長タル被告上告人カ受負人ヨリ運動費ノ名義ヲ以テ金圓ヲ領收スルカ如キコトハ固ヨリ不正ノ事柄ニシテ受負人ニ債務ノ生スヘキ理ナシ然ルニ原判決カ「其債務ヲ認メテ云々」ト掲ケ債務ノ存立ヲ認メタル如ク判示シタルハ法則ニ違反スルモノナリト云フニ在レトモ○原院カ上告人ニ於テ其ノ債務ヲ認メテ其ノ支拂ヲ爲シタルハ云々ト認定シタルハ其ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ニシテ本論旨ハ該認定ヲ批難スルニ外ナラサルヲ以テ上告ノ理由トナラス

其第四點ハ原判決ノ認ムル如ク上告人カ谷中村ノ水門費トシテ金圓ヲ支出シタルモノトセハ被告上告人一個人ニ對スル債務ト認ムヘキモノニ非ス故ニ被告上告人カ自己ニ之ヲ取得シタリトセハ正當ノ原因ナキニ付之ヲ返還スルノ責メアルハ勿論ナリ然ルニ原院カ上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決私訴理由ノ全體ヲ通讀セハ金千四百圓ヲ被告ニ與フルコトヲ契約シアルハ谷中村長トシテ被告ニ對シ右契約ヲ爲シタリトノ文意ナルニ依リ本論旨モ上告ノ理由トナラス  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ何レモ之ヲ棄却ス  
私訴ニ關スル上告費用ハ私訴上告人ノ負擔トス

明治三十二年七月七日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

○毆打ノ件

明治三十二年第八八〇號  
明治三十二年八月二十三日宣告

○判決要旨

警察官吏カ犯罪捜査上犯人ト思料スヘキ者ニ對シ糺問ヲ爲ス以上ハ縱令現行犯人ニ非ス又告訴發ノ手續ヲ履踐セサルモ其嫌疑者ハ刑法第二百八十二條ニ所謂被告人ナリ

(參照) 裁判官檢事及ヒ警察官被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ陵虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第二百八十二條第一項)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院  
被告人 小林源太郎 辯護人 〔鈴木昌支 増田謙司〕

右毆打被告事件ニ付明治三十二年七月七日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ  
 上告趣旨ノ第一ハ被告ハ水上警察署詰警視廳巡查奉職中其長官タル村上次郎ノ指揮命令ニ出テタル所  
 爲ナルヲ以テ法律上其罪ヲ論スヘキモノニアラス然ルニ原院カ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ不法ナリト云フ  
 ニ在レトモ○原院ハ被告ノ所爲ヲ以テ其長官タル村上次郎ノ指揮命令ニ出テタルモノト認メタルニ非  
 ス故ニ本論旨ハ畢竟原判決ニ認メタル事實ヲ掲ケ來リテ徒ニ論難ヲ試ムルニ外ナラサレハ上告適法ノ  
 理由トナラス

同第二ハ松尾アカニ對シ罪狀ヲ吐露セシメント欲シ虚言ヲ吐キタリトテ東ネタル繩ヲ以テアカノ背部  
 ナ殿打シ又有合セタル筆二本ヲ以テアカノ右手ノ中指ヲ狹ミ以テ兩三回握約緊壓シ痛苦ヲ與ヘタリト  
 斷定セラレタルモ其犯行ヲ認ムヘキ證據ヲ明示セサル不法アリト云フニ在レトモ○原判決ハ被告ノ自  
 認證人松尾アカノ證言醫師ノ容體書診斷書等ノ證據ニ依リ右事實ヲ認メタル理由ヲ明示シアルヲ以テ  
 本論旨ハ亦上告ノ理由トナラス

辯護人鈴木昌玄上告擴張第一ノ趣旨ハ之ヲ要スルニ被告ハ金時計ノ物主村上次郎及ヒ其妻ノ兩名ヨリ  
 囑託ヲ受ケ個人ノ資格ヲ以テ竊取セシ嫌疑ノ事實ヲ松尾アカニ向テ聽糾シタルマテニテ敢テ巡查ノ資  
 格ヲ以テ職務上爲シタルモノニ非ス故ニ縱シヤ原院カ認メタル如キ行爲アリタリトスルモ警察官吏ノ  
 資格ヲ以テセシモノト云フヲ得ス又被告カ松尾アカノ聽糾方ヲ依頼セラレタルハ次郎カ時計ヲ失ヒタ

ル事實ヲ知得セシ翌日ニシテ最早現行犯トシテ處分シ得ヘキ場合ニアラス又次郎若シクハ其妻ヨリ告  
 訴告發ヲ爲セシニアラス被告モ亦アカヲ逮捕若クハ勾引シタルニアラサルハ勿論其筋ニ向テ公然告訴  
 告發ノ手續ヲ爲シタルニアラス故ニ松尾アカノ一方ヨリ云フトキハ未ダ刑事被告人トナラサルモノナ  
 リ然レハ縱シヤ原院ノ認メタル如キ犯行アリシトスルモ刑事被告人ニ對シ爲シタルモノト云フヲ得ス  
 旁ニ原院カ刑法第二百八十二條第一項ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○前段ハ原判  
 文ニ「被告共ハ警視廳巡查ニシテ水上警察署詰ト爲リ奉職中明治三十二年三月廿九日午前九時過頃當  
 時該警察署長東京市京橋區築地三丁目十五番地居住村上次郎方ノ下婢松尾アカヲ次郎所有ノ金時計ヲ  
 竊取シタル嫌疑者ナリトシ該警察署内ニ於テアカニ對シ其事柄ヲ問糾シ云々」ト記載シ明カニ警察官  
 吏ノ職務上ノ行爲タルコトヲ認定セリ而テ此認定タルヤ原豫審官ノ職權ニ屬シ他ヨリ容喙スルヲ得ス  
 又後段ハ警察官吏カ犯罪捜査上犯人ト思料スヘキ嫌疑アル者ニ就キ糾問ヲ爲ス以上ハ縱シヤ現行犯人  
 ニアラス又ハ告訴告發等ノ手續ヲ爲サルモ其嫌疑者ハ刑法第二百八十二條ニ所謂被告人タルヤ論ヲ  
 俟タサルニ依リ結局原院カ刑法第二百八十二條第一項ヲ適用シタルハ相當ナリトス

同第二點ノ要旨ハ原判文ニ「被告源太郎ハ有合セタル筆二本ヲ以テアカノ右手ノ中指ヲ狹ミ以テ兩三  
 回握約緊壓シ」トアリ然ルニ證人松尾アカノ陳述ニ徴スルニ兩三回トハ明言セス然テハ兩三回ト云フ  
 度數ヲ認定セシ證據ヲ更ニ明示セサルヘカラサルニ原判決ニ之ヲ明示セサルハ不法ナリト云ヒ」同第



三ノ要旨ハ握約緊壓トハアカノ言フ「グルグルシマシタ」ノ意味トセンカ否俚語ノグル／＼トハ繰回ハスコトナリ蓋シ握約緊壓ノ意味ハ證人ノ言ノ意味ト同一ナラサルコト說文學ニ徴シ明確ナリ如斯證人ノ言ト其意味ヲ異ニスル犯行方法ノ事實ヲ認定セシ時ハ其認定ノ基本タル證憑ヲ明示セサルヘカラサルニ原判決玆ニ出テサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニハ證據ニ依リ罪トナルヘキ事實ヲ認メタル理由ヲ明示シアリテ其兩三回ト云ヒ握約緊壓ト云フモ皆ナ其證據ノ判斷上認メタル事實ニ外ナラサレハ之レニ對シ證據ノ明示ヲ缺キタルモノト云フヲ得サルニ依リ右兩點ハ孰モ上告ノ理由トナラス

辯護人増田謙司上告趣旨擴張書ノ趣旨ハ要スルニ辯護人鈴木昌玄上告擴張第一點後段ト同一ナルヲ以テ更ニ説明ヲ付セサルニ依リ該論旨ニ對スル説明ニ依リ了解スヘシ

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十二年八月二十三日大審院休暇部公廷ニ於テ檢事奥宮正治立會宣告ス

# 大審院刑事判決録

第五輯 第八卷

## ○鑛業條例違反ノ件

明治三十二年第八九二號  
明治三十二年九月十八日宣告

### ○判決要旨

鑛業條例第七十八條ニ所謂特許ヲ得スシテ探掘ヲ爲シタル者トハ探掘者ノ有意ナルト無意ナルトヲ問ハス總テ之ヲ包含ス

(參照) 特許ヲ得スシテ探掘ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ特許ヲ得タル者ハ十五圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス (鑛業條例第七十八條)

第一審 福岡地方裁判所小倉支部 第二審 長崎控訴院

被告人 谷 茂平

特許ヲ得サル探掘

右茂平ニ對スル鑛業條例違犯被告事件ノ控訴ニ付明治三十二年七月三日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告代人安藤平七ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣意書ノ要旨ハ明治二十三年法律第八十七號鑛業條例第七十八條ニ特許ヲ得スシテ探掘ヲ爲シタル者又ハ詐欺ニ由リ特許ヲ得タル者トアルハ鑛業者カ特許ヲ得スシテ擅ニ探掘ヲ爲シ又ハ特許ヲ得ルニ詐欺ノ方法ニ由リタルモノ即チ有意犯ニ對スル法意ナレハ本件ノ如ク已ニ特許ヲ得テ事業ヲ爲シツ、アルモノカ無意ニ他ノ境域ヲ侵掘セル如キ場合ヲ包含セサルヲ以テ刑事上ノ責任ナシト云フニ在リ○然レトモ同條例ノ律意ヲ推スニ其第七十八條ニ特許ヲ得スシテ探掘ヲ爲シタル者トアルハ有意ト無意トヲ問ハス又鑛區ノ特許權ヲ有セシ者ナルト否ヤトヲ問ハス苟クモ其地ニ特許權ヲ有セスシテ其地域ニ侵掘シタルモノハ總テ之レヲ責罰スルノ律意ナリトス今ヤ被告カ不注意ノ爲メナルニモセヨ特許權ヲ有セサル隣地ニ侵掘シタル所爲ハ同條例ノ制裁ヲ免ル、ヲ得サルモノトス故ニ原院カ被告ノ所爲ニ對シ同條例ヲ適用處斷シタルハ相當ノコトナリトス

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之レヲ棄却ス  
上告豫納金ハ明治十九年勅令第四十六號ニ依リ其半額ヲ沒收ス

明治三十二年九月十八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○委託物費消ノ件

明治三十二年第八三八號  
明治三十二年九月十九日宣告

○判決要旨

(判旨第一點) 再犯ノ事實ヲ認定スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬ス  
(判旨第五點) 警察署ニ於テ違警罪ヲ處分スル場合ニ於ケル言渡書ノ  
謄本ハ刑事訴訟法ノ規定ニ基キ作成スヘキ文書ニ非ス

第一審 大阪地方裁判所 第二審 廣島控訴院

公訴私訴上告人 島谷利兵衛 辯護人 高木益太郎

私訴被上告人 松下彦兵衛

右委託物費消被告事件ニ付明治三十二年五月三十一日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル公私訴ノ判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣旨ノ第一ハ本件ハ計算ニ係ル事件ナルコトハ豫審以來各審級ニ於テ認めラル、所ニシテ被告カ大池大阪支店ニ於テ賣買シタル朝鮮米ノ代價ハ被告ヨリ高羽久吉へ交付シタルコトハ一件記録ニ依リ

再犯ノ認定○警察署ノ違警罪言渡書ノ方式

明了ナル處ナリ而シテ本件事實ニ密接ノ關係ヲ有シ且被告ニ利益ナル證據書類及ヒ證人ノ證明書ヲ一モ採ラス之ヲ無視シタル理由ヲ附ゼズ漫然被告ニ有罪ノ判決ヲ與ヘラレシハ不法ノ判決ナリト云ヒ」

其第二ハ原院ハ前掲ノ如キ計算上ニ伴フ證據書類ヲ無視シ單ニ民事原告人ノ虛言並ニ詐稱シタル告訴狀ヲ引用シテ斷罪ノ證トセラレシハ事實ニ齟齬アル失當ノ判決ナリト云フニ在レトモ○斷罪ノ資料ニ採用セサル證據ニ付テハ之カ理由ヲ附スルノ要ナキモノナリ其他ノ論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定採證ノ當否ヲ非難スルニ過キササルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス」其第三ハ被告カ島谷利兵衛ト改名シタルハ明治二十三年ニシテ明治十八年ニ於ケル利兵衛ハ先代即チ父ノ氏名ナリ然ルニ原院ニ於テ被告ハ明治十八年六月二十三日大阪輕罪裁判所ニ於テ郵便條例違犯ニ處セラレタルモノトシ再犯ニ處斷セラレシハ不法ナリト云フニ在レトモ○被告ハ明治十八年六月、中實際利兵衛ト改名シ居リテ郵便條例違犯ノ處分ヲ受ケタルモノナルコトハ原判決ノ明示スル處ニシテ是等ノ事實ヲ認定スルハ原院ノ職權ニ在ルヲ以テ之ヲ論争スルモ上告ノ理由トナラス

同辯明書ノ第一ハ上告趣旨第一第二ニ論述シタル事實ヲ反覆縷述シテ而シテ本件ノ計算上ニ直接ノ關係ヲ有スル賣上帳賣上傳表對照表內譯書及證人橋本島一外一名ノ證明ニ係ル歲入歲出表等ヲ一切度外視シ而シテ其之ヲ度外シタル理由ヲ附セサリシハ不當ノ判決ナリト云フニ在レトモ○本論ハ上告趣意書ノ第一第二ノ論旨ト結局同一ニ歸スルヲ以テ重テ説明スルノ要ナシ」其第二ハ被告カ大池大阪支店

判旨第一點

ニ於テノ朝鮮米代金ハ高羽久吉ニ交付セシヤ否ヤ中木共同店ヨリ前渡セシト云フ金員ハ被告ノ手ニ存在セシヤ否ノ二要點ハ本件有無罪ノ分ル、處ニシテ被告カ扱ヒタル朝鮮米ノ個數代金ハ賣上帳賣上傳票ニ所載ノ通り之ヲ添テ高羽久吉ニ交付シアルモノナリ而シテ此事實ハ久吉ニ於テモ豫審廷並ニ第一審公廷ニ於テ是認セシ所ノモノナリ如斯事實ナルニ原院ハ被告ニ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナラス」

其第三上告ハ趣意書第三ヲ敷衍スルニ在ルヲ以テ重テ説明スルノ要ナシ

第二辯明書ノ趣旨ハ本件事實ヲ反覆細說シ以テ上告趣意書第一第二ノ論旨ヲ敷衍スルニ過キササルヲ以テ重テ説明ヲ要セス

辯護人高木益太郎辯明書第一ハ通算スヘキ刑期ハ判決主文中ニ之ヲ明示スヘキモノトス然ルニ原判決主文ニハ「唯前發ノ刑ヲ本件ノ刑ニ通算ス」ト掲ケタルノミニテ其前發ノ刑期ノ幾干ナルヤ主文中ニ明示セサリシハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決理由ニ本件ハ被告カ拘留十日ニ處セラレタル有罪ナルモ重キニ付更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ本刑ニ通算スト掲ケ判決主文ニ前發ノ刑ヲ本刑ニ通算スト明示シタル以上ハ其主文ニ於テ特ニ前發刑ノ日數ヲ記載セサルモ之ヲ以テ不法ナリト云フヲ得ス」第二ハ原判決理由ニ「被告人ハ明治三十一年五月二十九日大阪府西區警察署ニ於テ拘留十日ノ處分ヲ受タル事ハ同署ノ雇石黒兼善ノ作リタル言渡廢本ニ其旨記載アルニ依リ明カナリ」ト掲ケアリ依テ

該贖本ヲ視ルニ只「履石黒兼善」トノミアリテ原判決ニ掲ケル如ク「大阪府西區警察署雇」タルコトノ記載ナキノミナラス其言渡主文ノ部ニアル拘留ノ二文字ハ科料ノ二文字ヲ改メタル事跡アリテ之レニ何人ノ認印モ施シアラサルヲ以テ乃チ無効ノ變更ト認ムルノ他ナク(刑事訴訟法第二十一條)殊ニ其贖本ヲ作リタル場所ノ記載ナキヲ以テ見レハ無効ノ書類ナルコト明ナリトス故ニ原院如斯不適法ノ文書ニ基キ前提ノ如ク判斷シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○警察署ニ於テ違警罪ヲ處分スルニ付テハ裁判ノ正式ヲ用キス違警罪即決例ニ依ルヘキモノナレハ其言渡書贖本ノ如キハ刑事訴訟法ノ規定ニ基キ作成スヘキ文書ニアラサルヲ以テ假令論旨ノ如キ事實アリトスルモ之レカ爲メ其書類ノ無効ニ歸スヘキモノニアラス故ニ原院カ之ヲ採用シタルハ不法ニアラサルヲ以テ上告ハ其理由ナシ

判旨第五點

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件公訴私訴ノ上告ハ之ヲ棄却ス  
私訴上告費用ハ被告人ノ負擔トス

明治三十二年九月十九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事奥宮正治立會宣告ス

○有夫姦ノ件

明治三十二年第九七三號  
明治三十二年九月二十一日宣告

○判決要旨

告訴ヲ受クル官吏カ犯罪ノ自首ト同時ニ告訴ヲ受ケタル場合ニ於テ之ヲ一ノ文書ニ錄取シテ署名捺印セシメタルトキハ其調書ハ自首ト告訴トヲ兼ヌルモノトス

第一審 札幌地方裁判所 第二審 函館控訴院

被告人 中村英雄 辯護人 稻垣勝藏

右有夫姦被告事件ニ付明治三十二年七月十五日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不當トシ被告辯護人稻垣勝藏ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ  
上告趣意ノ第一ハ他人ニ對スル犯罪ヲ申告スル之レヲ告訴ト云ヒ自己ニ係ル犯罪ヲ申告スル之レヲ自首ト云フ刑事手續上申告者ノ資格將テ其效果ニ於テ大差別ヲ有スルハ刑法第八十五條及ヒ刑事訴訟法第五十一條ノ規定ニ照シ明カニシテ復タ多言ヲ要セス而シテ原判決ニ於テ親告罪タル被告事件ニ對シ本夫タル田代辰十郎カ自己ノ毆打創傷罪ヲ首服シタル自首調書ヲ採用シテ公訴提起ニ必要ナル親告ニ充當シ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○該自首調書中ニ「自分ハ勿論姦夫姦婦等

モ充分ノ御處分ヲ願ヒマス」ト記載シアリテ自己ノ犯罪ヲ自首スルト同時ニ犯姦罪ニ付公權ノ發動ヲ促シタル事蹟明確ナルニ依リ原院カ是レヲ以テ告訴ト認メ刑法第三百五十三條第二ノ要件ヲ具備スルモノトシ處斷シタルハ違法ニアラス

同第二ハ他人ニ對シ犯罪アリトシ告訴ヲ爲スニ當テハ文書ナルト將タ口述ナルトヲ問ハス一定ノ形式ヲ要ス而シテ口頭告訴ノ場合ニ於テハ其申告ハ他人ノ犯罪ニ係ル告訴ナラサルヘカラス告訴ヲ受ケタル官吏ナラサルヘカラス告訴人トシテ署名捺印セサルヘカラス然ルニ原院ニ於テ被害者ノ自カラ隱秘ヲ破テ公權處分ニ依頼スルノ意思ヲ表示シタル以上ハ形式ノ如何ハ決シテ告訴ノ効力ヲ左右スルモノニアラストシテ突鑿相容レサル自首調書ヲ採テ公訴ニ必要ナル告訴調書ニ流用融通シ親告罪タル被告事件ニ付有罪ノ言渡ヲ爲シタルハ刑事訴訟法第五十一條ヲ度外視シタル不法アリト云フニ在レトモ○右自首調書ハ告訴ヲ受クル所ノ官吏カ犯罪ノ自首ト同時ニ告訴ヲ受ケタルニ依リ之ヲ一箇ノ文書ニ錄取シテ署名捺印セシメタルモノニシテ表題ハ單ニ自首調書トノミアルモ其内容ニ至リテハ自首ト告訴トヲ相兼スル所ノ調書ナルヲ以テ原院カ被告ノ犯姦罪ニ對シ該調書ヲ以テ告訴調書ト看做シ處斷シタルハ不法ニアラス

同第三ハ本件第一審判決ハ被告有罪ノ證據トシテ被告カ札幌警察署ニ於ケル尋問調書ヲ採用セリ是レ親告アラサル將タ現行犯ナラサル被告事件ニ對シ容スヘカラサル探證法ニシテ原判決ノ之レヲ排斥シ

タルハ素ヨリ當然ナルモ之ヲ排斥スルニ付テ理由ヲ附セサル理由不備ノ不法アリト云フニアレトモ○縱シヤ上告論旨ノ如ク第一審判決ニ於テ被告カ札幌警察署ニ於ケル尋問調書ヲ罪證ニ供シタルハ不法ナリトスルモ原院ハ他ノ點ニ於テ第一審判決ヲ取消シタルヲ以テ特ニ尋問調書ノ點ニ付排斥ノ理由ヲ付セサルモ理由不備ト云フヲ得サルニヨリ到底上告ノ理由トナラス

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之レヲ棄却ス  
明治三十二年九月二十一日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事奥宮正治立會宣告ス

○官文書變造行使詐欺取財ノ件

明治三十二年第八七號  
明治三十二年九月二十二日宣告

○判決要旨

(判旨第一點) 捺印シタル委任狀用紙ヲ承諾以外ノ事項ニ使用シタル行爲ハ印影盜用罪ヲ構成ス

(判旨第四點) 返リ證書ノ掛ケ紙ヲ取除キ署名捺印ノ部分ヲ殘シ以テ

捺印白紙ノ承諾外ノ使用○古證書ノ利用

捺印白紙ノ承諾外ノ使用○古證書ノ利用

十

擅ニ賣戻シ證書ヲ作成シタル所爲ハ證書ノ變造ニ非スシテ偽造ナリ

第一審 鳥取地方裁判所

第二審 名古屋控訴院

被告人 青砥長藏

右官文書變造行使詐欺取財被告事件ニ付キ明治三十二年六月二十三日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣意書ハ原院ノ判決ハ法律ニ違背シタル不法ノ裁判ナルコト右ハ期日切迫ニ付詳細陳述スル能ハス追テ趣意擴張書ヲ以テ辯明スト云ヒ」其擴張書第一點ハ要スルニ私印盜用ナルモノハ總テ他人ノ見聞セサル所ニ於テセサル可カラス然ルニ本件ハ武平名下ニ武平ヲシテ捺印セシメタル事實ヲ認メ乍ラ刑法第二百八條ニ依リ私印盜用罪ニ問ヒタルハ則チ擬律ノ錯誤ナリ假リニ盜用罪アリトセハ其事實ノ明示ナカルヘカラス然ルニ原判決ハ之ニ屬スル說明ヲモ與ヘス刑ノ適用ニ至リ突然私印盜用トセラレタルハ事實理由不備ノ判決ニシテ到底破毀ノ原由アルヲ免カレスト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告ハ藤澤武平ヲ欺キ委任狀用紙等ノ武平名下ニ調印セシメ之レヲ武平カ承諾シタル以外ノ目的ニ使用シタル事實ヲ明示シ之レヲ以テ私印盜用罪トシテ刑法第二百八條第二項第一項第二項第二十二條ニ問擬シタルモノナレハ私印盜用罪ヲ認メタル事實理由ニ於テ欠クル所ナク且ツ法律ノ適用亦相當ナルヲ以

判旨第一點

テ本論旨ハ其理由ナシ

同第二點及ヒ擴張追加書同二回追加書ハ其趣旨明瞭ヲ欠クト雖モ要スルニ原判決第一ノ事實ニ付テハ被告ハ山林ヲ賣却シタルモノナルニ武平ニ於テ山林ニアラス宅地ヲ買受ケタリト不實ノ申立ヲ爲シ又第二ノ事實ニ付テハ買戻ノ約アリタルヲ以テ格外廉價ニ賣却シタルモノナリ然ルニ武平ニ於テ右買戻契約ヲ無効ナラシメンカ爲メ事實ヲ虛構シタルモノナリ故ニ被告カ犯罪ノ證據ハ一トシテアルコトナク反テ無罪ノ證據許多ナルニ拘ラス之カ說明ヲモ與ヘスシテ原院ハ被告ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在ルカ如シ○然レトモ事實ノ認定證據ノ採擇ハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ之レニ對シ論難スルモ上告ノ理由トナラス又原院カ採用セサル證據ニ對シテハ必スシモ之レヲ排斥スルノ理由ヲ說明セサルモ不法ニアラサルヲ以テ本論旨ハ總テ相立タス

同第三追加擴張書第一點ハ原判決中「登記濟ノ公證ヲ得タル後被告ハ其證書中山林ノ二字ニ貼紙ヲ爲シ之レヲ宅地ト定メ又タ地價二三錢四厘トアル錢ノ字ヲ圓ノ字ニ描改シ宅地賣渡證書ノ如ク變造シ云々」トアルモ果シテ之レヲ以テ事實ナリトセハ藤澤武平父子ハ盲目ナルカ如シ然レトモ同人等ハ固ヨリ盲目ニアラサレハ原判決ノ認定ハ不當モ亦甚シ其實質ハ被告ヨリ該證書ヲ武平ニ交付シタル後數月ヲ經テ武平ノ承諾ヲ得テ之レヲ訂正シタルモノナレハ犯罪トナルヘキ事實ニアラスト云フニ在レトモ○之レ亦事實認定ノ非難ニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由ナシ

捺印白紙ノ承諾外ノ使用○古證書ノ利用

十一

其第二點ハ要スルニ原判決中一第二四筆ノ宅地ヲ騙取スル方法ニ付テハ云々被告ハ豫備シタル青罨紙中證券印紙貼用并ニ證書差出人ノ署名捺印及ヒ其罪名ヲ記入スル位置ヲ除キ其中間即チ地目本文年月日ヲ記載ス可キ位地ニ罨紙同様ノ罨紙ヲ貼リ掛ケ恰モ一紙ノ如ク見得ヘキ用紙ヲ差出シ之ニ文詞ヲ記入シ武平名下並ニ印紙貼用ノ箇所ニ押印セシメ之レヲ受取リタル後其貼リ掛ケタル罨紙ヲ剝取リテ武平ノ署名捺印被告ノ署名等ノ殘リタル白紙罨紙トナシ之レニ明治二十八年十月二十三日附ニテ前顯四筆ノ宅地ヲ明治三十年十二月三十日限り四十四圓九十九錢ニテ賣戻ス可キ旨ノ文詞ヲ記入シ以テ返リ證ト題スル賣戻證書ヲ偽造シ云々トアルモ斯ル事實ハ如何ニ被告ハ巧ミナルモ決シテ爲シ得ヘキコトニアラス之レ畢竟武平等カ利慾ニ惑ヒ無實ノコトヲ陳述スルモノナリ而シテ告訴狀拔書第一項乃至第八項中被告カ妻梅野ヲ以テ民事ノ訴ヲ爲シタル口頭辯論ノ拔書等アルモ何レモ告訴人カ自己ノ便利ヲ計リタルモノニシテ證據トナル可キモノニアラス其第九項ハ全ク被告カ無罪ノ證據ニシテ第八項中ノ事實ヲ打消スモノナリ又假ニ被告ニ如此犯罪行爲アリトスルモ私書變造ノ罪ハ構成ス可キモ私書偽造印鑑盜用罪ハ構成セサルモノトス何トナレハ本人ノ承諾上作リタル證書ノ幾部ヲ變更シタルニ過キサレハナリ隨テ印鑑モ本人カ承諾上押捺シタルモノナレハ盜用トイフヲ得サレハナリ故ニ原判決ハ擬律錯誤ヲ免カレスト云フニ在レトモ

○前段ハ事實ノ認定證據採擇ノ非難ニ過キサレハ上告ノ理由ナシ其後段ニ付キ原判決ヲ閱スルニ被告ハ武平ヲシテ作ラシメタル返リ證書ノ掛ケ紙ヲ取除キ武平ノ署名

附第四點

捺印等ノ部分ヲ殘シ白紙罨紙トナシ以テ擅ニ賣戻シ證書ヲ作成シタルモノナレハ證書ヲ變造シタルニアラスシテ證書ヲ偽造シタルモノナルコト辯ヲ竣タス故ニ原判決ハ擬律錯誤ノ點ナシ又右賣戻證書ニ付テハ原判決ニ於テ私印盜用ノ所爲ヲ罰シタルコトナキヲ以テ被告ノ誤解ニ過キササルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之レヲ棄却ス

明治三十二年九月二十二日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○酒精營業稅法違犯ノ件

明治三十二年第九一五號  
明治三十二年九月二十二日宣告

○判決要旨

判決確定以前ニ於テ法律ノ廢止セラレタルトキハ被告事件罪ト成ラサルモノトシテ無罪ヲ言渡スヘキモノトス

第一審 千葉地方裁判所八日市場支部

第二審 宮城控訴院

被告人 川口力藏

判決確定以前ニ於ケル法律ノ廢止



右酒精營業稅法違犯被告事件ニ付キ明治三十二年七月六日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル所辯護士上告趣意擴張書第一點ハ本件ノ事實ニ對シ原判決ノ適用シタル明治二十六年法律第十七號酒精營業稅法ハ明治三十一年法律第二十六號ヲ以テ廢止セラレ而シテ該法律ハ明治三十二年八月十五日施行セラレタルニ付テハ本件ノ公訴權ハ刑事訴訟法第六條第四號ニ依リ消滅ニ歸シタルヲ以テ本案被告事件ハ免訴相成タシト云フニ在リ○因テ審案スルニ酒精營業稅法ハ論旨ノ如ク明治三十二年八月十五日以後廢止セラレタルヲ以テ原判決ハ其判決當時ニ在テハ正當ナリトスルモ該法ノ廢止セラレタル今日ニ於テハ刑事訴訟法第六條第四號ヲ當行ス可キモノナルニ付キ到底破毀セサル可カラス已ニ此點ヲ以テ原判決全部ヲ破毀スル上ハ他ノ論旨ニ付テハ別ニ説明ヲ要セス

川口力藏

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十七條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ直チニ本院ニ於テ判決スル左ノ如シ  
 原院カ認メタル事實ニ依リ刑事訴訟法第二百二十四條被告事件罪トナラサルトキ云々トアルニ照シ無罪ヲ言渡ス

明治三十二年九月二十二日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○私印偽造行使詐欺取財ノ件

明治三十二年第九一八號  
 明治三十二年九月二十二日宣告

○判決要旨

(判旨第二點) 被告人數名アル場合ニ於テ公訴裁判費用ニ關シ其負擔ノ割合ヲ定ムルハ事實承審官ノ職權ニ屬ス  
 (判旨第六點) 辯護人ヨリ公判開廷ニ付テノ受書ヲ呈出シタル以上ハ更ニ呼出狀ヲ發スルコトナク開廷スルモ違法ニアラス

第一審 盛岡地方裁判所警非支部 第二級 宮城控訴院

公訴私訴上告人 佐々木武三郎 辯護人 村松山壽

公訴上告人 三浦常之進

私訴被上告人 千葉龍左衛門

右佐々木武三郎三浦常之進ニ對スル私書偽造行使詐欺取財事件ノ控訴ニ付キ明治三十二年七月六日宮城控訴院カ原判決ハ之ヲ取消ス被告武三郎常之進ヲ各重禁錮十月ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス公訴裁判費用ハ被告武三郎常之進ノ連帶負擔トス押收物件ハ各差出人ニ還付ス被告武三郎ハ金六

公訴裁判費用ノ負擔○辯護人ニ對スル呼出

十圓並ニ之ニ對スル明治三十二年四月十日私訴提起ノ日ヨリ完済ニ至ルマテ年五朱ノ利金ヲ付シ民事原告人へ賠償ス可シ私訴費用ハ總テ被告ノ負擔トスト言渡シタル判決中被告武三郎ハ公私訴ノ判決ニ對シ被告常之進ハ公訴判決ニ對シ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

被告武三郎上告趣旨ノ要旨第一點ハ原判決當事者表示ノ部ニ上告人ノ氏名ノ上ニノミ被告人トアルモ三浦常之進外二名ノ氏名ノ上ニハ被告人ナルコトノ記載ナケレハ右三名ハ刑事被告人ナルカ將タ民事被告ナルカ又其内何人カ民事被告人ナルカ判明ナラス即チ判決ニ當事者ノ揭示ナキ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○上告人ノ氏名ノ上ニ被告人ト記載シアリテ其當事者タルコト分明ナル上ハ相被告ノ氏名ノ上ニ其記載ナカリシトテ是レヲ以テ上告ノ理由ト爲スナ得ス』其第二點ハ刑事訴訟法第二百一條第二項ニ依リ本件檢事ノ控訴ニ係ル小山初次櫻井五七兩名ノ負擔部分ニ付テハ國庫之ヲ負擔セサルヘカラサルモノナルニ原院カ其部分ヲ控除セス公訴裁判費用ノ全部ヲ被告武三郎常之進ノ連帶負擔ト爲シタルハ法則ヲ適用セサル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院カ命シタル公訴裁判費用ハ本案被告事件ノ鑑定費用ニシテ刑事訴訟法第二百一條第二項ハ免訴又無罪ノ言渡ヲ爲シ公訴裁判費用ヲ負擔セシム可キ被告人ナキ場合ニ於テ國庫之ヲ負擔ストノ法意ナルノミナラス公訴裁判費用負擔ノ割合ヲ定ムルハ一ニ原承審官ノ職權ニ屬スルヲ以テ原院カ公訴裁判費用全部ノ連帶負擔ヲ上告人ニ命シタ

判旨第二點

ルハ相當ニシテ違法ニ非ス』其第三點ハ原院ハ本件ノ私書偽造行使罪ノ成立セサルコトヲ斷定シタルヲ以テ本件ニ付テハ單ニ詐欺取財ノ一罪アルノミ然ルニ原院ハ私書偽造行使ハ詐欺取財ト相俟テ實質上ノ一罪ヲ構成スルモノナレハ之ニ對シ別ニ無罪ヲ言渡ス可キモノニ非ストシテ無罪ノ言渡ヲ爲サス且詐欺取財ヲ處斷セシハ私書偽造行使罪ハ敢テ問フテ要セサルモノトシ比較的輕キ罪ヲ以テ重キ罪ヲ吸收セシメタルハ刑事訴訟法第二百六十九條第九號ニ該當シタル判決ナリト云ニ在レトモ○本案ハ私書偽造行使ハ詐欺取財ノ事件ニシテ其私書偽造行使ハ詐欺取財ヲ犯スニ因リタル者ナリトノコトナルヲ以テ其所爲ハ實質上ノ一罪ニシテ二罪トシテ論ス可キモノニ非ス故ニ私書偽造行使ノ點ヲ無罪トスルモ之カ爲メ特ニ判決ヲ與フヘキモノニ非ス又輕罪ノ刑ニ付テハ所犯ノ情狀ニ依リ其輕重ヲ定ムルハ原承審官ノ職權ニ屬スルヲ以テ實質上ノ一罪ノ場合ニ於テ詐欺取財罪ヲ以テ私書偽造罪ヨリ重シトスルモ敢テ違法ニ非ルノミナラス本案ニ於テ私書偽造行使ノ點ハ無罪ナリト認メタルモノニシテ詐欺取財ヲ以テ私書偽造行使罪ヲ吸收セシメタルモノニ非ス要スルニ本論旨ハ上告適法ノ理由トナラス』其第四點ハ以上ノ理由ニ依リ公訴判決ノ違法ナル上ハ之ヲ引用シタル私訴判決モ亦違法ナリト云ニ在レトモ○公訴上告趣意ニ對シ説明シタル如ク上告ノ理由ナキヲ以テ私訴上告趣意モ亦其理由ナキモノトス被告常之進上告趣意書第一點乃至第三點ハ要スルニ被告武三郎上告趣意書第一乃至第三點ト其趣意全ク同一ナルヲ以テ重ネテ説明ヲ爲サス被告武三郎上告趣意ニ對スル説明ニ依リテ了解スヘシ

辯護人村松山壽上告趣意擴張書ノ要旨第一點ハ第一審公判始末書ヲ檢スルニ立會檢事ハ伴長惠ナルニ判決書ニハ檢事近藤誠關與シタル旨ノ記載アリテ裁判所ノ構成ヲ欠キタル違法アルニアリ第二審判決モ亦從テ失當ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○第一審判決ニ違法ノ廉アリテ之レヲ取消シ原院ニ於テ更ラニ判決ヲ與ヘタルモノナレハ假令第一審判決ニ上告所論ノ如キ瑕瑾アリトスルモ原判決ニ對スル上告ノ理由ト爲スニ足ラス』其第二點ハ上告人ノ届出タル辯護人鈴木次郎ニ對シ適式ノ呼出狀ヲ發セズ同人ノ出廷ナキニ拘ハラス公判ヲ開廷シタルハ辯護權ヲ行使セシメサル違法アルモノナリト云フニ在レトモ○同辯護人ハ明治三十二年六月十三日附ヲ以テ同月二十九日午前八時公判開廷ニ付テノ受書ヲ原院ニ呈出シ置キ乍ラ開廷期日ニ出頭セサリシモノナレハ原院カ更ラニ同人ニ對シ呼出狀ヲ發スルコトナク公判ヲ開キタリトテ辯護權ヲ行使セシメサリシ違法アリト云フヲ得ス』其第三點ハ前述ノ如ク公訴判決ニシテ不法ナル上ハ之レニ基キ與ヘタル私訴判決モ亦不法ナリト云フニ在レトモ○公訴上告趣意ニ對シ説明シタル如ク上告ノ理由ナキヲ以テ私訴上告趣意モ亦其理由ナキモノトス右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ總テ之ヲ棄却ス私訴上告費用ハ私訴上告人ノ負擔トス

明治三十二年九月二十二日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

判旨第六點

○私印盜用等ノ件

明治三十二年第八五五號  
明治三十二年九月二十五日宣告

○判決要旨

(判旨第一點) 私印盜用罪ハ印影ヲ盜捺シタル證書ヲ行使スルニ因テ成立ス從テ印影盜捺ノ日時場所ヲ明示スルノ必要ナシ  
(判旨第二點) 代理權限ナキ者ニシテ擅ニ文書ニ代人ト記入シテ行使シタル所爲ハ文書偽造行使罪ヲ構成ス  
(判旨第十四點) 刑事裁判所ニ於テ公訴附帶ノ私訴ヲ審理判決スルニハ總テ民事訴訟法ニ則ルヘキモノニ非ス

第一審 金澤地方裁判所 第二審 函館控訴院

公訴上告人 秋野安造 辯護人 (佐藤龜之丞 高木益太郎)

私訴上告人 (龜井シヅ子 小西八郎兵衛) 訴訟代理人 八木橋榮吉

私訴被上告人 大越タマ

私印盜用罪成立ノ時期○代理權ナキ者ノ代人ノ記入○私訴ノ審理

右安造カ私印盗用私書偽造行使詐欺取財被告事件並ニ附帶ノ私訴事件ニ付明治三十二年六月十七日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不當トシ被告安造ハ公訴判決ニ對シ龜井シノ小西八郎兵衛ハ私訴判決ニ對シ執レモ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ  
被告安造上告趣意ノ第一ハ原判決ノ事實並ニ理由ノ部前段ニ於テ私印盗用ノ所爲アルコトヲ認メ而シテ其日時及ヒ場所ハ判然ナラスト判示シタルニ拘ハラス直ニ之レヲ罰シタルハ事實上ノ理由ヲ付セサル瑕瑾アリ如何トナレハ原判決ハ明治二十六年中離婚トナリタルモタマトノ交情ヲ繼續シ其ノ間ニ於テ盗用シタリト認メタルヲ以テ二十六年後七年ヲ經タル今日ニ於テハ日時ノ前後ニ依リ時効ノ結果公訴權ノ消滅セル事件ナルヤヲ保シ難ケレハナリ去レハ原判決カ成立ノ日時不明ナルモ尙ホ之レヲ罰セシニハ須ラシク時効ニ罹ラサル相當ノ理由ヲ明示シテ犯罪成立ニ關スル事實上ノ理由ト爲サ、ルヘカラス然ルニ其玆ニ出テサルハ結局之レヲ罰シタル當否ヲ鑑別スルニ由ナキ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ヲ閱スルニ私印盗捺ノ場所並ニ月日ハ判明ナラストアルモ其私印ヲ盗捺シテ偽造シタル金千圓ノ借用證書及ヒ登記委任狀ハ明治三十年九月廿五日ニ於テ之レヲ行使シ同金七百圓ノ借用證書及ヒ登記委任狀ハ明治三十一年三月七日ニ於テ之レヲ行使シタル事實明確ナリ而シテ私印盗用罪ハ其印影ヲ盗捺シタル場所及ヒ日時ノ如何ニ拘ラス現ニ其證書等ヲ行使シタル日時ニ於テ成立スルモノナ

判旨第一點

レハ、原、院、カ、本、件、ニ、於、テ、時、効、ノ、如、何、ニ、論、及、セ、サ、ル、ハ、當、然、ニ、シ、テ、本、論、旨、ハ、上、告、ノ、理、由、ト、ナ、ラ、ス、

同第二ハ原判決ハ登記願書ヲ偽造行使シタリト爲シ之レヲ罰シタルモ該願書ハ原判決ノ認ムル如ク被告ノ名義ヲ以テ呈出シタルモノニシテ偶々大越タマ代人ト記入シタルモノニ過キス去レハ假令タマノ代理人ニアラストスルモ是單ニ權限ナシト云フニ止マリ文書ノ記錄者ハ被告ニシテ記錄者ノ名義モ亦被告ナレハ決シテ之ヲ偽造ト云フヲ得ス然ルニ原判決カ偽造ニ問ヒタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在

判旨第二點

レトモ○縱シヤ被告人ノ名義ヲ用ヒタルニモセヨ擅ニ代人ト記入シ其資格ヲ詐ハリ作製シタルモノナルニ依リ原院カ之レヲ偽造トシテ處斷シタルハ相當ナリ  
同第三ハ原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ第一ノ所爲ニ付テハ同月二十五日附ヲ以テタマ所有ニ係ル宅地八十三坪四合ヲ書入トシタル云々右日附ノ當日該三通ノ偽造證書ヲ函館區裁判所ニ提出シ之レカ登記ヲ受ケルト判定シ又第二ノ所爲ニ付テハ「同月三日附ヲ用キタマ所有ニ係ル宅地百十一坪三步五厘畦地三坪六合ヲ書入ト爲シタル云々右日附ノ當日該偽造文書三通ヲ函館區裁判所ニ呈出シ登記ヲ經由シ」ト判定シ第一第二ノ所爲共各文書ハ同時ニ同一ノ場所ニテ行使シタルコトヲ認メタルニ拘ハラス此事實ニ對シ法律適用ノ部ニ於テ「之ヲ法律ニ擬スルニ右被告カ第一第二ノ所爲中登記願書偽造行使ノ點ヲ除キタマ名義ノ私書ヲ偽造行使シタル各所爲ハ共ニ刑法第二百十條第一項同第二百十二條ニ該リ登記願書偽造行使ノ各所爲ハ共ニ同第二百十條第二項同第二百十二條ニ該リ云々右文書ハ何レモ詐

欺ノ用途ニ供シタルモノナルヲ以テ同第三百九十條第二項ニ照シ何レモ詐欺取財ノ所爲ヲ重シトシ云々ト判決シ各所爲ニ付各一罪トシテ擬律シタルハ不法ナリ如何トナレハ同一ノ目的ヲ以テ同時ニ二通以上ノ偽造文書ヲ同一ノ場所ニ於テ行使シタル所爲ハ一所爲ニシテ決シテ二個以上ノ犯罪行爲ニアラサレハナリ然ルニ原判決カ前顯ノ如ク判決シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○原判文ニ「右被告カ第一第二ノ所爲中登記願書偽造行使ノ點ヲ除キタマ名義ノ私書ヲ偽造行使シタル各所爲ハ共ニ刑法第二百十條第一項同第二百十二條ニ該リ云々」トアルハ第一ノ所爲中金千圓ノ借用證書金六百圓ノ受取證書及ヒ登記委任狀偽造行使ヲ一所爲トシ第二ノ所爲中金七百圓ニ借用證書及ヒ登記委任狀偽造行使ヲ一所爲トシ都合二所爲ニ對シ擬律シタルモノト認ムヘキニ依リ原判決ハ上告所論ノ如キ不法アルコトナシ

被告辯護人佐藤樵之助上告趣意擴張書ノ第一點ハ要スルニ原判文ニハ「大越タマノ告訴狀ニハ云々同人ノ豫審調書ニモ亦同一ノ記載アルノミナラス被告カ未決監ヨリ發シタル被告自筆ノ密書中ニ云々トアルニ徴シ被告カ擅ニ右文書ヲ作製シタマノ印影ヲ盗用シ金圓騙取ノ所爲ニ及ヒタルコトヲ確認シタリ」トアリテ單ニ斷罪ノ資料ニ供シタル證據ノ部分ヲ羅列シ來リ茲ニ犯罪ヲ確認シタリト云ニ止リ何故ニ其證據ニ依リテ犯罪ヲ認メ得ヘキヤ證據ト犯罪ヲ連續スル斷定ヲ示サ、ルハ不法ナリ如何トナレハ刑事訴訟法ノ所謂證據ニ依リ認メタル理由トハ證據ニ基キテ或ル事實ノ存在ヲ認識セル理由其者ノ

謂ニシテ決シテ引用セル證據ヲ指摘スルノ謂ヒニアラサレハナリト云フニ在レトモ○原判文ニ「以上ノ認定事實ニ對シ被告ハ右文書ヲ作製シタル事惣吉並ニ八郎兵衛ヨリ金圓ヲ借入レタル事登記經由ノ手續ヲ了シタル事等ハ之レヲ認ムルモ右ハ金圓騙取ノ目的ニ出テタルニアラス何レモ皆タマノ承諾ヲ得同人ノ調印ヲ乞テ適法ニ金借ヲ爲シタルモノナリト辯解シタルヲ以テ本案ニ於テ決スヘキ要點ハタマニ於テ右各文書ノ作製方ヲ承諾シ之レニ調印シタルモノナルヤ否ヲ審案スルニ在リ因テ一件記録ヲ檢スルニ大越タマノ告訴狀ニハ明カニ右文書ノ作製方並ニ調印スル事ニ承諾ヲ與ヘタル事無キ旨ヲ記載シタリ同人ノ豫審調書ニモ亦同一ノ記載アルノミナラス被告カ未決監ヨリ發シタル被告自筆ノ密書中ニ云々トアルニ徴シ被告カ擅ニ右各文書ヲ作製シタマノ印影ヲ盗用シ金圓騙取ノ行爲ニ及ヒタルコトヲ確認シタリ」ト說示シタル以上ハ證據ニ依リ罪トナルヘキ事實ヲ認メタル理由ハ充分ニ之レヲ明示シタルモノト云ハサルヘカラス故ニ本論旨ハ上告ノ理由トナラス

同第二點ハ私訴上告趣意擴張書第一點ヲ本擴張書第二點ニ引用スト云フニアルヲ以テ同擴張書ヲ閱スルニ第一點ナルモノナシ或ハ第二トシテ掲記シタル部分ヲ指スノ意ナカンカ果シテ然ラハ其前段ハ被告安造上告趣意ノ第一ト結局同一ニ歸スルヲ以テ右ニ對スル說明ニ依リ了解スヘシ其後段ハ原判決理由明示ノ部ニ於テ被告安造ノ密書ヲ採テタマカ證書ノ作製ニ承諾ヲ與ヘサリシ證據ニ供セラレタルモ該密書自體ハ直接ニ證書作製ニ付タマノ承諾有無ニ關聯シタル事實ノアルヘキ者ナシ故ニ原審ニ於テ

之レヲ有罪ノ證據ニ供セントスルニハ須ラク如何ナル理由ニ依リ該密書ハタマカ承諾ヲ表サ、リシ證據タルヘキヤナ明示スヘキニ事茲ニ出テサリシハ刑事訴訟法第二百三條ニ違背シタルモノナリト云フニ在レトモ○如何ナル理由ニ依リ證據トナルヤノ如キ證據判斷ノ理由ハ之レヲ明示スルノ要ナキモノトス故ニ本論旨モ亦上告ノ理由トナラス

被告安造カ第一號上告辯明書ノ第一ハ結局被告カ上告趣意ノ第二ト同一趣旨ニ歸着スルヲ以テ右趣旨ニ對スル説明ニ依リ了解ス可シ

同第二ハ被告カ作製シタル借用證書ハ正副二通ナルニ拘ハラス單ニ正本一通ノミヲ示シ之レヲ以テ直ニ斷罪ノ用ニ供シタルハ理由ノ不備ナリト云フニ在レトモ○是唯原承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難スルニ過キササルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

同第三ハ證據トシテ明示セラレタル密書中ニ入<sub>#</sub>トハ佐々木榮助ヲ指スモノニシテ第一審廷ニ召喚セラレタル者也云々ト漫然舉示セラレタルモ同人ハ一回モ一審廷ニ召喚セラレタルコトナキハ訴訟一件記録ニヨリ明瞭ナリトス一回モ召喚セラレサルモノヲ以テ召喚セラレタルモノトス密書ハ捏造ノモノト認メ架空ノコトヲ以テ原判決カ斷罪ノ用ニ供シタルハ違法ノ裁判ナリトスト云フニ在リテ○其趣意判明ナラス或ハ佐々木榮助ハ第一審廷ニ召喚セラレタルコトナキニ原判決文中證據トシテ密書ノ内容ヲ摘録スル内<sub>#</sub>印ノ下ニ括弧ヲ施シ「佐々木榮助ヲ指ス者ニシテ同人ハ第一審廷ニ證人トシテ喚問セラ

レタル者也」ト架空ノ事ヲ記入シテ證據ニ供シタルハ不法ナリト云フノ意ナランカ果シテ然ラハ右括弧内ノ數十文字ハ<sub>#</sub>印ノ何人ナリヤ不明ナルニ付佐々木榮助ヲ指スモノタルコトヲ知リ易カラシムル爲メ原院カ單ニ注意マテニ挿入シタルニ過キスシテ素ヨリ必要ノ文字ニアラサレハ假シヤ些ノ誤謬アリトスルモ判決破毀ノ理由ト爲スニ足ラサルノミナラス記録ニ徵スレハ佐々木榮助ハ豫審廷ニ證人トシテ召喚セラレ訊問ヲ受ケ居ル事跡アルヲ以テ右挿入ノ文面中ニ第一審廷トアルハ豫審廷ノ誤記ト認メ得ヘキニ依リ到底上告ノ理由トナラス

同第四ハ原判決ニ密書ヲ罪證トシテ掲ケアルモ該密書ハ罪トナルヘキ事實ノ證據トナルヨリモ寧ロ文書ノ偽造ニアラサルノ證據タルヘキモノナリ然ルニ之レヲ斷罪ノ資料ニ供タシルハ違法ナリト云フニ在レトモ○是唯原承審官ノ職權ニ屬スル採證ノ當否ヲ論難スルニ外ナラサレハ上告適法ノ理由トナラス

同第五ハ原判決ハ六百圓ノ請取證ヲモ偽造ト認メ之ヲ罰シタルモ該證ハ原判決ノ認ムル如ク被告ノ名義ヲ以テ交付シタルモノニシテ偶々大越タマ代人ト記入シタルモノニ過キス去レハ假令タマノ代理人ニアラストスルモ是單ニ權限ナシト云フニ止マリ文書ノ記錄者ハ被告ニシテ記錄者ノ名義モ亦被告人ナレハ決シテ偽造ト云フヲ得ス然ルニ原判決ニ於テ之レヲ偽造ニ擬シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○本論旨ハ被告カ上告趣意書ノ第二點ニ於テ登記願書偽造ノ點ニ付論スル所ノ趣意ト同一

ナルヲ以テ右論旨ニ對スル說明ニテ了解スヘシ  
被告カ第二號上告辯明書ノ第一點ハ原判決第二ノ所爲ハ同月三日附ヲ用サタマ所有ニ係ル云々ト豫審  
終結及ヒ第一審ノ判決謄本ニアリ第二審ノ判決謄本モ亦同シ然レハ判決原本ニ四月三日トアルヤ明カ  
ナリ然ルニ檢事長ノ答辯書ニ四月七日トアリ若シ果シテ判決原本ニ同月七日トアラハ是レ後日ニ於テ  
猥リニ訂正セシモノニシテ不當タルヲ免カレスト云フニ在レトモ○原本ヲ閱スルニ素ヨリ同月七日ト  
アリテ更ニ訂正ノ痕跡ナシ若シ被告ニ下付セシ謄本同月三日トアラハ是唯謄本ノ誤寫ニ過キササルヲ以  
テ上告ノ理由トナラス

同第二點ハ被告カ第一號上告辯明書ノ第三、第四ノ兩點ヲ重複論難スルニ過キササルヲ以テ再ヒ說明セ  
ス右兩點ニ對スル說明ニ依リ了解ス可シ

被告カ第三號上告辯明書ノ趣意ハ原判決法律適用ノ部ニタマ名義ノ私書及ヒ登記願書偽造行使ノ點ハ  
擬律アルモ金六百圓ノ請取證作製ノ點ニ至リテハ何等ノ擬律ナシ然ルニ末文官没ノ所ニ至リ該文書ニ  
對シ刑法第四十三條一項第四十四條ヲ適用セラレタリ是レ擬律ナクシテ沒收シタル不法ヲ免カレスト  
云フニアレトモ○右金六百圓ノ請取證ハ被告カタマ代人トシテ作製シタル文書ナルニ依リ原判決擬律  
ノ部ニ於テ「右被告カ第一第二ノ所爲中登記願書偽造行使ノ點ヲ除キタマ名義ノ私書ヲ偽造行使シタ  
ル各所爲ハ」云々トアル其私書中ニ包含セシメテ擬律シタルモノト認ムヘキニ依リ本論旨ハ上告ノ理

由トナラス

被告カ第四號上告辯明書ノ趣意ハ被告カ上告趣意書ノ第三點ヲ再論スルニ外ナラサレハ右第三點ニ對  
スル說明ニテ了解ス可シ

被告カ第五號上告辯明書ノ趣旨ハ原判決ノ法律理由ノ部ニ於テ「以上金圓騙取ト私印盗用ノ所爲併發  
シタルヲ以テ同第三百九十條ヲ適用シ一ノ重キ第一金千圓騙取ノ所爲ニ從ヒ云々」トアリテ金圓騙取  
ノ所爲ト併發シタルモノト認メ各罪ニ付法條ヲ適用シ乍ラ數罪俱發例ナル刑法第百條ヲ適用セサルハ  
理由ヲ欠キタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判文ヲ閱スルニ「以上金員騙取ト私書盗用ノ所  
爲併發シタルヲ以テ同第百條ヲ適用シ一ノ重キ第一金千圓騙取ノ所爲ニ從ヒ云々」トアリテ明カニ  
刑法第百條ヲ適用シタルヲ以テ本論旨ハ謂ハレナシ

辯護人高木益太郎辯明書ノ趣旨ハ原判決理由ノ末尾ニ「原裁判所ノ事實認定ノ部ニ登記願書ハ被告自  
身ノ印章ヲ用サタマノ印類ヲ盗用シタルコトナキニ之レヲ盗用シタリト認メタル不當アルヲ以テ本案  
被告ノ控訴ハ結局理由アルモノト云ハサルヲ得ス」ト掲ケ即チ原院ハ被告ニ對スル願書ニ就テノ私印  
盗用事件ハ無罪トナスヘキ旨趣ヲ辯明シタルニモ拘ラス其判決主文ニ何等ノ記載ヲ爲サス抑モ第一審  
裁判所カ有罪ト認メタル點ヲ控訴審ニ於テ無罪ト認ムルトキハ判決主文ニ於テ其旨ノ判斷ヲ表示ス可  
キモノナルコト論チ俟タス然ルニ原判決茲ニ出サルハ法則違犯ノ裁判ニシテ結局請求ヲ受ケタル事件

ヲ判断セサル不法アリト云フニ在レトモ ○本件ニ付キ第一審裁判所カ其判文ニ「第一、第二ノ内私印盗用ノ所爲ハ各刑法第二百八條第二項第二百十二條ニ依リ云々」ト掲ケタルハ第一ニ在テ金千圓ノ借用證書登記委任狀登記願書ニ私印ヲ盗用シタル一罪ト第二ニ在テ金七百圓ノ借用證書登記委任狀登記願書ニ私印ヲ盗用シタル一罪ト此二罪ヲ各刑法第二百八條第二項第二百十二條ニ依リ云々ト判示シタルモノナリ然ルニ原院ハ登記願書ニ私印ヲ盗用シタル事實ヲ認メサルヲ以テ結局被告ノ控訴ヲ理由アリトシタルモ抑モ第一審裁判所カ登記願書ニ私印ヲ盗用シタル點ヲ以テ別箇ニ一罪ヲ構成スルモノトシタルニハアラスシテ借用證書登記委任狀登記願書ニ私印ヲ盗用シタルヲ一括シテ一罪ト認メ而シテ原院モ亦タ登記願書ニ私印盗用ノ點ヲ別箇ノ事件ト認メス故ニ唯一罪ノ一部分タル登記願書ニ私印盗用ノ點ヲ除キ借用證書及ヒ登記委任狀ニ私印盗用ヲ爲シタル一罪トシタルニ過キヌシテ獨立シタル一箇ノ私印盗用事件ヲ無罪ト判定シタルモノニアラサルヲ以テ判決主文ニ於テ特別ニ無罪ノ言渡ヲ爲ス可キ筋合ニアラス故ニ本論旨ハ上告ノ理由トナラス

私訴上告人龜井シン小西八郎兵衛訴訟代理人辯護士八木橋榮吉上告趣意ノ第一ハ被上告人大越タマ訴訟代理人三坂亥吉ヨリ第一審裁判所へ提出シタル訴訟代理委任狀ヲ査閲スルニ其委任權限ヲ表示スル部分ニ「大越タマ對秋野安造偽造云々附帶私訴事件ニ付キ訴訟代理人ト爲シト記載シアリテ代理委任ノ權限ハ秋野安造ニ對スル私訴ノ代理ヲ委任シタルノミニシテ上告人ニ對シ訴訟ヲ提起スルノ代理權

ヲ付與シタルモノニアラス即チ代理人ハ安造以外ノ者ニ對シ私訴ヲ提起スルノ權限ヲ有セサルモノナリ然ルニ右ノ委任狀ニ基キ上告人ニ對シ本件ノ私訴ヲ提起シタルハ不當ニシテ原審ハ第一審判決ヲ取消シ上告人ニ對スル部分ノ訴ヲ排斥セラルヘキニ事玆ニ出テサリシハ不法ナリト云フニ在レトモ ○右訴訟代理委任狀ニ「自分ヨリ秋野安造ニ係ル私書偽造行使私印盗用詐欺取財公訴附帶私訴事件ニ付キ云々訴訟代理人ト爲シ一切ノ訴訟行爲云々ノ權ヲ委任ス」トアルハ要スルニ秋野安造ニ對スル公訴ニ附帶セル私訴權ヲ行使スル全般ノ訴訟行爲ヲ委任シタルモノト認ム可キニヨリ其私訴權ヲ行使スル手段トシテ當然行フ可キ事項ハ右委任ノ權限内ニ包含スルモノト云ハサルヘカラス本件ニ於テ私訴ノ目的ヲ達セントスルニハ秋野安造ノ外尙ホ上告人ニ對シテ起訴スルコトヲ要スル筋合ナレハタマノ代理人カ右ノ委任狀ニ基キ上告人ニ對シ私訴ヲ提起シタルハ不當ニアラス故ニ原院カ第一審判決ヲ是認シタルハ相當ナリトス

同第二ハ上告人ハ原審ニ於テ前項ノ抗辯ヲ提出シ上告人ニ對スル本件ノ私訴ハ却下セラルヘキモノナルコトヲ主張シタルニ拘ハラヌ原審カ此點ニ對シ何等ノ判決ヲ與ヘサリシハ重要ナル攻撃方法ヲ遺脱シ裁判ヲ與ヘタル不法アリト云フニ在レトモ ○刑事裁判所ニ於テ公訴附帶ノ私訴ヲ審理判決スルハ總テ民事訴訟法ニ則ル可シトノ規定アルニアラサレハ原院ニ於テ上告人ノ提出シタル攻撃方法ニ對シ逐一判断ノ理由ヲ付セサルモ不法ト云フヲ得ス



同私訴上告趣意擴張書ノ趣旨前段ハ被告安造カ公訴上告趣意第一點ト同一ニ歸シ後段ハ被告安造辯護人佐藤樵之丞上告趣意擴張書第二點ノ後段ト同一ナルニヨリ玆ニ再ヒ説明セズ孰レモ右趣意ニ對スル説明ニテ了解ス可シ

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件公訴私訴ノ上告ハ其ニ之レヲ棄却シ私訴上告訴訟費用ハ上告人ノ負擔トス

明治三十二年九月廿五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

○過失殺ノ件

明治三十二年第九二二二號  
明治三十二年九月二十六日宣告

○判決要旨

刑法第八十條ハ單ニ犯意アル所爲ノミニ付是非辨別ノ有無ヲ別テ處斷スルノ法意ニ非ス

(參照) 罪ヲ犯ス時滿十二年以上十六歳ニ滿タサル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否

トシ審案シ辨別ナクシテ犯シタルトキハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ滿二十歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得(刑法第八十條第一項)

第一審 岐阜地方裁判所大垣支部

第二審 名古屋控訴院

被告人 高橋勝二

右過失殺被告事件ノ控訴ニ付キ明治三十二年七月四日名古屋控訴院ニ於テ本件被告ノ控訴ヲ棄却スト言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

上告趣意ノ第一點ハ被告ハ明治三十二年三月三十一日夜實兄中村準吉ノ命ニ依リ同人所有ノ獵銃ヲ掃除シ居リタル際近隣多代フサナル者遊ヒニ來リ上リ口ニ腰掛ケ居リタルニ忽然發火シ其散彈フサノ面部ニ命中シ現場ニ即死シタル事實ハ被告ノ認ムル所ナレトモ銃口ヲフサノ面部ニ擬シタル等ノ事實ハ毛頭無之ニ單ニ被害者家ノ雇人タル參考人高木ヒロノ申立ノミヲ採用シ他證人ノ申立ヲ採用セザリシハ採證法ニ違ヒ從テ擬律ノ錯誤アル不法ノ判決ナリト云フニ在リテ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難スルモノニシテ上告ノ理由ナシ

其第二點ハ本件ハ過失ニ出タル事實ハ明確ナルモ十六歳未滿者ニ過失ノ責任ナキハ刑法上明ラカニ認メラレタル事ナリ然ルニ原院ニ於テ刑法第八十條末項ハ有意犯無意犯トモ之レヲ適用ス可キモノナリト斷定シ被告ハ當時是非ノ辨別即チ銃砲ノ取扱ニ注意ヲ怠リタルトキハ危害ノ生スヘキコトヲ識別シ

居リタルモノトセサルヘカラス云々」ト判定アリシハ不法ニ事實ヲ確定セラレタルモノナリ何トナレハ此注意ス可キハ兄準吉ニ在テ被告ニアラサレハナリ如何ニ銃砲ナレハトテ裝彈ナケレハ注意ヲ怠ルモ危害ノ生スヘキ恐レアラサレハナリ況ンヤ過失ハ無意ナルヲ以テ犯罪行為ノ是非ヲ辨別ス可キ道理アラサレハナリ思フニ原院ニ於テハ疎虞ヲ以テ直チニ犯罪行為ト認メラレタルモノ、如クナルモ刑法第八十條ニ云フ「其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審案シ云々」トアルニ該當スヘキモノニ非ス故ニ本件ノ如キ全然無罪ヲ言渡サルヘキ筈ナルニ第一審判決ヲ相當ナリトシ控訴棄却ノ言渡アリシハ擬律ノ錯誤アルモノナリト云フニ在レトモ○本件被告カ獵銃ニ彈藥ノ裝填シアリシニ心付カス之ヲ操リテ戯レニ狙撃ノ姿勢ヲ爲シ銃口ヲフサノ面部ニ擬シ引鐵ヲ引キ忽然發火シ被害者ヲ即死セシメタルハ刑法第三百十七條ニ依リ犯罪ヲ成ス所爲ナリ既ニ此所爲アレハ被告ニ對シテハ同法第八十條ニ從ヒ其所爲ニ付キ是非ヲ識別シタルト否トヲ判別シ處斷スヘキハ當然ニシテ同條ハ單ニ犯意アル行為ノミニ付是非識別ノ有無ヲ別チテ處斷スルノ法意ニアラス故ニ原院カ被告カ銃砲ヲ取扱フニハ危險ヲ生スヘキコトヲ識別シ居タル事實ヲ認メ過失ノ責任アリトシテ判決シタルハ違法ニアラス又タ被告ニ是非ヲ識別スルノ能力アリトスル以上ハ銃砲ノ取扱ニ注意ヲ怠リタル責任ハ被告ニ在リト判定シタルハ相當ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之レヲ棄却ス

上告豫納金ノ半額ハ明治十九年勅令第四十六號ニ依リ之レヲ沒收ス

明治三十二年九月二十六日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

○誣告ノ件

明治三十二年第九四四號  
明治三十二年九月二十六日宣告

○判決要旨

證人ナルヤ將々參考人ナルヤハ記錄ニ依テ自ラ明カナレハ之ヲ判文ニ詳記セサルモ不法ニ非ス

第一審 松山地方裁判所宇和島支部 第二審 大阪控訴院

被告人 實藤金三郎 辯護人 花井卓藏

右金三郎ニ對スル誣告被告事件ノ控訴ニ付キ明治三十二年七月八日大阪控訴院ニ於テ原判決ハ之レヲ取消ス被告實藤金三郎ヲ重禁錮六月ニ處シ罰金四圓ヲ附加シ押收ノ書類ハ各差出人ニ還付スト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スル左ノ如シ

上告趣意書ノ第一乃至第三ノ要旨ハ被告カ馬越德松ヲ今治ニ同道シタルハ明治三十一年十一月三日ニシテ二日ニアラス然ルニ原判決ハ之レヲ二日ナリト誤認シ又被告カ馬越貞介ニ對シ發シタル「キミフネナイツマラス」トノ電報ヲ同月四日之レヲ發シタルモノナルコトハ右電報紙面ニ押捺セル局印日附ニヨリ明カナルニ原判決ハ之レヲ三日ナリト誤認シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○事實ノ認定ハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ其認定ノ當否ヲ論争シテ上告ノ理由ト爲スヲ得ス」同第四ノ要旨ハ馬越貞介カ明神丸ヲ自己ノモノ、如ク冒認販賣シタルコトハ賣渡契約證及ヒ證人中村柳藏ノ證言ニ依リ明カナルニ是等ノ證據ニ對スル説明ヲ與ヘス馬越忠之助馬越貞介馬越德松等ノ供述ノミヲ採用シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○證據ノ取捨ハ原院ノ職權ニ屬シ他ヨリ批難スルヲ得ス而シテ其採用セサル所ノ證據ニ付キ一々説明ヲ與フルノ必要ナキモノナルヲ以テ原判決ハ不法ニアラス

上告趣意辯明書ノ要旨ハ第一原判決ハ本件ノ記錄ニ存在セス又事實ニモ在ラサル「金錢掛ケ渡ス」トノ電報ヲ以テ之レヲ馬越貞介ヨリ發シタルモノトシ探テ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ右金掛ケ渡ストノ電報其物ヲ探テ證據ト爲シタルニアラスシテ別件詐欺取財ノ記錄中馬越德松ノ豫審調書ニ馬越貞介ハ金掛ケ渡ストノ電報ヲ打テタル旨記載アリトシテ其調書ヲ證據ニ採用シタルモノナルコト判文上明ラカナルハ本論旨ハ被告カ判文ヲ誤解シタルニ基クモノナルヲ以テ

上告ノ理由トナラス」第二原判決ハ馬越忠之助同德松等ノ供述ヲ本件斷罪ノ證據ト爲シタルモ同人等ハ證人ナリヤ將テ參考人ナリヤ其資格ヲ明示セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○其證人ナルヲ將テ參考人ナルヤ等ハ記錄ニ依リ自ラ明ラカナルコトナルヲ以テ之レヲ詳記セサルモ不法トナスニ足ラズ」辯護士上告趣意擴張書ハ原判決理由中證據列記ノ部ニ「又同記錄中馬越德松ノ豫審第二回調書ノ第九乃至第十四問答ニモ右忠之助ノ調書ト殆ント同一ノ記載アルヲ以テ見レハ被告ハ本件神明丸カ馬越貞介ニ於テ隨意ニ處分シ得ル事實ハ特ニ承知シ居ル次第ニシテ云々」トアリ然レトモ單ニ「第九乃至第十四問答」トノミアリテ其實體ヲ示サ、ル以上ハ果シテ認定ノ事實ニ適合ス可キ問答ナリヤ否ヤヲ看取スルニ由ナシ況ンヤ「殆ント同一云々」ノ文字ノ如キハ甚タ漠然トシテ捕捉スルヲ得ス要スルニ原判決ハ理由不備ノ欠點アルモノト信スト云フニ在レトモ○原判文ニハ右忠之助ノ調書ニ記載アル事項ヲ詳記シ而シテ德松ノ調書ニモ殆ント同一ノ記載アリトアレハ德松ノ調書ト忠之助ノ調書ト記載事項ノ主旨同一ナルコト明カナルヲ以テ重テ德松ノ調書ニアル事項ヲ詳記セサルモ敢テ理由不備ト爲サス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十二年九月二十九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○故殺ノ件

明治三十二年第九三六號  
明治三十二年九月二十九日宣告

○判決要旨

重罪事件ノ下調々書ニ付テハ被告人ニ之ヲ讀聞ケ署名捺印セシム  
ヘシトノ規定ナシ

第一審 京都地方裁判所

第二審 大阪控訴院

被告人 山口民藏

右故殺被告事件ノ控訴ニ付明治三十二年七月四日大阪控訴院ニ於テ原判決ハ之レヲ取消ス被告山口民藏ヲ無期徒刑ニ處ス公訴裁判費用ハ全部被告ノ負擔トス押收ニ係ル褫刑一枚ハ差出人ニ還付スト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ノ第一點ハ原判決ハ「被告民藏ハ竹丸ヲ見ルヤ前夜ノ耻辱ニ憤激ノ情ヲ惹起シ忽然殺意ヲ生シ左手ヲ以テ竹丸ノ頭髮ヲ掴ミ右手ニテ其懷中セシ長サ五寸許リノ小刀ヲ持テ竹丸ト一聲叫ヒナカ

ラ同人ノ右肩胸棘狀突起下方ヲ刺シ深サ肺ニ達スル創傷ヲ負ハセ少時ニシテ死ニ至ラシメタルモノナリトノ事實ヲ認定シタリ而シテ之レヲ認定ノ理由ヲ説示スルニ方リ上告人豫審第一回調書水石彌助久山左右太郎大槻瀧ノ各豫審調書ヲ援用シタリト雖モ其云フ所皆事前ニ於ケル動作又ハ殺害當時ノ狀況ノミニ止マリテ秋毫モ上告人カ竹丸ヲ見ルヤ前夜ノ耻辱ニ憤激ノ情ヲ惹起シ忽然殺意ヲ生シタリトノコトヲ認定シタル理由ヲ明示セサルハ判決ニ理由ヲ付セサル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○諸般ノ證據ヲ綜合シテ事實ヲ認定スルハ原承審官ノ職權ニ屬スルモノニシテ原院ハ原判決ニ明示シタル各證據ヲ綜合シテ上告人カ殺意ヲ生シタルコトヲ認定シタルモノナレハ判決ニ理由ノ明示ヲ欠キタル不法アリト云フヲ得ス」其第二點ハ上告人ハ多年神明ニ祈禱シ禁酒中ナリシニ偶々飲酒シタルタメ酒精中毒ニ依リ發狂シタルモノカ兇行ノ覺ナキヲ以テ其當時ニ於ケル精神症狀ノ發作如何ヲ堪能ナル醫師ヲシテ鑑定セシメラレシコト及ヒ入監以後治療シタル主治醫師ヲ喚問セラレシコトヲ申請シタルニ原院カ之レヲ不必要ナリト認メ採用セラレサリシハ不法ナリト云フニ在レトモ○證據調ノ申請ニ對シ其許否ヲ決スルハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由トナラス

其第三點ハ原判決ハ「其翌二十八日夜同宇祇園籠堂ニ於テ賞藏外數名ノ者ト賭博ヲ爲シタリ遺ハ俗ニ「テラ」ト稱シ其勝者ヨリ民藏梅等カ多少ノ金錢ヲ受クルカ爲メ催サレタルモノニシテ其「テラ」ヲ受クル所ノ者共ハ賭博ノ勝敗ニ加ハルヘキ筋合ノモノニアラサルニ被告民藏ハ自ラ勝敗ヲ争ヒ其結局

多少ノ敗ヲ取り云々トノ事實ヲ認定シ又其理由ヲ説明スルニ際リテハ大槻謫ノ豫審調書ヲ援用シテ「其時ノ賭博ハ元來民藏於梅竹丸等カ賭博ノ「テラ」ヲ取りニ來タモノテアリマス云々」説示シタリト雖モ其賭博ニ於ケル「テラ」主ノ賭博ニ加ルヘキニアラサル事ハ何ニ依テ以テ之レヲ認定セシヤ毫モ其理由ヲ明示セズ又其賭博ノ「テラ」ハ民藏梅竹丸ノ三名カ利益ノ爲メナリトセハ獨リ民藏ノミ之レニ加ハリテ賭博ニ手出スヘカラサルノミナラス均シク梅竹丸モ之レニ加ハルヘキモノニアラサルヤ明白ナリ然ルニ原判決ハ獨リ民藏ノ之レニ加ハリタルヲ異法ナルカ如ク認メ梅竹丸ノ之レニ加ハリタルハ差支ナキモノ、如ク説明セシハ賭博社會ニ於ケル習慣ニ通セサルノ致ス所ナリト雖要スルニ事實理由ニ齟齬アル不法ノ判決ナリト信スト云フニ在レトモ○「テラ」主カ賭博ニ加ハルヘキモノニアラサル事ノ如キハ本件犯罪ヲ構成スヘキ事實ニアラサルヲ以テ之レヲ認定シタル證據ヲ明示セサルモ判決ノ理由ニ不備アリト云フヲ得ス其他ハ原院ノ職權ニ屬スル事實認定ノ批難ニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナラス

辯護人高木益太郎上告辯明書ノ要旨ハ刑事訴訟法第二百三十七條第二百四十一條第二百六十四條等ニ依リ受命判事カ被告人ヲ訊問シ調書ヲ作成スルトキハ被告人ニ讀聞カセ其供述ノ相違ナキヤ否ヲ問ヒ署名捺印セシムヘキ筈ナルニ本按重罪事件下調々書ニハ右ノ方式ヲ欠キタルヲ以テ無効ノ調書ト云フヘク從テ原院ハ適式ノ下調々書ニシテ開廷シタル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○重罪事件ノ下右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之レヲ棄却ス  
明治三十二年九月二十九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○官文書變造行使等ノ件

明治三十二年第九四〇號  
明治三十二年九月二十九日宣告

○判決要旨

(判旨第三點) 官署ヨリ發送シタル文書ハ何人ノ手ニ存スルモ官文書ノ性質ヲ失ハス從テ之ヲ變造シテ行使シタル所爲ハ官文書變造行使罪ヲ構成ス  
(判旨第四點) 一罪既ニ判決ヲ經テ確定シタル後第二審裁判所ニ於テ更ニ其判決確定前ノ他罪ニ對シ判決ヲナストキハ刑法第百二條第一項ヲ適用スヘキモノトス

(參照) 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪ノ後ニ發シ其輕ク若シクハ等シキモノハ之ヲ論セス其重キモノハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該リ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑罰ニ通算ス(刑法第百二條第一項二)

第一審 秋田地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 佐々木次郎 辯護人 村松山壽

右官文書變造行使及ヒ恐喝取財未遂被告事件ノ控訴ニ付明治三十二年七月八日宮城控訴院ニ於テ被告次郎ヲ輕懲役六年ニ處ズ但シ前發ノ刑重禁錮五月罰金八圓監視六月ヲ通算ス押收ニ係ル端書中變造ノ部分ハ之レヲ沒收シ其他ハ差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ之レヲ二分シ其一ヲ被告次郎ノ負擔トスト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ノ要旨ハ原院ハ被告ニ官文書變造行使恐喝取財未遂ノ所爲アリトシ刑ノ言渡ヲ爲シタルモ一件記録中右ノ事實ヲ認ムヘキ確的ノ證據アルコトナシ故ニ原判決ハ證據ニ依ラス不當ニ事實ヲ確定シタル違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原院ハ原判決所掲ノ各證據ニ據リ事實ヲ認定シタルモノナルコトハ明瞭ナルヲ以テ本論旨ハ其謂ハレナシ

上告辯明書ノ要旨第一點ハ原判決中「加賀谷マサノ豫審調書ニ葉書ヲ次郎方ニ持行キタル所置キ行ク

ヘシトノコトニ付同人ニ渡シ歸リタル云々」トアルモマサノ尋ネニ對シ此葉書ヲ見レハ裁判所ニテ其取上ケナリタル云々ト答ヘ且此葉書ハ五六日間ヲ經テ持テ來リシ旨ヲ示シタル事ハ當時居合ハセタル井上甚治ヲ取調フレハ明カナルヲ以テ第一二審ニ於テ其申請ヲ爲シタルニ其取調ヲ爲サスシテ判決シタルハ不當ナリト云ヒ」其第二點ハ原判決中「マサカ葉書到着シタル日云々マサヨリ其交付ヲ受ル時既ニ起訴可致ト描改シアリシモノト認ムルヲ得ス云々」トアルモ原院カ右葉書ヲ被告ニ於テ變造シタルモノト推定シタルハ不當ナリト云ヒ」其第三點ハ原判決中「佐々木金治ノ豫審調書ニ可ノ字ハ可笑シク直シタル様ノ跡アル故次郎ニ聞キタル所次郎ハ此通り裁判所ヨリ來リタルモノナリトノコトナリ云々」トアルモ被告ハ金治ニ對シ葉書ニ起訴可致云々トアル旨ヲ談シ同人ノ頼ミニ依リ之レヲ貸與ヘシノミニシテ可ノ字ハ可笑シク云々ト申タル覺ナシ然ルニ金治カ右ノ如ク詐リテ申立タルハ不當ナリト云ヒ」其第四點ハ原判決ニ「被告次郎カマサヨリ葉書ヲ受取リ佐々木金治ニ交付スル間ニ於テ之ヲ變造シタコルト自カラ明晰ナルヲ以テ被告次郎ニ於テ之レヲ描改シタルモノト推定セサルヲ得サルナリ云々」トアルモ右ハ實際ノ事實ニ反シ不當ニ事實ヲ確定シタルモノナリト云ヒ」其第五點ハ原判決中「三浦直治ノ豫審調書ニ自分ハ金治方ニ行キ居タル節次郎ハ葉書ヲ持テ來リ此通り起訴ニ相成リ氣ノ毒ナル故御前ハ親屬ノ間柄ニテモアル故伊藤方ヘ行キ示談スル様取計ヒタルナラハ宜カロウト申來リタリ其時次郎ハ金治ニ其葉書ヲ渡シタルヤ左様ナリトアリテ二名ノ云フ所相符合シ云々」トアルモ右直治

及ヒ金治ノ豫審調書ニ依リ其申立テニ大ナル事實ノ相違アルコト明カナリ直治ハ佐藤ウカヨリ借用セシ夜具ノ事ニ關シ被告ト口論セシコトアリ且ツ同人ハ金治ノ雇人ニシテ本件ニ付テハ金治並ニ山崎伊藏カ共謀シ此ノ如ク偽證ノ證人トナリ不當ニモ次郎カ金治方ニ葉書ヲ持チ來リタリト申立テナサシメ又加賀谷マサヲ瞞着シ該端書ヲ送達ノ日持行タル旨申立テシメタルモノナリト信スト云ヒ」其第六點ハ原判決「被告次郎カ檢事局ヨリ發シタル葉書ニ改捕シタルハ全ク名ヲ示談ニ藉リ山崎伊藏ヨリ金員ヲ騙取セントスル目的ニ出テ云々」トアルモ被告カ山崎伊藏ニ對シ金治ニ頼ミ示談ヲ申込ムヘキ謂ハレナシ然ルチ金治カ頼マレタリト詐リ申立テ爲シタルハ不當ナリト云ヒ」其第七點ハ原院判決ニ被告次郎ハ恐喝取財及委託物費消ノ前科アリ云々トアリテ原院カ被告ニ前科アルチ以テ該葉書ヲ變造シ山崎伊藏ヨリ金員ヲ騙取セントシタリト認メタルハ不當ナリト云ヒ」其第八點ハマサカ葉書ヲ持チ來リシ時井上甚治ノ面前ニテ起訴ナリタル旨ヲ申聞ケ且葉書ノ日ヲ見ルニ五六日間タナアリテ持チ來リシコトヲ示シタルコトハ明カナルニ第一二審ニテ其取調ヲ爲サスマサカ金治伊藏等ノ申立テ信シ事實ヲ確定シ且山崎伊藏カ豫審ニテ申立テタル古谷久治ナル者ハ土崎港町ニ之レナキニ詐ハリテ申立テタルコトハ土崎港役場ノ書面ニ依リテ明カナリ故ニ伊藏カ被告ヲ處分セシメノコトヲ謀リ金治マサ直治等チ手ニ入レ申立テ爲サシメタルニ原院カ其不當ナル事實ヲ確定シタルハ不當ナリト云ヒ」其第九點ハ伊藏金治直治等ノ申立カ實際ノ事實ニ反スルニ拘ラス之レヲ採用シ相被告直治ヲ無罪トシ被告ヲ有罪ト

認定シテ刑ヲ科シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○證人訊問ノ申請ヲ許否スルハ原承審官ノ職權ニ屬スルモノナルカ故ニ第一二審裁判所カ共ニ上告人ノ該申請ヲ採用セザリシトテ違法ト云フチ得サルナ以テ其第一點ノ論旨ハ相立タス其第二點第四點第七點ハ何レモ原院ノ職權ニ屬スル事實認定ノ批難ニ過キササルチ以テ上告ノ理由トナラス其第三點第五點第六點ハ何レモ原院カ採用シタル證人ノ供述チ批難スルモノニシテ結局原院ノ職權ニ屬スル證據ノ判斷ニ對シ徒ラニ批難ヲ試ムルニ過キササルチ以テ是亦上告ノ理由トナラス其第八點第九點ハ何レモ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ取捨及ヒ其判斷ニ對シ徒ラニ批難ヲ試ムルニ過キスシテ上告ノ理由トナラス

判旨第三點

辯護人村松山壽上告趣意擴張書ノ要旨第一點ハ本件郵便葉書ハ秋田地方裁判所檢事ヨリ加賀谷マサニ發送シタルモノナルモマサノ掌握ニ歸シタルト同時ニ官文書タル性質ヲ變シタルモノナルチ以テ其文字ヲ篡改スルモ官文書變造罪ヲ以テ論スルチ得スト云フニ在レトモ○官署ヨリ發送シタル文書ハ何人ノ手ニ存スルモ官文書タルノ性質ヲ失フヘキ理由ナケレハ本件上告人カ秋田地方裁判所檢事ヨリ加賀谷マサニ發送シ同人ノ所有ニ歸シタル郵便葉書ヲ變造行使シタル所爲ハ即チ官文書變造行使罪ヲ構成スルチ以テ原院カ之レチ官文書變造行使罪ニ問擬シタルハ相當ニシテ違法ニアラス」其第二點ハ本件ハ記錄ニ徴シ明カナル如ク前發罪未タ判決ヲ經サル以前ニ於テ發覺シタル犯罪ナルチ以テ刑法第百條ヲ適用處斷スヘキ筈ナルニ原院カ本件ヲ刑法第百二條第一項ニ問擬シタルハ失當ノ裁判ナリ且原判決

判旨第四點

ニ依リ一罪ノ確定シタル理由ハ明カナルモ本案カ其確定後ニ發シタル餘罪ナリトノ證據ハ之レヲ知リ得ヘカラサルヲ以テ原判決ハ理由不備ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○刑法第百二條第一項ハ一罪既ニ判決ヲ經テ確定シタル後其判決確定前ニ犯シタル罪ノ判決ヲ爲ストキハ其輕シ若シハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之レヲ論シ云々トノ法意ニシテ本件ハ上告人カ明治三十二年三月二十六日秋田地方裁判所ニ於テ受ケタル輕罪三犯詐欺取財事件ノ判決確定前ノ犯罪ナルモ其判決確定ノ後即チ明治三十二年七月八日原院ニ於テ判決ヲ爲シタルモノナレハ原院カ之レヲ刑法第百二條第一項ニ問擬シタルハ相當ニシテ違法ニアラス又上告人カ明治三十二年三月二十六日秋田地方裁判所ニ於テ詐欺取財事件ニ付受ケタル判決ノ確定シタル證據ヲ明示シアル上ハ本件カ其餘罪ナルコトハ自ラ明カナルヲ以テ原判決ハ理由不備ノ裁判ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之レヲ棄却ス

明治三十二年九月二十九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○公文書偽造監守盜ノ件

明治三十二年第九五一號  
明治三十二年九月二十九日宣告

○判決要旨

委託物費消罪ハ費消ノ當時惡意アルヲ以テ成立ス而シテ其必スシ  
モ之ヲ返還スルノ資力ナキコトヲ要セス

第一審 松江地方裁判所

第二審 廣島控訴院

被告人 松崎福次郎

右福次郎ニ對スル公文書偽造監守盜被告事件ニ付明治三十二年七月十日廣島控訴院ニ於テ原判決ヲ取消シ更ニ被告福次郎ヲ重禁錮一年ニ處シ公訴々訟費用金五十四圓十貳錢ノ内四圓五十一錢ハ被告ニ於テ負擔スヘシト言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣意ハ縷々陳辯スル所アルモ結局被告カ明治三十一年一月一日役場書記佐藤孫市ヨリ受取リタル金員ノ内四十五圓ハ正當ノ支拂ニ宛テタルモノナルコトハ證人立石善右衛門等ノ豫審調書ニ依リテ明カニシテ被告ノ惡意ニ出テ費消シタルモノニアラサルノミナラス刑法第三百九十五條ハ現ニ返還セサルカ又ハ返還スル能ハサルヘキ場合ニ適合スヘキモノニシテ本件ハ上告人カ拘引セラル、際書記某ニ整理方ヲ命シ置キタルニ豫審判事カ檢證ノ爲メ出張シ未整理ノ儘差押ヘタルニ基因スルモノナルヲ以

委託物費消罪ノ構成



テ同條ニ該當セス且ツ原判決ハ證人ノ證言ヲ分割シテ上告人ニ不利益ノ點ノミヲ採用シ而シテ其理由ヲ説明セザリシハ不法ナリトス又原判決ニ依レハ檢事ノ附帶控訴ヲ理由ナキモノトセラレタルニモ拘ハラズ其末段ニ至リ檢事ノ附帶控訴モ結局其理由アルニ歸ス云々ト説明シタルハ理由ニ齟齬アル不當ノ判決ナリト云フニ在レトモ○委託物費消滅ノ罪モ消費ノ當時惡意アレハ則成立スルモノニシテ必シモ之レヲ返還スル資力ナキコトヲ要スルモノニアラス又原院カ採用シタル證據ニ付テハ理由ヲ説示シアリ而シテ其採用セザル所ノモノニ付テハ一々其理由ヲ明示スルヲ要セザルモノナリ又原判決ハ檢事カ本件ヲ以テ監守盜ナリト爲シタル附帶控訴ノ論旨ハ相立サルモ元來控訴ハ本控訴ト附帶控訴トナ間ハス其攻撃スル事件全部ニ對スルモノナルヲ以テ第一審判決ハ他ニ非理アリテ取消サ、ルヘカラサルニ付右檢事ノ附帶控訴モ結局理由アルニ歸スト爲シタルモノナレハ毫モ理由ニ齟齬アルコトナシ他ハ事實認定證據ノ批難ナルヲ以テ上告ノ理由トナラス』同擴張書ハ上告趣意書ヲ敷衍シ尙ホ立石善右衛門第三回ノ豫審ノ供述ハ第五回ニ於テ變更シタルヲ以テ第三回ノ供述ハ自然消滅シタルモノナルニ原院カ右第五回ノ供述ハ信シ難シト爲シ反テ已ニ消滅シタル第三回ノ供述ヲ採用シタルハ探證法ヲ誤リタルモノナルノミナラス其取捨シタル理由ヲ明示セザルハ不法ナリト云ヒ又豫審ニ於ケル證人ノ證言ヲ採用シテ被告ノ行爲ハ正當ノ支拂ニ出テタルモノト論爭スルニ在ルモ○已ニ陳述シタル所ノ事實ニ相違スル陳述ヲ爲スコトアルモ之レカ爲メ前ノ陳述カ消滅スヘキモノニアラサルコトハ論ヲ俟タス又取

捨シタル證據ニ關スル論旨ハ前項ノ上告趣意書ニ對スル説明ニ依リ了解スヘク他ハ事實認定ノ批難ナルヲ以テ上告ノ理由トナラス  
辯護士上告事件辯明書ハ本件豫審決定書ニ依レハ被告ノ所爲ヲ重罪事件ト認メ同人ヲ松江地方裁判所ノ重罪公判ニ移付シタルコト明カナリ故ニ第一審裁判所ニ於テ之レヲ輕罪ナリトノ判決ヲ下シ以テ檢事ヨリ重罪ナリトノ附帶控訴アリシト云ヘトモ刑事訴訟法第二百六十四條ノ法式ヲ踐行スヘキ場合ニアラス然ルニ原院カ更テニ重罪事件トシテ裁判スヘキ旨ノ決定ヲナシ受命判事ヲシテ事件ノ取調ヲ爲サシメス同判事ノ報告ヲ聽キタル等ノ手續ハ渾テ法則ニ違反セリ依テ刑事訴訟法第二百八十八條ニ依リ該手續ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ○因テ審案スルニ本件ハ元來重罪トシテ公訴提起アリタルモノナレハ刑事訴訟法第二百六十四條ニ從フコトヲ要スル場合ニアラサルモ原院カ同條ノ法式ヲ履踐シタルハ只其手續ノ鄭重ニ過キタルニ止リ被告人ノ利益ヲ害シタルニアラサルヲ以テ敢テ不法ト爲スニ足ラズトス  
右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之レヲ棄却ス  
明治三十二年九月二十九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○森林法違犯ノ件

明治三十二年九月二十九日宣告

○判決要旨

證人トシテ宣誓ノ上訊問セラレタル以上ハ豫審調書ノ末尾ニ被告  
人トアルモ其調書ハ證人調書トシテ證據力ヲ有ス

第一審 仙臺地方裁判所

第二審 宮城控訴院

被告人 佐藤精治

右森林法違犯被告事件ニ付明治三十二年七月十五日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ  
上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ  
上告趣意書ハ被告ハ曾テ官林ニ放火シタルコトナシ假リニ原院カ認ムル如ク茅生地ニ放火シタリトス  
ルモ該地ハ官林ニアラサルニ官林ニ放火シタルモノナリトノ理由ヲ以テ森林法違犯ナリトセラレタル  
ハ事實ニ不當ニ確定シタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○被告カ放火シタル場所ノ國有林ナルコ  
トハ原判決ノ明示スル所ニシテ要スルニ本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過ギサ  
レハ上告ノ理由トナラス

辯護士擴張書第一點ハ原院ハ其際右國有林内ニ火災アリテ樹下發生ノ雜草燒燬シタルコトハ當公廷ニ  
於ケル被告ノ自認ニ徵シテ明白ナル事實ナリトスト認定セラレタルモ上告人ハ右ノ如キ自認ヲナシタ  
ルコトナシ已ニ自認ナキ以上ハ右事實ノ認定ニ對シ何等ノ證據ナキ者ナレハ原判決ハ證據ニヨリ理由  
ヲ示サ、ル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原公判始末書ニ問其際火ノ燃ヘ居リタルヲ見タルカ答  
左様煙カ立チ居タリトアリテ即チ被告ハ其國有林内ニ於テ雜草カ燒燬シツ、アルコトヲ認メタルモノ  
ナルヲ以テ此ノ自認ニ依リ原院ハ之レカ事實ヲ認定シタルモノニシテ證據ニ依ラスシテ漫ニ認定シタ  
ルモノニアラサレハ上告論旨ハ其理由ナシ其第二ハ證人阿部與三郎ノ豫審調書ヲ斷罪ノ證據ニ供セ  
ラレタルモ該調書ヲ見ルニ證人トシテ宣誓ナシ居レトモ其供述ハ證人ノ資格ヲ以テセスシテ被告人  
トシテ供述シタル者ナリ何トナレハ其調書ノ末尾ニ被告人阿部與三郎トアリテ證人トシテ署名捺印シ  
アラサレハナリ故ニ該調書ハ供述シタル證人ノ署名捺印ヲ欠キタル違法ノ調書ナリト云フニ在レトモ  
○阿部與三郎ノ豫審調書ヲ查スルニ同人カ宣誓ノ上證人トシテ訊問セラレタルコトハ該調書ニ徵シテ  
疑ヒナキ所ナリ而シテ其調書ノ末尾ニ被告人阿部與三郎トアルハ證人阿部與三郎ノ誤記ナルコト亦以  
テ明瞭ナレハ原院カ證人ノ調書トシテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ニアラサルヲ以テ上告ハ其理由ナ  
シ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之レヲ棄却ス

八調書ノ效力

明治三十三年九月二十九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

# 大審院刑事判決錄

第五輯 第九卷

## ○官印偽造等ノ件

明治三十二年第八七一號  
明治三十二年十月三日宣告

### ○判決要旨

被告ノ自白シタル事項ト豫審調書告訴狀ノ旨趣ニ符合スルトキハ其調書告訴狀ノ記載事項ヲ一々摘示セサルモ其記載事項ハ自カラ明瞭ナルヲ以テ證據理由ノ明示ニ欠クル所ナシトス

第一審 神戸地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 塚本善次郎 辯護人 高木益太郎

右官印偽造官文書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付キ明治三十二年六月二十二日大阪控訴院ニ於テ言渡

自白事項ト告訴旨ノ符合

シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シテ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

被告ノ上告趣意書第一點ハ要スルニ被告カ偽造シタリト認メラレタル印章ハ如何ナル文字ヲ彫刻シタルモノナルカ判然ナラサルニ拘ハラズ原判決ニ於テ神戸區裁判所御影出張所ノ官印ヲ偽造シタルモノト認定セラレタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ被告カ神戸區裁判所御影出張所ノ印ヲ偽造行使シタル事實ヲ認メタリ而シテ事實ノ認定ハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ之ヲ攻撃スルモ上告ノ理由トナラス

其第二點ハ要スルニ眞正ナル登記濟ノ證ニハ小印ヲ押スヘキモノニアラス單ニ官印ヲ押シ且同印ヲ以テ契印ヲ爲スモノナリ然ルニ本件ノ書類ハ小印ヲ押シ又契印ナキヲ以テ眞正ノ登記濟證トハ大ニ異レリ然ルニ原院カ之ヲ以テ登記濟證ヲ偽造シタリト認定シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原院ハ小印ヲ押シタルモノト認メタルニアラス即チ被告カ偽造セル神戸區裁判所御影出張所ノ印ヲ押シ以テ登記濟證書ヲ偽造シタルモノト爲シタルコト其判文上明白ナリ故ニ本論旨ハ原判決ノ趣旨ニ副ハサルモノトス

辯護人高木益太郎ノ辯明書ハ原裁判ハ本案ノ犯罪事實ニ付證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ノ明示ヲ欠キタル違法アリ今原裁判ノ證據説明ノ部ヲ見ルニ其第一ハ丸井治郎兵衛代人河野丈夫ノ告訴狀第三

ハ證人中澤利助豫審第一回第二回調書第三、第四ハ柴崎鹿之助代人神戸萬太郎ノ告訴狀ノ旨趣ニモ亦符合シ且右條項ニ照應スル證書四通ニ依リ前記ノ事實明白ナリトアレトモ右告訴狀並ニ調書ニハ果シテ如何ナル記載アル歟ヲ説明セス漫然符合シ又ハ照應ストノ斷定アルノミニテハ原文書中如何ナル點カ原院ノ斷定ト符合スルモノナル歟毫モ窺知ルニ由ナシ乃チ證據ノ明示ヲ缺ク裁判ナリト云フヘシト云ヒ○明治三十二年本院第五百九十二號ノ判決ヲ援用スレバ原判決ヲ閱スルニ「而シテ右第一乃至第四ノ地所チ一番抵當ニ書入ル、ト誤リタル點公正證書ヲ作ラシメタル點登記濟ノ朱書ヲ爲シ偽造官印ヲ押シタル點該證書ヲ交付シ金員ヲ受取リタル點ハ何レモ前記載ノ年月日場所ニ於テ前記載ノ如ク爲シタル旨被告ニ於テ自白シ其自白ハ被告善次郎豫審第二回調書被告答辯趣意ニ符合スルノミナラス其第一ハ丸井治郎兵衛代人河野丈夫ノ告訴狀第二ハ證人中澤利助豫審第一回第二回調書第三第四ハ柴崎鹿之助代人神戸萬太郎ノ告訴狀ノ旨趣ニモ亦符合シ且右各項ニ照應スル證書四通ニ依リ前記ノ事實明白ナリトアリテ原院ハ其判決書ノ説明中ヨリ數點ヲ掲ケ來テ其事實ハ被告ニ於テ自白シタリト説明シタルモノナレハ被告ハ即チ原院カ別ニ説明シタル事實ヲ自白シタルコト固ヨリ辯テ俟サルナリ而シテ其自白ハ被告ノ豫審調書河野丈夫ノ告訴狀中澤利助ノ豫審調書神戸萬太郎ノ告訴狀ノ旨趣ニ符合スト説明シタルハ則チ右等ノ書類ニ被告カ自白シタル事實ト同一事實ノ記載アルヲ指示シタルモノナレハ其記載事項チ一々指示セザルモ其文書中原院カ意見ヲ以テ證據ト爲シタル點ハ固ヨリ分明ナリ

トス又右條項ニ照應スル證書四通トアルハ原院カ本件第一ヨリ第四ニ至ル事實中ニ説明シタル被告カ官吏ノ公證文書ヲ偽造シ偽造官印ヲ捺捺シテ之レヲ行使シタリトノ事實ニ相當スル右四通ノ偽造證書ヲ指シタルヤ疑ヲ容レサルヲ以テ原判決ハ證憑ノ明示ヲ欠キタルモノニアラス而シテ上告趣旨ニ援用シタル本院ノ判決ハ明治三十二年九月十八日本院第八百五十三號事件ニヨリ自ラ變更セラレタルモノナリ故ニ本論旨ハ相立タス

同追加辯明書ハ原院ハ其判決書第一第三第四ニ掲ケタル書入不動産ニ就キ被告ノ有所ニ係ル物件ナルヤ將タ他人ノ所有ニ係ル物件ナルヤノ事實ヲ確定セス而シテ此點ノ事實ヲ確定スルノ要ハ詐欺取財罪ト冒認罪トノ岐カル、所ナリ然ルニ原判決ハ此要點事實ヲ審明セスシテ輒ク刑法第三百九十條ヲ適用シタルハ理由不備ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○本件ノ地所ハ被告ノ所有ニアラスシテ他人ノ地所ナルコトハ原判決ノ認メサル所ナレハ固ヨリ冒認罪ヲ構成スヘキモノニアラサルヲ以テ原判決ハ論旨ノ如キ不法ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十二年十月三日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

○誣告ノ件

明治三十二年第九四二號  
明治三十二年十月三日宣告

○判決要旨

(判旨第二點) 警察署ニ爲シタル告訴ハ司法警察官ニ爲シタル告訴ナ

リ  
(判旨第三點) 支部ト雖トモ地方裁判所タルヲ以テ支部ノ豫審判事ハ

地方裁判所豫審係ナル印章ヲ用ユルコトヲ得

第一審 盛岡地方裁判所警非支部 第二審 宮城控訴院

被告 杉 森 弘 辯護人 村 松 山 壽

右誣告被告事件ニ付キ明治三十二年七月六日宮城控訴院ニ於テ原判決ハ之ヲ取消ス被告弘ヲ重禁錮七月ニ處シ罰金五圓ヲ附加ス押收書類等ハ各差出人ニ還付スト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ第一點ハ上告人ハ明治三十年一月青木丈右衛門ヨリ金二千圓ヲ借用シタルニ相違ナシト雖モ今年五月二日金千圓同五月一日金千圓同六月三日利息二圓元利皆濟ヲ爲シ受取ノ證トシテノ預リ證借用證二通ヲ受領シ置キシ所明治三十一年二月九日青木丈右衛門木内佐一郎ト岩淵門助方ニ會合ノ際

右二通ノ證書ノ紛失シタルヲ以テ同十四日盜難ノ届ヲ爲シタルモノナリ而シテ右廿圓ノ債務ハ證人小原宇右衛門ノ證言證人木内佐一郎一分ノ證言ヲ以テ支拂ヲ爲シ且二通ノ證書ヲ受領シ置キタルコト明ニシテ上告人ニ毫モ青木丈右衛門ヲ誣告スルノ意思ナキニモ拘ハラズ上告人ハ青木丈右衛門ヲ輕罪ノ刑ニ陥レ其債務ヲ免カレンカ爲メ竊盜犯人ナリト誣告シタルモノナリト判決セラレタルハ犯意ナキヲ罰シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院ハ原判決所掲ノ各證憑ヲ綜合シ上告人カ故意ヲ以テ青木丈右衛門ヲ誣告シタルコトヲ認定シタルモノナルコトハ原判文ニ徴シ明了ニシテ本論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨及ヒ事實ノ認定ヲ批難スルニ外ナラサルヲ以テ上告ノ理由トナラズ

辯護士村松山壽上告趣意擴張書ノ要旨第一點ハ告訴ハ檢事又ハ司法警察官ニ爲スヘキモノニシテ警察署ニ爲ス可キモノニアラス然ルニ本件告訴ハ水澤警察署ニ爲シタルモノニシテ告訴ノ效力ナケレハ誣告罪ヲ構成セス且原判決ニ同警察署カ之ヲ受付ケタルヤ否ヤヲ明示セサルヲ以テ未ダ誣告罪ヲ構成セサルモノナリト云フニ在レトモ○上告人カ本件告訴ヲ警察署ニ爲シタルハ即チ司法警察官ニ爲シタルモノナレハ其誣告罪ヲ構成スルハ勿論上告人カ該告訴狀ヲ水澤警察署ニ差出シタルコトヲ原判決ニ明示シタル上ハ同警察署カ之ヲ受理セシコトハ自ラ明カナルヲ以テ特ニ同警察署カ之ヲ受理シタルコトヲ明示セサルモ誣告罪ヲ構成セサルモノナリト云フヲ得ス其第二點ハ原院カ斷罪ノ資料ニ供シタル

判旨第二點

判旨第三點

豫審調書ノ豫審判事高橋伊三郎名下ニ「盛岡地方裁判所豫審係之印」ト刻シタル捺印アルヲ以テ見レハ同判事ハ盛岡地方裁判所磐井支部ノ判事ニアラサルニ付キ其豫審調書ハ無効ナリ又同判事ハ磐井支部ノ判事ナリトセハ其名下ノ印ハ同支部判事ノ印ニアラサルヲ以テ其調書ハ捺印ナキ無効ノ調書ナリ故ニ其豫審調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ失當ナリト云フニ在レトモ○支部ト云ヒ本部ト云フモ均シク地方裁判所タルヲ以テ支部ノ豫審判事ナリトモ地方裁判所豫審係ナル印章ヲ捺捺スルヲ得可キハ勿論ナルヲ以テ該印影アルカ爲メ必スシモ支部ノ判事ニアラスト云フヲ得ス從テ其調書ノ無効トナルヘキ理由ナシ因テ本論旨ハ上告ノ理由トナラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之レヲ棄却ス

明治三十二年十月三日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

○公文書偽造行使等ノ件

明治三十二年第九二九號  
明治三十二年十月六日宣告

○判決要旨

(判旨第二點) 公訴不受理ノ裁判ノ干與ハ除斥回遑ノ原因トナラズ

公訴不受理ノ裁判ノ干與○公訴不受理ノ判決ニ對スル上訴

公訴不受理ノ裁判ノ干與○公訴不受理ノ判決ニ對スル上訴

八

(判旨第十二點) 被告ハ公訴不受理ノ判決ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

(同) 上 公訴不受理ノ判決ニ對シテ被告ヨリ上訴ヲ爲シタルニ拘ラス檢察ハ新クニ公訴ヲ提起スルコトヲ得

第一審 富山地方裁判所 第二審 大阪控訴院

公訴上告人 岡 龍 辯護人 牧野充安

私訴上告人 愛場伊兵衛 代理人 佐藤義彦

右龍碩ニ對スル公文書偽造行使公印盜用詐欺取財被告事件ノ公訴並ニ之レニ附帶ノ私訴ニ付キ明治三十三年六月二十四日大坂控訴院ニ於テ明治三十二年三月四日同年四月十四日原判決中有罪ノ部分ハ之ヲ取消シ更ニ被告龍碩ヲ輕懲役七年ニ處ス押收シタル二通ノ定期預リ金證書中各偽造ノ部分及偽造ニ係ル豫第二號豫第四號證ハ之レヲ沒收シ其他ノ押收書類及ヒ金員ハ各差出人ニ還付シ公訴裁判費用金八圓五十六錢ハ被告龍碩ノ負擔トス公訴不受理ニ對スル控訴ハ之レヲ棄却ス原判決ハ之レヲ取消シ被控訴人ノ請求ハ之レヲ棄却ス訴訟費用ハ第一審第二審共被控訴人ノ負擔トスト言渡シタル第二審判決中被告龍碩ハ公訴判決ニ對シ愛場伊兵衛ハ私訴判決ニ對シ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書第一點ノ要旨ハ板川助役ニ關スル被告事件ハ三月四日公判廷へ現出シタル附帶犯罪事件ナレハ刑事訴訟法第百八十四條ニ依リ裁判ヲ爲ス可キ筈ナルニ第一審裁判所カ檢察ノ起訴ナキトシテ公訴不受理ノ言渡ヲ爲シタルハ違法ノ裁判タルノミナラス其言渡ハ被告ニ不利益ナルニ不拘原院カ被告ニ不利益ナラサル旨ノ理由ヲ付シ同法第二百六十一條第一項ニ依リ控訴ヲ棄却シタルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○公訴不受理ノ裁判ハ被告ニ利益ノ裁判ナルヲ以テ之レヲ論難スルハ結局被告ノ不利益ニ歸スルヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由トナスヲ得ス』其第二點ハ助役板川榮次郎ニ關スル被告ノ事件ニ付テハ三月四日判事山内璞同宮内喜之助二名カ干與シテ不受理ノ裁判ヲ言渡シ乍ラ四月十四日右兩判事カ再ヒ同事件ニ干與シ裁判ヲ爲シタリ然ルニ原院カ此等ノ點ニ付キ裁判ヲ與ヘサルハ覆審ノ實ヲ表セサル裁判ニシテ第一、二審共同法第四十條第四項第四十四條ノ法則ヲ適用セサル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○公訴不受理ノ裁判ニ干與シタルハ除斥回遯ノ原因トナラサルノミナラス他ニ第一審判決ノ瑕瑾アルコトヲ判示シ之レヲ取消シタル以上ハ原院カ此點ニ對シ別ニ判斷ヲ與ヘサルモ違法ニアラス』其第三點ハ裁判所書記岩井民雄ハ明治三十一年十二月二十二日明治三十二年三月二十九日ノ兩日板川助役ニ關スル被告事件ノ豫審終結ニ關與シタルニ不拘明治三十二年四月十四日同事件ノ第一審公判言渡ニ干與シタルニ此點ニ付キ何等ノ裁判ヲ與ヘサルハ同法第四十五條ヲ無視シタル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○是亦原院カ他ノ瑕瑾ヲ認メ第一審判決ヲ取消シタルヲ以テ此點ニ對

公訴不受理ノ裁判ノ干與○公訴不受理ノ判決ニ對スル上訴

九



シ別ニ判斷ヲ爲ササルモ違法ナリト云テ得ス』其第四點ハ寺田米藏寺田吉之助兩名ハ被告ノ先妻フシノ實兄弟ナルヲ以テ同法第二百二十三條第二項ニ依リ婚姻解除ノ關係アルモ被告ニ對スル事件ニ付キ證人タルノ資格ナキヲ以テ之レヲ申立タルニ第一、二審共右二人ノ不實ノ供述ヲ採リ證人トシテ斷罪ノ證據ニ供シタルハ同法第二百二十三條ノ法則ヲ適用セサル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○右兩名ニ對シ第一審裁判所ハ同條記載ノ各事項ヲ問查シ之レニ觸レサルモノナルコトヲ認メ證人トシテ訊問シタルモノニシテ別ニ姻族ノ關係アリシコトヲ見ルニ足ルモノナケレハ其供述ノ無效タルヘキ筋合ナキヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由トナラス』其第五點ハ板川助役ニ關スル被告事件ニ對シ不受理ノ言渡アリタル上ハ同法第六十七條ニ從ヒ其請求ヨリ以前ニ係ル同事件ノ豫審調書及ヒ公判始末書ノ證言等ハ總テ無効ニ屬ス可シ然ルニ明治三十二年二月二十日第一審廷ニ於ケル梶原甚藏寺田米藏ノ證人トシテ爲シタル供述及ヒ二月十七日附ヲ以テ呈出シタル右兩名々義ノ自首書ヲ四月十四日言渡シタル公印盜用公文書偽造行使事件ノ斷罪ノ證據ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○右兩名ハ被告ノ騙取事件ニ關シ證人トナリ又其自首ヲ爲シタルモノナルコトヲ記錄ニ徵シ明カナレハ本論旨ハ相立タス』其第六點ハ豫審第二號第四號證ノ書類ハ助役板川榮次郎カ明治三十一年十月四日同月十四日自署捺印シテ被告方ヘ送達セシモノナリ而シテ板川助役ハ豫審ニ於テ其ノ職印ヲ被告ニ盜用セラレタリトノ供述ナキニ原院ハ何ニ據リテ助役板川榮次郎ノ隙ヲ窺ヒ同人ノ職印ヲ盜捺シ二通ノ偽造證書ヲ完成シ云々ト判

示シタリヤ證據ニヨリ認メタル理由ノ明示ナキ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院ハ其判決所掲ノ各證據ヲ綜合シテ被告カ助役板川榮次郎ノ隙ヲ窺ヒ云々ト事實ヲ認定シタルモノナルコト原判決ニ徵シ明了ナルヲ以テ證據理由ノ明示ナキ裁判ナリト云フテ得ス』其第七點ハ法律適用中ニ公印盜用公文書偽造行使詐欺取財ノ罪名アルニアリ五罪俱發ヲ答フハ九罪俱發ナルニ四罪輕重ヲ比較シ刑ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○被告ノ所爲ハ實質上ノ一罪トナルモノアリテ合セテ同罪トナルコト原判決ニ徵シ明カナレハ本論旨ハ其理由ナシ

被告ノ第一上告趣旨擴張辯明書第一點ハ上告趣旨第四點ノ趣旨ヲ其ノ第二點及ヒ第四點ハ上告趣旨第二點第三點ノ趣旨ヲ敷衍シタルニ外ナラサルヲ以テ重ネテ説明ヲ與フルノ要ナシ』其第五點ノ要領ハ第一審豫審終結決定又ハ抗告決定モ明記ナシ檢事ノ起訴モナキ收入役寺田吉之助ノ職印盜用等ノ罪アリトシテ裁判ヲ爲シタルハ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ裁判ヲ爲ス可カラストノ刑事訴訟法第百八十四條初項ニ背キタルモノナルニ原院カ之レヲ顧ミス第一審同様ノ裁判ヲ爲シタルハ法則ヲ適用セサル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○本件ハ收入役寺田吉之助ノ證書ヲ偽造シ其職印ヲ之レヲ盜捺シ之レヲ以テ泊銀行ヨリ金員ヲ騙取シタリト云フニ在リテ實質上ノ一罪ナルヲ以テ金員騙取ノ點ニ對シ已ニ起訴アル以上ハ證書偽造職印盜用ノ點モ自ラ之レニ包含セラレタルモノナレハ之レニ對シ起訴ナキモノト云フテ得ス故ニ本論旨ハ其理由ナシ』其第六點ノ要領ハ刑法第百條ニ依リ犯罪ノ輕重ヲ比較スルト

キハ金七百二十一圓四十四錢五厘ノ預リ證偽造行使罪ヲ以テ重シトセサル可カラサルニ金五百七十二圓七十四錢四厘ノ定期預リ證偽造行使罪ヲ重シトシテ處斷シタルハ事實理由ノ齟齬擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○四ヶノ公文書偽造行使罪ヲ比較シ其輕重ヲ定ムルカ如キハ原承審官ノ職權ニ屬スルヲ以テ本論旨モ其理由ナシ

其第七點ノ要領ハ梅原甚藏寺田米藏名義ノ自首書ハ本人共ノ自書署名捺印シタルモノニアラスシテ刑事訴訟法第二十一條末項ニ違反シタルモノナルニ之レヲ證據ニ採リ處斷シタルハ法則ヲ適用セサル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○同自首書ノ署名捺印ハ同人等カ自書シタルモノト見ルハ當然ナルヲ以テ本論旨モ其理由ナシ

其第八點ノ要領ハ板川助役ニ關スル被告事件ニ對シ公訴不受理ノ言渡アリタル上ハ同法第六十七條ニ從ヒ其請求ヨリ以前ノ豫審調書及ヒ公判始末書中ノ證言ハ總テ無效タル可キニ原院カ其無效書類ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ刑事訴訟法第六十七條第十二條ノ法則ヲ適用セサル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院カ明治三十一年三月四日附第一審判決記録中ノ豫審調書及ヒ公判始末書ノ一部ヲ證據ニ採リタルハ總テ金員騙取事件ニ牽聯ノ事項ナルヲ以テ板川助役ニ關スル事件ノ公訴不受理ノ爲メ其無效タルヘキ筋合ナキニ付キ本論旨モ其理由ナシ

其第九點ハ上告趣意第六點ノ趣旨ヲ被告ノ第二上告趣意擴張辯明書第一點ハ上告趣意第四點ノ趣旨ヲ敷衍シタルコト外ナラサルヲ以テ重ネテ說明ヲ與フルノ要ナシ其第二點ノ要領ハ上原村基本財産管理ハ町村制第六十九條ニ基キ監督支廳ノ認可ヲ經テ同村助役板川榮次郎ニ分掌セシメタル事務ナレハ被告事件ニ付キ民事原告人タル者ハ村長愛場伊兵衛ニアラスシテ助役板川榮次郎ナリトス良シヤ愛場村長カ民事原告人ノ資格ヲ有スルモノトスルモ板川助役ハ刑事訴訟法第二百二十三條第四項ニ所謂村役場ノ雇人又ハ同雇人ノ資格アルモノナリトス然ルニ板川助役ノ證言ヲ斷罪ノ證據トナシタルハ法則ヲ適用セサル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○板川助役ハ本件ニ附帶シテ私訴ヲ爲シタルコトナシ又助役ハ村役場ノ雇人又ハ同雇人ニアラサルヲ以テ原院カ同人ノ證言ニ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ニアラス

辯護士牧野充安上告擴張書ノ要旨第一點ハ板川助役ニ關スル被告事件ハ明治三十二年三月四日第一審ニ於テ公訴不受理ノ判決アリタルヲ以テ被告ハ之レニ對シ控訴ヲ爲シ尙ホ進ンテ上告ヲ爲シ現ニ其事件ハ當院ニ繫屬中ニシテ未確定ノモノナリトス然ルニ檢事ハ同一事件ニ付キ新ニ公訴ヲ提起シタルモノナルニ原院カ之レヲ受理審判シタルハ法則ニ違ヒテ公訴ヲ受理シタル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○公訴不受理ノ判決ニ對シテハ元來被告ヨリ上訴ヲ爲ス能ハサレハ假令被告ヨリ之レヲ不當ト爲シ上訴ヲ提起シタルト雖モ之レカ爲メ檢事ヨリ新ニ提起シタル公訴ノ違法タルヘキ筋合ナキヲ以テ原院カ板川助役ニ關スル被告事件ヲ受理審判シタルハ不法ニアラス其第二點ハ要スルニ被告ノ第

一上告趣意擴張辯明書第八號ノ趣旨ヲ敷衍シタルニ外ナラス』其第三點ハ要スルニ被告ノ上告趣意書第四點ノ趣旨ト同一ニ歸着スルヲ以テ何レモ重ネテ説明ヲ與フルノ要ナシ

私訴上告代理人佐藤義彦上告趣意擴張書第一點ノ要旨ハ原判決ニ依レハ被上告人カ泊銀行ニ呈供シタル預金證書ハ持參人ニ支拂ノ旨ヲ記載セル證書ナルコト明カナリ果シテ然ラハ民法第四百七十條第四百七十一條ニ依リ債務者ハ其所持人及ヒ其署名捺印ノ眞僞ヲ調査スル職務ナキニ付キ泊銀行カ辨濟ヲ爲シタル行爲ハ特ニ惡意若クハ重過失ナキ本案ノ場合ニ於テ無効タルヘキモノニ非ス故ニ民事原告人ハ泊銀行ニ對シ請求ヲ爲スヲ得サルハ明白ニシテ被告ノ犯罪行爲ニヨリ損害ヲ蒙ルモノハ民事原告人ナリトス然ルニ原院カ民事原告人ノ請求ヲ排斥シタルハ法律ニ違背シタル裁判ナリト云フニ在リ○因テ原判決ヲ查スルニ其理由中公訴判決ヲ援用シ而シテ其公訴判決ニ本案預リ證書ニ證書持參人ヘ支拂フ旨ノ明文アルコトヲ明示シアレハ泊銀行ハ之レニ對シ民法第四百七十條第四百七十一條ノ規定ニ從ヒ其所持人及ヒ其署名捺印等ヲ調査スルノ義務ナキヲ以テ同銀行カ其支拂ヲ爲シタルハ則チ有效ニシテ民事原告人ハ同銀行ニ對シ更ラニ其支拂ヲ求ムルノ權利ナキモノトス果シテ然ラハ民事原告人ハ被告ノ犯罪行爲ニヨリ直接損害ヲ蒙リタル者ナルヲ以テ私訴ヲ爲シ得ヘキハ當然ナルニ原院カ民事原告人ヲ被害者ニアテサルモノトシ其請求ヲ排斥シタルハ法則ヲ適用セサル不法ノ判決ニシテ破毀ヲ免カレサルモノトス已ニ此點ニ於テ原判決破毀ヲ認ムル以上ハ他ノ上告論旨ニ對シテハ一々説明ヲ與フルノ要ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ本件公訴上告ハ之ヲ棄却シ同第二百八十六條及ヒ同第二百九十條ノ規定ニ從ヒ原院カ言渡シタル私訴判決ノ全部ヲ破毀シ本件私訴ヲ名古屋控訴院民事部ニ移ス

明治三十二年十月六日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

### ○詐欺取財ノ件

明治三十二年第九五〇號  
明治三十二年十月六日宣告

#### ○判決要旨

犯罪供用ノ物件ト雖モ物件ニ對シ犯人以外ニ所有若クハ占有ノ權利ヲ有スル者アルトキハ之ヲ沒收スルコトヲ得ス  
沒收スルコトヲ得サル物件ニ對シ判決理由ニ於テ沒收スヘキモノト説明シタルモ判決主文ニ於テ沒收ノ言渡ヲ爲サ、ルトキハ不法

ニ非ス

第一審 岡山地方裁判所津山支部 第二審 大阪控訴院

被告人 須藤權次郎 辯護人 高木益太郎

右權次郎ニ對スル詐欺取財被告事件ニ付キ明治三十二年七月十一日大阪控訴院ニ於テ原判決ヲ取消シ更ラニ被告權次郎チ一年六月ノ重禁錮ニ處シ十五圓ノ罰金ヲ附加シ六月ノ監視ニ附ス押收物件ハ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用金五圓二十錢ハ被告ノ負擔トスト言渡タル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書第一ハ原判文ニ公判始末書ノ第二十四葉ト第二十五葉ノ間及二十九葉ト三十葉ノ間ニ契印ナキヲ以テ云々トアレトモ第一審公判ハ四回開廷アリタルヲ以テ其第何回ノ始末書ナルコトヲ明示セサリシハ理由不備ナリト云フニ在レトモ○其契印ナキコトハ第一審公判始末書ヲ查スレハ明了スヘキニヨリ其第何回ノ始末書ナルヤヲ示サ、ルモ理由不備ト云フヲ得ス』其第二ハ原判文ニ單ニ刑事訴訟法第二百六十一條云々トノミ記シ其何項ナルコトヲ明示セサリシハ理由不備ナリト云フニ在レトモ○同條ニ依リ第一審判決ヲ取消シタル以上ハ其第二項ヲ適用シタルコト自カラ明カナルヲ以テ特ニ之レヲ明記セサルモ理由不備ト云フヲ得ス』其第三ハ原院檢事ハ第一審判決ハ證據ノ明示ヲ欠キタル不法ノ判決ナリトノ附帶控訴ヲ爲シタルニ原院カ右點ニ付キ何等ノ判決ヲ與ヘサリシハ不法ナリト云フニ

在レトモ○原院公判始末書ヲ閱スルニ原院檢事カ附帶控訴ヲ爲シタル事跡ノ見ルヘキモノナキヲ以テ本論旨ハ其謂ハレナシ』其第四第五第六ハ原院ハ被告人ノ利益ノ爲メ重要ナル證據ニ付一々其採用セサル理由ヲ明示セサルハ不法ナリ且ツ原院カ現ニ證據トシテ取調ヘタル證人調書ヲ判決ニ至リ無効トナシ或ハ無効タルヘキ證據ヲ取調ヘ被告人ニ辯解セシメタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○被告ノ利益ノ爲メ呈出シタル證據ニ對シ之ヲ採用セサル理由ヲ付スヘシトノ規定ナキヲ以テ其理由ヲ付セサルモ不法ニアラス又タ證據取調ノ上無効タルモノアラハ之レヲ無効トナシ或ハ結局無効タル可キ證據ト雖モ被告ニ對シ辯解ヲ爲サシムルハ敢テ妨ケナキヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由トナラス』其第七ハ原判文ニ依レハ被告ノ所爲ハ擔保物ヲ詐リテ金員ヲ借用シタルモノナレハ民事上ノ訴訟ヲ受クヘキモノニシテ刑事上詐欺取財ノ法條ヲ適用スヘキモノニアラスト云フニ在レトモ○右ハ詐欺取財罪ヲ構成スルヲ以テ原院カ之レニ對シ詐欺取財ノ法條ヲ適用シタルハ不當ニアラス

同辯明書第一ハ原判決ハ法律適用ノ部ニ借金證書其他ニ付沒收ノ法條ヲ掲ケ而シテ判決主文ニ之レヲ明記セサリシハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ法律適用ノ部ニ借金證書其他ニ付キ沒收ノ法條ヲ掲ケ其ノ末段ニ右書類ニ付テハ被告ノ不利益トナササル爲メ原判決ヲ變更セサル旨ヲ明示シタルハ主文ニ沒收ノ言渡ヲ爲ササルハ當然ナルヲ以テ本論旨モ上告ノ理由トナラス』其第二ハ第一審判決カ借金證書委任狀各二通並通帳ハ各差出人ニ還付スト判決シタルヲ第二審ニ於テ右書類ハ之レヲ沒收ス

へキモノト認め且ツ没收ノ點ニ付テハ原判決ヲ變更セシテ主文ノ如ク判決スト判示シタルハ即チ原判決ヲ變更シタルモノニシテ理由ニ齟齬アル不當ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○第一審カ還付シタルモノチ第二審ニ於テ没收スヘキモノト判示スレトモ右ハ單ニ法律ノ理由チ異ニセルニ止リ主文ニ於テ第一審同様之レチ還付シタル以上ハ第一審判決ニ變更チ加ヘタルモノナリト云フチ得テ原判決ハ理由ニ齟齬アル不當ノ裁判ニアラス○其第三ハ原判決法律適用ノ部ニ單ニ其法條チ記載シタルニ止マリ其刑名刑期等チ明記セサリシハ不法ナリト云フニ在レトモ○其法條チ明示シタル上ハ刑名刑期等チ明示スルノ要ナキチ以テ之レチ明記セサルモ違法ニアラス○其四ハ原判決ニ刑事訴訟法第二十條又ハ第二百六十一條云々トノミ掲ケ其第何項ナルヤチ明記セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二十條ノ上ニ「(前略)孰レモ契印ナシ」ト記載シタル上ハ共同條第一項チ適用シタルコト自ラ明カナルチ以テ特ニ之レチ明記セサルモ不法ニアラス其第二百六十一條ノ點ニ付テハ上告趣意書第二ノ說明ニ依リ了解ス可シ○其第五ハ原判文ニ記載セル四月六日ノ委任狀ハ唯代理者ノ住所氏名チ記載シタル權限ノ白紙委任狀ナルニ之レチ權限ノ記載アルモノ、如ク說示シタルハ理由齟齬ナリト云フニ在レトモ○右ハ要スルニ原院カ其職權チ以テ爲シタル事實ノ認定ニ對シ批難チ試ムルニ過キサルチ以テ上告ノ理由トナラス○其第六ハ本件借金證書及ヒ委任狀ニ依レハ四月二十五日限り元金返金セサルトキハ委任狀チ以テ銀行ヨリ引出スヘキ契約ナルコト明カナルニ原判文ニ債主カ自由ニ引出シ得ヘキモノト判示シタルハ理由齟齬ナリ○第七ハ原判文ニ同月十八日午後四時頃又ハ四月六日午後四時頃云々證書及ヒ委任狀チ梅之助ニ交付シ云々トアレトモ證人調書等ノ内一モ右時刻チ陳述シタル記載ナキチ以テ是亦理由ニ齟齬アルモノナリト云フニ在レトモ○右ハ要スルニ原院カ判決所掲ノ證憑チ綜合シ其職權チ以テ爲シタル事實ノ認定チ非難スルニ外ナラサルチ以テ上告ノ理由トナラス

辯護士高木益太郎辯明書ノ要旨ハ本件借用證書委任狀及ヒ通帳等ハ孰レモ被害者ノ債權存立チ證明スル文書ナレハ之レチ没收スヘキモノニアラス然ルニ原判決法律適用ノ部ニ「押收ノ借金證書云々ハ同第四十三條第二號第四十四條ニ照シ」ト説明シタルハ違法ノ裁判ナリト云フニアリ○依テ案スルニ犯罪供用ノ物件ト雖モ其物件ニ對シ犯人以外ニ所有若クハ占有ノ權利チ有スルモノアルトキハ之レチ没收スル能ハサルコトハ刑法第四十四條ノ命スル所ナリ而シテ本件借金證書委任狀等ハ小阪田タイノ占有ニ係ルモノナレハ之レチ没收スルコト能ハサルモノナリ然ルニ原院カ之レチ没收ス可キモノト説明シタルハ違法タルチ免カレスト雖モ主文中別ニ没收ノ言渡チ爲シタルニ非テサルチ以テ原判決チ破毀スルノ原因トナラス

右ノ理由ナルチ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之レチ棄却ス  
 明治三十二年十月六日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

○官吏抗拒ノ件

明治三十二年第八六九號  
明治三十二年十月九日宣告

○判決要旨

法條掲記ノ位置其當ヲ得サルモ法律ノ適用ヲ誤リタルニ非サル以  
上ハ破毀ノ原山トナラス

第一審 宇都宮地方裁判所

第二審 東京控訴院

被告人 高木米吉  
大塚金次郎

右官吏抗拒及ヒ竊盜被告事件ニ付明治三十二年六月二十四日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ  
被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ要旨ハ原判決ハ事實ヲ不當ニ認定シ從テ法律ノ適用其宜シキヲ失シタル不法ノ裁判ナリト  
云フニ在レトモ○前半ハ漫ニ原承審官ノ職權ニ依リテ爲シタル事實ノ認定ヲ批難スルニ止リ上告ノ理  
山ト爲ラス後半ハ如何ナル法律ノ適用其當ヲ失シタルヤハ疏明ナキヲ以テ説明ヲ與フルニ由ナシ同

追加ノ要旨ハ原判決ノ掲ケタル巡查磯六郎ノ豫審調査及盜難届書並ニ杉山彦市ノ豫審調査ノ中ニハ羽  
織ニ關スル事柄ハアレトモ帶及ヒ極印ニ關スル點ハ見ルヘキモノナシ即帶及ヒ極印ニ對シテハ何等ノ  
證據及ヒ理由ノ明示ナキ不法アルノミナラス羽織ノ點ニ付テモ單ニ被害者ノ存スルコト、其盜品ニ類  
似スルモノヲ被告カ着用シタルコト、ノ二事實ヲ示スノミニシテ其羽織カ盜品ナルヤ否ヤヲ知り難キ  
ノミナラス假リニ盜品ナリトスルモ盜品ト被告ノ所有トノ關係ニ至リテハ毫モ之レヲ明示セス果シテ  
被告ノ竊盜ト云ヘル所爲ニ依リテ被告ノ手中ニ歸セシヤ將タ他ノ原因ニ依リテ被告ノ手ニ存スルヤヲ  
知ルニ由ナシ要スルニ證據中ノ事實ハ被告ノ竊盜行爲トノ關係ヲ明示セサル不法ノ裁判ナリト云フニ  
在レトモ○原判決ハ石塚秀吉ノ盜難届書中差押物品ノ内左ノ三品無之云々ノ文詞ヲ明示シ尙ホ左ノ三  
品ノ下括弧ヲ以テ前掲三品ト記シ判文前段ニ記載アル黒木綿男羽織男帶極印ノ三品ナルコトヲ示シテ  
レハ帶極印ニ付キ理由ノ明示ナシトノ論難ハ謂ハレナシ而シテ羽織ニ付テハ被害者ノ存スルコト及ヒ  
其組織ヲ被告カ着用シ居ルコトニ付キ被告カ盜取ノ事實ヲ認定スルハ事實承審官ノ判斷ニ存スルモノ  
ニシテ所論ノ如キ其他ノ關係ニ付理由ヲ示サ、ルモ不法ニアラス同擴張第一點ハ原判決書中法律適  
用ノ部「金拾圓ニ處シ金次郎ハ重禁錮五月附加罰金」ノ十九字ハ行外ニ挿入シアルニ拘ハラス之レニ對  
スル認印ナキハ勿論欄外ニ挿入ノ旨ヲ記セサルハ刑事訴訟法第二十一條ニ違背シタル不法アリト云フ  
ニ在レトモ○判決原本ヲ閱スルニ右十九字挿入ノ上部ニ認印アリ又挿入ニ付テハ其旨ヲ欄外ニ記入ス

ヘントノ規定ナキヲ以テ共ニ違法ニアラス』同第二點ハ原判決法律適用ノ部ニ「依リ」ノ三字ヲ行外ニ挿入シタルニ拘ハラス認印ナキハ不法ナリト云フニ在リ○同判決書ヲ見ルニ「依リ處分」ノ五字挿入シアリテ認印ナシ即チ無効ノ挿入ニ歸ス然トレモ此五文字ヲ除ケハ第四十七條ニ可クトナルヲ以テ語句ノ不允當ハ免レサルモ第四十七條ニ從ヒ處分スヘキノ意タルヤ知り得ヘキカ故ニ之ヲ不法ナリトシテ破毀スヘキノ限リニ非ス』同第三點ハ判決主文中「ノ内竊盜ニ關スル」ノ十字ヲ挿入シ又其下ニ續キテ「被告米吉」ノ四字アリ又下ニ續キテ「其他」ノ二字アリ何レモ二段ニ「ノ符號アリテ而シテ認印ハ挿入字句ノ上部ニ一箇アルノミニシテ下方ニ挿入セル部分ニ付テハ認印アルコトナシ是レ亦刑事訴訟法第二十一條ニ違背セル不法アリト云フニ在レトモ○原判決書ヲ見ルニ符號ハ上部ヨリ下部ニ連續シアリテ其上部ニ認印シアレハ此認印ハ挿入全體ニ付押捺セラレタルモノニシテ敢テ違法ニアラス本院檢事附帶上告ノ趣旨ハ本件ハ封印ヲ破棄シ竊盜ヲ爲シタルモノナルヲ以テ刑法第三百七十一條第三百六十六條第三百七十六條第三百七十四條第一項條第三百七十六條ヲ適用處斷スヘキ筈ナルニ原判決茲ニ出テヌ第三百七十四條第一項ニ依リ云々ト法律ヲ適用シタルハ不法ナルニ依リ此點ニ付破毀シ更正アリタシト云フニ在リ○依テ原判決ヲ見ルニ「第一、二米吉ノ所爲ハ刑法第七十五條第三百七十一條第三百六十六條第三百七十六條第三百七十四條第一項ニ依リ重キ竊盜ニ從ヒ」云々トアリテ、第三百七十五條以下法條ヲ列記シ來リ而シテ、第三百七十四條第一項

ニ依リ云々ト説明シタルカ爲メ附帶上告ノ依リテ起サレタルニ外ナラサルモ此「依リ」トノ文詞ハ列記ノ法條總テニ關シタルモノニシテ即チ第三百七十五條ニ依リ、第三百七十一條ニ依リトノ趣旨ニ外ナラサルヤ知り得ヘシ要スルニ原判決ハ法律ノ適用ヲ誤リタルニ非スシテ法條掲記ノ位置又ハ文字ノ不允當ナルニ坐スルニ外ナラス敢テ擬律錯誤ノ不法アリト爲スニ足ラサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ被告ノ上告及ヒ檢事ノ附帶上告ハ共ニ之レヲ棄却ス

明治三十二年十月九日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十二年第九九四號  
明治三十二年十月十日宣告

○判決要旨

犯罪ノ場所ハ之ヲ明示セサルヘカラス然レトモ之ヲ以テ刑事訴訟法第二百三條ニ所謂罪トナルヘキ事實ナリトスルヲ得ス從テ特ニ

犯罪ノ場所ノ明示

證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ明示スルヲ要セス

(參照) 刑ノ言渡ヲ爲スニハ罪トナルヘキ事實及ヒ證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ明示シ且法律ヲ適用シ其理由ヲ付ズヘシ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スニ付テモ亦其理由ヲ明示スヘシ(刑事訴訟法 第二百三條)

第一審 仙臺地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 盛名貞吉

右詐欺取財被告事件ニ付キ明治三十二年七月二十二日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣意書第一ハ被告ハ芦名熊太郎ニ對シ金三十圓ヲ貸與シ其利分六圓ヲ合シテ三十六圓ニナルカ故ニ之ヲ差引キ殘金百四十四圓ヲ渡シタル事實ハ檢事ノ聽取書及ヒ第二回豫審ニ於テ申立タリ而シテ證人清野瀧次郎芦名熊太郎等ノ證言ニ符合シテ被告カ熊太郎ニ對シ債權アルコトハ動カス可カラサル事實ナリ尙ホ其後債權者荒川忠吉ニ對シ悉皆計算ノ上抵當地ヲ引渡シ事結了シタルモノナレハ被告ニ犯罪行為ナキニモ不拘有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサレハ上告ノ理由ナシ』第二ハ原判決ハ漠然同月中日不詳トノミアリテ其犯罪ノ何年何月タルヤヲ知ルニ由ナク又犯罪ノ場所ニ付テハ右肩書地ナル被告ノ宅ニ於テ擅ニ之レヲ費消シ云々凡金員ヲ費消スルニハ自宅ニ於テ費消スルヲ普通ナリトスルヲ以テ被告ハ該金ヲ自宅ニ於テ

費消シタルモノト推定シタル所以ナリト判示シタリ抑モ如何ナル證據ニ依リ斯ル推定ナ下シタルヤ其基本タル證據アルコトナシ事實ヲ認定スルハ判官ノ職權ナリト雖モ無證ノ事實ヲ定想シテ犯罪ヲ推測スルハ法ノ許ササル所ナリ之レ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判文ノ冒頭ニ明治三十一年一月 中云々ト掲ケ之ヲ承ケテ以テ同月中ト記載シタルモノナルコト明了ナレハ犯罪ノ年月ヲ示ササルモノト云フヲ得ス又犯罪ノ場所ニ付テハ判決上之レカ明示ヲ要スルト雖モ抑其場所ノ如キハ刑事訴訟法第二百三條ニ所謂罪トナルヘキ事實ニアラサルヲ以テ特ニ其證據ニヨリ之レヲ認メタル理由ヲ示ササルモ不法ト云フヲ得ス

辯護士辯明書ハ原判決中斷罪ノ理由トシテ掲ケラレタル被告第二回豫審調書中(記錄二十二枚目以下)ニハ判文中摘記セラレタル間其方ハ熊太郎ノ依頼ヲ受ケ二百圓ノ證書ニヨリ熊太郎ニ渡ス可キ金百八十圓ヲ受取り其内百四十四圓ヲ渡シタル殘額三十六圓ヲ其方ニ於テ恣ニ使ヒ込ダテハナイカ答實ハ三十六圓ノ金ハ一時支拂ニ差支ヘ熊太郎ニ話サス恣マニ使ヒ込ダテニ相違アリマセシ等ノ申立ヲ被告ニ於テ爲シタルコトノ記載アルコトナシ然ルニ原院ニ於テハ如此申立アリタルモノナリトシテ被告ニ有罪ノ判決ヲ言渡シタルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○一件記錄ヲ查スルニ第二回ト題スル調書ハ二通アリテ其明治三十二年五月五日附ノ第二回調書ニハ所論ノ如ク其ノ記載ナキモ同年同月十二日附ノ第二回ト題スル調書ニハ右問答ノ陳述ヲ錄取シアレハ原院ハ其後者ノ調書ヲ採用シタルコト



明カナルヲ以テ上告ハ其理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之レヲ棄却ス

明治三十二年十月十日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

○私書變造行使等ノ件

明治三十二年第九九二號  
明治三十二年十月十三日宣告

○判決要旨

(判旨第三點) 偽造證書ヲ自己ノ代理人ニ交付シタル場合ト雖モ真正ノ文書トシテ交付シタルトキハ文書偽造行使罪ヲ構成ス

(判旨第八點) 印影ノ盗用ヲ共謀シタル上他ノ共謀者ニ於テ之ヲ盜捺シタル以上ハ自ラ手ヲ下サスト雖モ犯罪ノ實行ニ干與シタルモノトス

第一審 松江地方裁判所濱田支部

第二審 廣島控訴院

被告人 (米原綱善)

辯護人 (岡崎正也)

右兩名カ私書變造行使詐欺取財未遂事件ニ付キ明治三十二年七月二十二日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告兩名ハ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル如左

被告綱善ノ上告趣意書第一點ハ本件山毛上賣買ニ付テハ上告人米原綱善ハ其代金ヲ貸與スルコトノ依頼ヲ受ケタリ故ニ之ヲ調達スルニ付テハ其一半ハ銀行ニテ借出シ其一半ハ竹崎安次ニ於テ出金スルコトヲ約シ安次ハ竹内安次郎ヨリ借出スコトヲ約シアリシコトハ證人銀行手代神代久亮竹崎安次竹内安次郎ノ證言ニ依リ明カナリ若シ違約金ヲ詐取セント共謀セシモノナレハ何ソ斯ク大金ヲ調達スル如キ迂愚ヲ學ハンヤ然ルニ原院ニ於テ上告人ニ對シ共謀ノ證據トシテ主トシテ第一審共同被告嘉島藤太ノ豫審第一回ノ申立參考人中山淺五郎泉群次ノ申立ヲ援用セラレタレトモ嘉島藤太ノ申立ハ豫審第二回以下ノ申立ニ於テ變更セルノミナラス其第一回ノ申立ハ自己ノ罪ヲ免レ他ニ罪ヲ嫁セントスルモノナレハ同人豫審第一回ノ申立ハ以テ上告人カ共謀ノ證據トナスニ足ラス其參考人中山淺五郎泉群次ノ申立ハ共ニ事案ノ成行ヲ演述セルニ止マリ上告人カ嘉島藤太式村久吉ノ行爲ニ共謀シタリトノ證據トナラス然ルニ原院ニ於テ共謀者ト認定セラレタルハ證據ニ依據セサル臆斷ニ過キサリナリ故ニ上告人ニ於テ金主タルカ爲メニ金員ヲ調達シ之レヲ携帶シタル等金主タルノ行爲ヲ盡シタルモ尙ホ詐欺取財ノ共謀者トナサントスルニハ他ニ相當ノ理由ヲ示サル可カラス然ルニ此點ニ對スル原院裁判ハ何等ノ

理由ヲモ明示セサルハ理由不備ノ裁判ナリトスト云フニアレトモ○原判決ニハ被告等カ共謀シテ詐欺取財ヲ爲サントシテ遂ケサリシ事實理由ヲ示シアリテ本論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定探證ノ當否ヲ非難スルニ過キササルヲ以テ上告適法ノ理由ナシ

第二點本件山毛上賣買ニ付キ其不履行ノ時ハ賠償金二千圓ヲ出ストノコトハ立戸惣代人ニ於テモ承諾上ニ出テタルモノナルコトハ參考人中山淺五郎泉群次ノ申立ニ依ルモ明カナリ其賣買履行期限カ十一月十八日ニシテ此期限ヲ中山淺五郎ニ於テ承諾セシヤ否ハ本件主要ノ問答ナレ共此問答ハ上告人ニ對シテハ格別主要ノモノニアラス何トナレハ中山淺五郎ニ於テ若シ承諾セサリシモノトスルモ上告人ハ嘉島藤太ノ言ヲ信シ其依頼ニ應ジ證書ニ記入シタル迄ナレハナリ中山淺五郎カ右期限承諾セサリシトノ證據ヲ示シ直ニ上告人カ共謀セリトノ證據ナリトセラレタルハ所謂理由不備ノ裁判タルヲ免レサルナリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告カ式村久吉嘉島藤太ト共謀シテ詐欺取財ヲ爲サントシテ證書ヲ變造行使シ私印ヲ盜用シタル事實ハ證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ説明シアリテ中山淺五郎カ期限ヲ承諾セサリシトノ證據ノミヲ示シ被告カ共謀ノ證據トナシタルモノニアラス要スルニ事實ノ認定探證ノ當否ヲ論争スルニ過キササルヲ以テ本論旨ハ其理由ナシ

第三點ハ本件ニ所謂變造證書ナルモノ現ニ行使セラレタルヤ否ヤ又好シ行使セラレタリトスルモ上告人カ其行使ニ同意ナリシヤ否ヤヲ決スルハ亦必要ノ問答ナリトス原院ノ判旨ヲ見ルニ綱善久吉藤太ノ

三名ハ久吉ノ名義ヲ以テ該變造證書ニ基キ群治淺五郎ニ係リ出訴ヲ爲シ裁判上之ヲ騙取センコトヲ協議セシ末久吉ハ明治三十年十一月二十三日頃島根縣美濃町益田町豊田小三郎方ニ至リ同人ニ右違約金二千圓請求ノ出訴方ヲ依頼シ前記變造ノ證書ヲ示シ之レヲ同人ニ交付シタリトアリ然ルニ一件記録ヲ閱スルニ此點ニ關スル右三人ノ申立ハ毫モ裁判上騙取セント協議シタリト申立テタル廉ナキノミナラス式村久吉ノ申立ノ如キハ現ニ綱善ニ於テ出訴ヲ同意セス寧ロ之ヲ止メタリトノ語氣アル程ナルニ漫然之レヲ三名協議シタリトセラレタルハ臆斷ニアラサレハ理由不備ノ判決ナリ良シ假リニ一步ヲ讓リ裁判上出訴ヲ協議シタリトスルモ豊田小三郎ハ支拂命令ノ申請ヲ代理シタルモノニシテ其申請ノ代理人ニ之ヲ示シ之ヲ交付シタルヲ以テ行使シタリト爲スヲ得ス何トナレハ代書ヲ爲スモノハ本人ノ意思ヲ聞キ之レヲ書面ニ顯ハスニ過キサレハナリ故ニ之レヲ或ル裁判上ノ請求ニ付其代理人タル辯護士ニ對シ證據トシテ提出ナサシムル爲メ交付スル如キト同一視スヘキモノニアラサルナリ故ニ上告人カ右變造ノ證書行使ノ協議ニ與リタリトスルモ未タ以テ其證書カ行使セラレタルモノニ非サルナリ然ルニ之レヲ變造證書行使トシテ處罰セラレタルハ擬律ニ錯誤アル裁判ナリト云フニアレトモ○原判決ニ被告カ久吉等ト詐欺取財ヲ爲サントシ共謀シタル事實ヲ證據ニ據テ認定シタル理由ヲ明示シアルコトハ前項説明ノ如シ而シテ文書偽造行使ノ罪ハ偽造ノ文書ヲ以テ真正ノ文書ナリトシテ之ヲ使用スルニ由テ成立スルモノナレハ自己ノ代理人ニ交付スルモ尙モ真正ノ文書トシテ之ヲ交付シタルハ偽造文

書行使ハ犯罪タルヲ免カレサルヲ以テ本論旨亦其理由ナシ

被告久吉ノ上告趣意書ハ被告綱善ノ上告趣意書第三點後段ニ同シキヲ以テ重ネテ説明セズ』被告久吉ノ上告趣意書ハ要スルニ被告ハ綱善及第一審ノ相被告嘉島藤太ト共謀シテ犯罪ヲ爲シタルコトナシ然ルニ原院カ同人等ト共ニ私書變造行使詐欺取財未遂ノ所爲アリト認定セラレタルハ不法ナリ假ニ日附ヲ記入シタル事實ヲ以テ私書變造ノ所爲ナリトスルモ詐欺ノ所爲ハ決シテアルコトナシト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告ハ綱善藤太ト共謀シテ私印ヲ盜用シ私書ヲ偽造行使シテ詐欺取財ヲ爲サントシタル事實ナリ而シテ事實ノ認定ハ原院ノ職權ニ存スルヲ以テ之ヲ論争スルモ上告ノ理由トナラス

同再辯明書ノ要旨ハ被告ハ原院ニ於テ一切ノ書類ヲ朗讀アランコトヲ請求シタルニ僅カニ藤太淺五郎ノ申立ノ外朗讀ナシ第一審ニテモ同様ナリ故ニ被告ハ山口林三郎及其他ノ證人等カ如何ナル申立ヲ爲シタルヤ知ルヲ得ヌ又證據書類ニ付テモ一々審問アレハ答辯ヲ爲スヲ得可キモ然ラスシテ一度ニ示サレタルヲ以テ之ニ付キ申立ヲ爲ス能ハサリシノミナラス辯論ノ際ニモ被告ハ未ダ辯論ヲ終ラサルニ不拘辯護士ヨリ申立タルヲ以テ申立ツルニ及ハストテ制止セラレタルヲ以テ申立ヲ爲ス能ハス之レ或ハ二人ノ辯護士出廷シタルヲ以テ其一人ハ被告辯護士ト誤認セラレタルナラン然レトモ被告ハ辯護士ヲ有セサリシモノナリ右ノ如ク原判決ハ其手續ニ不法アルヲ以テ破毀アランコトヲ乞フト云フニ在レトモ

○原院公判始末書ニ依レハ藤太淺五郎ノ調書ノミナラス原判決ニ證據トシテ採用シタル證據書類ハ之レヲ朗讀シテ被告等ノ意見ヲ問ヒ又ハ之レヲ示シテ辯解ヲ聞キタル旨ノ記載アリ而シテ數箇ノ證據書類一時ニ示スモ敢テ不法トセス又被告ノ辯論ヲ制止シタリト認ム可キ事項ナキヲ以テ本論旨ハ總テ相立タス

被告綱善辯護人岡崎正也ノ擴張書第一點ハ原裁判ニ於テ明治三十一年一月二十五日附松江地方裁判所濱田支部檢事寺田恒太郎ノ豫審請求書ヲ採テ斷罪ノ證ニ供セラレタルモ元來豫審請求書ハ當該檢事カ公訴ニ關シ爲シタル起訴ノ手續ニ過サレハ書類其物ノ性質ニ於テ犯罪事實ノ證據ト爲シ得可キモノニアラサルヤ勿論ナリ然ルニ原院カ採テ以テ事實判斷ノ證據ト爲シタルハ法則ニ反シ不法ニ事實ヲ確定セシモノナリト云フニ在レトモ○原判決ヲ查閱スルニ原院カ檢事ノ豫審請求書ヲ證據ト爲シタルハ本件犯罪事實ヲ認定シタルモノニアラサルヲ以テ原判決ハ論旨ノ如キ不法ナキモノトス

同第二點ハ刑法第百條ノ所謂「重罪輕罪ヲ犯シ未ダ判決ヲ經スニ罪以上俱發シタルトキハ重キニ從テ處斷ス」トハ即チ俱ニ發シタル數罪ノ内一ノ重キ犯罪ニ對シ刑罰ヲ言渡スヘキコトヲ規定セルモノニシテ本條ニ因リ俱ニ發シタル數罪ノ内一ノ重キ犯罪ニ對シ言渡サレタル刑罰ハ即チ俱ニ發セル數罪ノ全部ニ對スル刑罰タルヘキモノナリ然ルニ原裁判ニ於テハ「法律ヲ案スルニ被告綱善久吉ハ二人以上

共ニ罪ヲ犯セシモノニ付キ刑法第四百四條ニ依リ正犯ト爲シ而シテ被告兩名カ私印ヲ盜用セシ所爲ハ共ニ同法第二百八條第二項第一項第二百十二條ニ該當スルヲ以テ被告久吉ヲ重禁錮一年三月ニ處シ罰金十五圓ヲ附加シ監視六月ニ付シ被告綱善ヲ重禁錮一年ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス被告兩名カ契約證書ヲ變造行使セシ所爲ハ共ニ同法第二百十條第一項第二百十二條ニ該當シ金員騙取ノ所爲ハ共ニ同法第三百九十四條第一項第三百九十四條ニ該當スルモ未遂犯ナルニ付同法第三百九十七條第一百二十二條ニ依リ已遂ノ刑ニ一等ヲ減シ詐欺取財ヲ爲スニ由リ私書ヲ變造行使セシモノナルヲ以テ同法第三百九十條第二項ニ依リ重キ私書變造行使罪ヲ論シ被告兩名ヲ各重禁錮十月ニ處シ罰金七圓ヲ附加シ監視六月ニ付シ私印盜用罪ト俱發スルヲ以テ同法第百條ニ依リ所犯情狀最モ重キ私印盜用罪ニ從テ處斷シト判示シ即チ數罪各個ニ對シ刑罰ヲ言渡シ而シテ其一ヲ執行スヘキモノ、如ク判決セラレタリ之レ即チ數罪俱發セルトキハ一ノ重キ犯罪ニ對シ刑罰ノ言渡ヲ爲スヘキモノナリトノ數罪俱發ニ關スル法則ニ違反セル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ主趣ハ數罪ニ對シ各別ニ刑ヲ言渡シタルニアラスシテ俱發シタル數罪中犯情最モ重キ罪ニ從テ處斷センカ爲メ一罪毎トニ刑期ヲ量定シ其重キ私印盜用罪ニ從ヒタル法律ノ理由ヲ説明シタルニ過キササルヲ以テ論旨ノ如キ不法ナキモノトス同第三點ハ原裁判所ニ於テハ被告綱善ニ對シ認メラレタル犯罪事實ハ要スルニ綱善ハ被告久吉藤太ト謀リ立木買入ノ申込ヲ爲シ惣代等ニ於テ違約ノ廉アルトキハ違約金ヲ出ス可キコトヲ約シ言ヲ違約ニ

籍リ金員ヲ騙取セシト企テタリトノコト並ニ右證書中第一項ト第二項トノ間ニ本月十八日ニ至リ第一條ノ契約書ヲ取付後不差出候節ハ賣山ノ手續ヲ廢シ賠償金ハ今日限り可差出事トノ一項ヲ記入シタリトノ事實ニ過キス而シテ藤太カ保證人トシテ該證書ニ記名調印ノ上ニ之ヲ前記ノ茶店ニ持來リ淺五郎ノ文旨ニ乘シ右十八日ノ期限ヲ記入セシコトヲ秘シ單ニ文字ヲ訂正シタル個所ニ捺印ヲ爲スヘシト申詐リ期限ヲ挿入セシ部分ニ捺印ヲ爲サシメタリトノ點ニ對シテハ被告綱善カ右捺印ノ事實ニ關與シタリトノ事實ハ原院ノ判示セサル所ナリトス其次第ハ原裁判中事實ヲ判示スルニ當リ右盜用ノ事實ニ就キ被告綱善ノ關與セシコトヲ判示セサルノミナラス事實判斷ノ理由トシテ原裁判ニ説明セラレタル「第一審ノ相被告喜島藤太陳述中(前略)庄尾町ノ茶店ニ淺五郎ヲ待セ置キ綱善方へ立越シタルニ同人ハ久吉トハ群治淺五郎ヨリ受取リタル二千圓ノ違約金ヲ出ス可キ證書へ其期日ヲ十一月十八日限りナルコトニ記入スヘシトテ綱善ハ筆ヲ採リ擅ニ之ヲ記入シ其部分ニ淺五郎ニ捺印セシヲ來レリト云フヨリ云々」ト有之綱善ハ毫モ右記入ノ部ニ對シ淺五郎ノ印ヲ盜捺スヘキコトヲ申談シタル事實ニアラサルコト明カナリ然ルニ原裁判ニ於テ法律適用ニ至リ被告綱善ニ對シテモ亦刑法第百八條ヲ適用セラレタルハ事實理由不備ノ不法ヲ免カレサルモノトスト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ「被告綱善久吉ハ云々第一審ノ共同被告喜島藤太ト共謀シ右群治等ニ對シ該立木ノ買入レテ申込ミ眞ニ買取ルモノ、如ク詐リ其賣買ヲ約スルニ方リ惣代ノ者ニ於テ若シ違約ノ廉アルトキハ違約金ヲ出ス可キコトヲ約シ

言テ違約ニ藉リ以テ金員ヲ騙取セント企テ云々綱善久吉藤太三名ハ前記ノ契約書中第一項ト第二項トノ間ニ本月十八日ニ至リ第一條ノ契約書ヲ取付後不差出候節ハ賣山手續ヲ廢シ賠償金ハ同日限り可差出事トノ一項ヲ綱善執筆シテ擅ニ記入シ以テ六十八名ノ調印シタル證書ヲ交付ス可キ日限ヲ九月十八日限リトナシ右日限ヲ經過スルトキハ二千圓ノ賠償金ヲ負擔ス可キ契約ナル如ク變造シ其罪名ニ久吉名義ヲ記入シ藤太ハ保證人トシテ之ニ記名調印ノ上之ヲ前記茶店ニ持來リ淺五郎ノ文旨ニ乘シ云々押印ヲ爲サシメ一旦綱善方へ戻リ云々其印影甚々淡クシテ判明ナラサルヨリ被告人等ハ淺五郎ヲシテ更ラニ押印セシムルコト、シ云々久吉藤太ハ淺五郎ニ對シ前記契約證書ニ右日限ヲ記入セシ情ヲ秘シ尙訂正ノ箇所アルヲ以テ押印ス可シト申詐リ同人ノ印判ヲ久吉ニ渡サシメ同人ハ之ヲ右期限挿入ノ部分ニ押捺シ前顯押印ノ不判明ナル點ヲ補ヒ其變造ヲ完成シタリ云々トアルニ依レハ綱善ハ自ラ手ヲ下サスト雖モ久吉藤太ト印影ヲ盜用センコトヲ共謀シ久吉藤太ハ其共謀ニ基キ印影ヲ盜用シタル事實ナレハ被告モ亦其犯罪ノ實行ニ關與シタルモノト云ハサルヘカラス故ニ原院カ被告ノ所爲ニ對シ刑法第百八條ヲ適用シタルハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

同第四點ハ凡ソ證書行使罪ヲ構成スルニハ偽造又ハ變造シタル證書ヲ證據トシテ第三者ニ對シテ之ヲ行使セサル可カラズ然ルニ原裁判所ノ判示ニ依ルニ被告ハ該變造證書ヲ其代人タル豊田小三郎ニ交付シタルト云フニ過キス且ツ又豊田小三郎ハ支拂命令ヲ益田區裁判所ニ申請シタリト云フニ過キスシテ

判旨第八點

訴訟上之レヲ證據ノ用ニ供シタルコトヲ判示セサルニ不拘之レヲ證書偽造罪ニ問擬シタルハ事實理由ノ不法ヲ免カレスト云フニ在レトモ○被告綱善ノ上告趣意書第三點ニ對スル説明ニ依リ其理由ナキコトヲ了解スヘシ

同辯護人高木益太郎辯明書一點ハ原判決ハ益田區裁判所ノ回答書ニ依リ違約金支拂命令ノ申請ヨリ口頭辯論期日指定マテノ事實ヲ斷定シタレトモ凡ソ公訴ノ提起アリタル以後ニ於テ第三者ヲシテ被告事件ノ事實ヲ證明セシメントスル場合ハ必ズ證人訊問規定ニ基キ之レヲ取調フルコトヲ要スルモノトス故ニ豫審判事ヨリ關係人ニ向テ照會書ヲシテ取調ヲ爲シ又ハ關係人ハ之レニ回答書ヲ以テ答辯ヲ試ムルカ如キハ固ヨリ刑事訴訟法ノ認定セル所ニシテ同法第九十條ニ所謂證據中ニハ回答書ノ如キヲ包含セサルコト明白ナリトス左スレハ原院カ前掲ノ文書ヲ裁判上ノ證據ト認メタルハ不法ノ裁判所ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第九十條ハ證據ヲ制限シタルモノニアラス而シテ本件益田區裁判所判事ノ回答書ハ固ヨリ違法ノ文書ニアラザルヲ以テ原院カ之レヲ證據トシテ採用シタルハ不法ニアラス

同第二點ハ原判決理由中「前記ノ契約證書(中略)ヲ前記ノ茶店ニ持來リ淺五郎ノ文旨ニ乘シ右十八日ノ期限ヲ記入セシコトヲ秘シ單ニ文字ノ訂正シアル個所ニ押印ヲ爲ス可シト申詐リ期限ヲ挿入セシ部分ニ押印ヲ爲サシメ(中略)尙ホ訂正ノ個所アルヲ以テ押印スヘシト申詐ハリ同人ノ印判ヲ久吉ニ渡サシメ同人ハ之ヲ期間挿入ノ部分ニ押捺シ云々」ト認メ之ニ對シ印影盜用ノ法則ヲ適用シタレトモ其印

願ハ淺五郎自ラ押捺シ又ハ淺五郎ヨリ久吉ニ交付シ淺五郎ノ目前ニ於テ久吉ノ押捺ニ係ルモノナレハ假令期限挿入ノコトヲ秘シ詐言ヲ用ヒテ印願ヲ押捺シタリトスルモ其押捺ハ兎ニ角承諾アリシモノナルヲ以テ刑法ハ所謂印影盜用ノ罪アリト云フヘキモノニアラスト云フニ在レトモ○欺キテ其承諾セサル文書ニ押印セシメ之レヲ行使スルトキハ印影盜用罪ヲ構成ス况ニヤ本件ニ於テハ訂正ノ箇所アルヲ以テ押印ス可シト詐リ淺五郎ヲシテ其印判ヲ被告久吉ニ渡サシメ久吉ハ之レヲ淺五郎ノ承諾セサル變造ノ證書ニ押捺シ被告等ハ之レヲ行使シタル事實ナレハ印影盜用罪アルヤ勿論ナリ故ニ本論旨ハ相立タス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之レヲ棄却ス

明治三十二年十月十三日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○官文書變造等ノ件

明治三十二年第八三六號  
明治三十二年十月十六日宣告

○判決要旨

刑事訴訟法第二百六十五條ニ所謂原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サストノ法則ハ判決主文ノ刑ヲ重キニ變更スルコトヲ許サルノ趣旨ナリ

(參照) 被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サス(刑事訴訟法第二百六十五條第一項)

第一審 秋田地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 佐貫道弘 變護人 高木益太郎 沼田宇源太

右官文書變造官印盜用委託金費消事件ノ控訴ニ付明治三十二年六月十三日宮城控訴院ニ於テ原判決ハ之レヲ取消ス被告道弘ヲ重懲役九年ニ處ス押收書類中有體動產假差押調書二通ノ中變造ニ係ル部分ハ之レヲ沒收シ其餘ハ各差出人ニ還付ス公訴費用ハ被告道弘ノ負擔トスト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ裁判所構成法第四十九條ニ基キ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ノ要旨第一點檢事カ被告事件ヲ陳述スルハ公判廷ニ於ケル一ノ法式ナリ然ルニ第一二審共

不利益變更ノ意義

檢事ノ被告事件陳述ナキニ裁判所ハ豫審決定ニ基キ審理ヲ求ムト申述ヘタルモ是レハ被告事件ノ陳述  
 ニ非サルコトハ明カナリ故ニ公判手續ニ違背シタル不法アリト云フニ在レトモ○第一審公判始末書ニ  
 「檢事曰被告事件ハ(中略)豫審判事ノ終結決定ト同一ナリトス因テ右決定ニ基キ審理ヲ請求ス」トア  
 ルハ檢事ノ被告事件陳述タルヤ疑ヒナキヲ以テ第一審ニ於テ檢事ノ被告事件陳述ナシト云フヲ得サル  
 ノミナラス假リニ第一審ノ公判手續ニ右ノ如キ違法ノ廉アリトスルモ第二審ニ於テ相當ノ手續ヲ履行  
 シ審理ヲ遂ケタル上ハ之レヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ヌ又本件ハ被告ノ控訴ニ係ルヲ以テ原院カ被  
 告ヲシテ先ツ控訴ノ趣旨ヲ陳述セシムルハ當然ナルカ故ニ第二審ニ於テ檢事ヨリ被告事件ノ陳述ヲ爲  
 サ、ルハ相當ニシテ違法ニアラス』其第二點ハ豫審ニ於ケル各證人訊問調書ヲ閱スルニ「佐貫道弘外二  
 名ト何等ノ關係ナキヤ」トノ問アルノミニシテ刑事訴訟法第二百二十三條ニ記載ノ者ナルヤ否ヤ詳細  
 訊問セサリシハ違法ナルニ原院カ此違法ノ證人訊問調書ヲ斷罪ノ根據トナシタルハ違法ナリト云フニ  
 在レトモ○各證人訊問調書ニ「佐貫道弘外二名ト何等ノ關係ナキヤ」トアルハ刑事訴訟法第二百二十三條  
 記載ノ各事項ヲ問查シタルヲ略記シタルモノナリト認メ得キヲ以テ本論旨モ上告ノ理由トナラス』  
 其第三點ハ被告ハ會テ申立テタルコトナキニ豫審判事ハ第四回豫審ニ於テ「其訴ハ先日ノ申立ニハ先  
 キニハ石川一人ニシテ大野ノ署名ハ無カリシト申立タルニアラスヤト或ハ誘ヒ或ハ逼リテ被告ヲシテ  
 自白セシムルノ意ニテ斯ル詐言ヲ用フタルモノナレハ其詐言ノ無効タルハ勿論豫審處分ハ全部無効ニ

屬スヘキモノナリ然ルニ原院カ被告并ニ證人ニ對スル豫審調書ニ基キ事實ヲ確定シタルハ違法ナルノ  
 ミナラス本件ニ付テハ有效ナル豫審ナキモノナリト云フニ在レトモ○被告ノ豫審調書ヲ査閱スルニ豫  
 審判事カ被告ニ對シテ故ラ詐害ヲ用フ訊問ヲ爲シタリト認ムヘキ廉ナキヲ以テ本論旨モ上告ノ理由トナ  
 ラス』其第四點ハ執達吏手數料規則末條ノ調書ニ附記スヘキ執務時間トハ執行ニ必要欠クヘカテサル  
 行爲ニ要スル時間ヲ指シタルモノナリ然ルニ原院カ執務時間ヲ物品ノ取調ヲ爲セシ時間ノミナリト誤  
 解シタルハ擬律ノ錯誤ナリ又原院ハ廿一日ノ差押ハ午前十一時ニ終了セシテ午後五時迄ニ終了シタル  
 モノ、如ク變更ヲ加ヘタリト認定シタレトモ其日ノ執行全體ノ終了セシハ午後五時過ナルコトハ第一  
 審公判始末書中石川大野小西ノ申立ニ依リ明瞭ナルノミナラス午後五時過マテ出張先ニ於テ差押物ヲ  
 保管執務シタルコトノ明確ナルハ證據アリ然ルニ原院カ之レヲ無視シタルハ不法ナリト云フニ在レト  
 モ○原院カ執達吏ノ調書ニ附記スヘキ執務時間ヲ物品取調ノ時間ノミナリト認メタリトコトハ原判  
 文上一モ見ルヘキ記載ナキヲ以テ前段ノ論旨ハ原院ノ判旨ニ添ハス又其他ハ原院ノ職權ニ屬スル事實  
 ノ認定及ヒ證據ノ取捨ヲ論難スルニ過キササルヲ以テ上告ノ理由トナラス  
 上告辯明書第一點ハ縷々陳辯スル所アルモ要スルニ原院カ明治三十年十月二十日被告ニ於テ假差押ノ  
 執行ヲ停止シタルハ同日午後五時三十五分ニシテ同月二十一日假差押ニ着手セシハ同日午前八時三十  
 分又終了シタルハ午前十一時ナリト認定シ且ツ被告ハ官印盜用ノ罪アルモノナリト認定シタルハ不法

ナリト云フニ在リテ ○原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナラ  
 ス 其第二點ハ原判決ニ依レハ被告ハ第二ノ詐欺取財ノ爲メ文書ヲ變造シ官印ヲ盜用シタルモノナレ  
 ハ刑法第三百九十條第二項ヲ適用スヘキ筈ナルニ之レヲ適用セズシテ同法第百條ヲ適用シタルハ擬律  
 ノ錯誤ナルノミナラス官印盜用ニ付同法第百九十七條第二項ヲ適用シナカラ同條第一項ヲ適用セサル  
 モ亦擬律ノ錯誤ナリ又原院ハ一旦調書ヲ完成シタル以上ハ錯誤ニ基ク正誤ナルモ故意ニ變換シタルト  
 キハ變造罪ナリトスレトモ事實ニ基ク正誤ハ社會ノ信用ニ害ナク證明力ニ何等ノ影響ヲ及ホサス又調  
 書中記載時間ニ誤リアラハ執達吏ハ義務トシテ之レヲ訂正セサルヘカラス故ニ變造罪モナク又事實ニ  
 基ク正誤ナル上ハ他人ノ權利ノ侵害ナケレハ詐欺取財モ之レナク又官印盜用ハ其證據ナキニ依リ原判  
 決ハ誤謬ノ裁判ナリト云フニ在レトモ ○原判決ノ認メタル事實ニ依レハ文書偽造行使ハ詐欺取財ヲ爲  
 スニ因テ犯シタル罪ニアラスシテ各個獨立ノ犯罪ナレハ原院カ刑法第三百九十條第二項ヲ適用セス同  
 法第百條ヲ適用シタルハ相當ニシテ擬律ノ錯誤ナラサルノミナラス刑法第百九十七條第二項ハ第一項  
 ノ文意ヲ受ケタルモノナルヲ以テ第二項中ニハ自カラ第一項前段ノ文意ヲ包含スルヤ勿論ナリ又原院  
 カ錯誤ニ基ク正誤ナルモ故意ニ變換シタルトキハ變造罪ヲ爲スモノナリト説明シタルハ縱シ穩當ナラ  
 サル所アリトスルモ原判決ノ認ムル所ニ依レハ本件被告カ眞實ニ背キ文書ヲ變造シタルモノナルコ  
 ト判明ナレハ之レヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス又官印盜用ノ點モ原院カ其判決所掲ノ證據ニ依リ之

レヲ認メタルコト原判決ニ徵シ明カナレハ其證據ナシト云フヲ得ス上告趣意書第二點ノ趣旨ヲ敷衍シ  
 タルニ過キサルヲ以テ重テ説明ヲ與フルノ要ナシ 其第二點ハ縷々陳辯スル所アルモ要スルニ原院カ  
 小西庄五郎菊地喜代吉ノ申立石川教孝ノ調書等ヲ採テ二十一日ノ差押着手時間ヲ同日午前八時三十分  
 又終了時刻ヲ同日午前十一時ト認定シタルニ對シ同人等ノ申立及ヒ調書ハ毫モ信用スルニ足ラスト主  
 張シ且ツ臆斷シタル事實ニ對シ強テ證言ヲ符合セシメタル違法アリト云フニ在リテ ○原院ノ職權ニ屬  
 スル事實ノ認定及ヒ採證ノ當否ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナラス  
 辯護士高木益太郎同沼田宇源太上告辯明書ノ要旨第一點ハ第一審判決カ官文書變換ノ所爲ハ金員騙取  
 ノタメナリトシ刑法第三百九十條第二項ニ依リ實質上ノ一罪ナリト認メタルヲ原院ハ數罪ナリト認定  
 シ第一審判決ヲ取消シタルハ被告ノミノ控訴ニ對シ原判決ヲ被告ノ不利益ニ變更シタルモノニシテ刑  
 事訴訟法第二百六十五條ニ違反シタルモノナリト云フニ在レトモ ○同條ノ所謂原判決ヲ變更シテ被告  
 人ノ不利益ト爲スコトヲ許サストハ判決主文ノ刑ヲ重キニ變更セストノ法意ナルカ故ニ原院カ第一審  
 判決ニ於テ實質上ノ一罪トナシタルモノヲ數罪ナリト認定シタリトスルモ主文ノ刑ヲ重キニ變更セサ  
 ル限リハ之レヲ以テ同條ニ違反シタルモノナリト云フヲ得サルヤ勿論ナリ 其第二點ハ原院カ官文書  
 變換行使ノ所爲ニ對シ刑法第百九十七條第一項ノ法則ヲ示サ、リシハ即チ法律理由ノ明示ヲ欠キタル  
 裁判ナリト云フニ在レトモ ○本論旨ノ理由ナキコトハ被告辯明書第二點ノ中段ニ對スル説明ニ依リ了



解ス可シ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之レヲ棄却ス  
明治三十二年十月十六日大審院刑事聯合部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

○毆打創傷ノ件

明治三十二年第九五四號  
明治三十二年十月十九日宣告

○判決要旨

毆打罪ハ同時ニ同一ノ意思ヲ以テ犯シタル場合ト雖モ一罪ニアラ  
スシテ數罪ヲ構成ス

第一審 前橋地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 上原忠太郎 辯護人 (花井卓藏 高木益太郎)

右毆打創傷被告事件ニ付明治三十二年七月十四日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告  
ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ  
上告趣意ハ原院カ本案被告事件ニ付審理ノ起頭ニ於テ先ツ檢事ヨリ被告事件ノ陳述ヲ聽カサリシハ違  
法ナリト云フニ在レモ○本件ノ控訴ハ被告ノ提起シタルモノナルヲ以テ先ツ控訴者タル被告人ヨリ控  
訴ノ理由ヲ申立ツルハ審理上當然ノ手續ニシテ原院カ本案審理ノ起頭檢事ノ陳述ヲ聽カサリシハ相當  
ナリトス』同辯明ノ要旨ハ私訴ニ付民事原告人カ其請求ヲ支持スル爲メ主張シタル事實ハ刑事訴訟法  
ニ所謂證人又ハ參考人ノ供述ト認ムヘキモノニアラサレハ之レヲ公訴ノ證據ニ援用スルヲ得ス民事原  
告人徳太郎カ休業時間ニ關スル第一審迄ノ供述ハ公訴審問中ニ證人又ハ參考人ノ供述トシテ顯出シタ  
ルモノニアラサシテ私訴審理ノ際自己ノ請求ニ係ル賠償額ヲ疏明スル爲メ主張シタル事實ニ過キサル  
ヲ以テ原裁判カ之ヲ公訴ノ證據ニ援用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原記録第一審公判始末書  
ヲ查閱スルニ其第十四葉ニ「裁判長ハ徳太郎ニ對シ本件ニ付參考人トシテ訊問スルニ付キ誠實ノ申立  
ヲ爲スヘキ旨ヲ告ケ左ノ訊問ヲ爲シタリ云々」其第十七葉ニ「問何時迄休業シタルカ答二十四五日間テ  
ス云々」トアリテ徳太郎ハ全ク本件公訴事件ノ參考人トシテ取調ヘラレタルモノナレハ本論旨ハ謂ハ  
レナシ』同擴張第一點ノ要領ハ原判決理由ニハ被告カ徳太郎兼吉ノ兩人ニ創傷ヲ負ハセタルハ同時ニ  
同一ノ意思ヲ以テ行ヒタル一ノ犯罪ナリト認メラレタルニ拘ハラス法律ヲ適用スルニ當リ右兼吉徳太  
郎ニ對スル所爲ヲ以テニケ別箇ノ犯罪ト爲シタルハ理由ノ齟齬アル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ

○毆打罪ハ假令同時ニ同一ノ意思ニ依リテ犯シタル時ト雖モ尙被害者ノ數ニ應シ數罪ヲ構成スルモノナルヲ以テ原裁判ハ所論ノ如キ不法ナシ同第二點ノ要領ハ創傷ノ輕重及ヒ其性質カ二十日以上ノ休業ニ至ルヘキモノナルヤ否ヤハ特別ノ智識ヲ有スルニ非サレハ認定スルコト能ハサルノ事實ニ屬シ裁判官ハ鑑定人ナシテ認定スルノ職權ナキモノナリ然ルニ原院カ被害者ノ供述ノミニ依リ右ノ事實ヲ認定シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○事實裁判所ハ鑑定人ノ鑑定ニ拘束セラルヘキモノニ非ス又鑑定ヲ用ヒスシテ事實ヲ認定スルモ其自由ナリトス即チ原裁判所カ被害者ノ供述ニ依リ本件ノ休業時日ヲ判斷シタルハ不法ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之レヲ棄却ス  
 明治三十二年十月十九日大審院刑事第一部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○謀殺ノ件

明治三十二年第九四九號  
 明治三十二年十月二十日宣告

○判決要旨

(判旨第五點) 刑事訴訟法第九十二條ハ檢事被告人及ヒ民事原告人ノ請求ニ因リ呼出スヘキ證人ニ關スル手續ヲ定メタルモノニシテ證人喚問ニ關スル裁判所ノ職權ヲ制限シタルモノニ非ス

(參照) 檢事被告人及ヒ民事原告人ノ請求ニ因リ呼出ス證人ノ氏名目錄ハ開廷ヨリ一  
 日前ニ之ヲ各相手方ニ送達スヘシ(刑事訴訟法第百九十二條)

(判旨第十一點) 私訴ニ關スル控訴ノ理由アルヤ否ヲ判決スルハ刑事訴訟法第二百六十一條ニ據ルヘキモノトス

(參照) 控訴裁判所ニ於テハ控訴ノ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却スヘシ  
 控訴ヲ理由アリトスルトキハ原判決ヲ取消シ更ニ判決ヲ爲スヘシ(刑事訴訟法第百六十一條)

(同點) 私訴第一審判決ノ理由ニシテ不當ナルトキハ控訴ハ理由アルモノトス

第一審 盛岡地方裁判所 第二審 宮城控訴院

公訴上告人 小野寺勇之助 辯護人 曲木如長

私訴上告人 高橋金作 代理人 花井卓藏

右勇之助勇五郎兩名ニ對スル謀殺被告事件ニ付明治三十二年七月一日宮城控訴院ニ於テ原公訴判決ハ

證人喚問ノ手續○私訴ニ關スル控訴ノ判決○私訴理由ノ不當

之レヲ取消ス被告勇之助ヲ死刑ニ被告勇五郎ヲ無期徒刑ニ處ス公訴費用ハ被告兩名ニ於テ連帶シテ負擔スヘシ私訴判決ニ對スル控訴ハ之レヲ棄却ス控訴費用ハ原告金作ノ負擔トスト言渡シタル判決ヲ不法トシ勇之助勇五郎ハ公訴ニ付キ金作ハ私訴ニ付キ上告ヲ爲シタリ仍テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

勇之助公訴上告趣意ハ被告カ高橋榮藏ヲ殺害シタリトノコトハ一件記録中一モ見ルヘキモノアルコトナキニ原院カ初メヨリ殺意アリテ榮藏ヲ殺シタルモノト認定シタルハ不法ナリト云フコアリテ○原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難スルモノニシテ上告適法ノ理由ナシ

右擴張書第一ハ原判文中被告カ鈴木安三郎ニ地所ヲ賣買シ被告之レヲ買戻サント爲シタル事實ヲ併記シ而シテ「各供述シ參照シ之レヲ認ムルニ足ルモノト云々」トアレトモ如何ナルコトヲ認メタル乎其認メタル事理ヲ明示セサルハ理由不備ナリト云フニアレトモ○被告カ地所買戻シヨリシテ居常榮藏ヲ怨ミ必ラス之ヲ報復セント期シ居リタル事實ヲ認ムルニ足ルト云フノ判旨ナルコト判文上明白ニシテ理由ノ不備ナシトス

第二ハ原判文中「人ノ避ケタル様子アリシ旨ノ供述ニ依テ明カナリ」トアレトモ是亦如何ナルコトカ明ラカナリシカ之レヲ明示セサルハ不備ナリト云フニアレトモ○被害者榮藏カ明治二十七年五月二十四日及傷及ヒ打傷ヲ被リ雲南堤上ニ斃レアリタル事實ハ判文所載ノ供述ニ依リ明カナリト云フノ判旨ナ

ルコト判文上明白ナレハ理由不備ナシトス」第三ハ證人菊松卯藏與三郎ハ被害者榮藏ノ長男金作ヨリ依頼ヲ受ケテ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル嫌疑アルノミナラス殊ニ卯藏ノ如キハ犯罪當時ノ申立ニハ榮藏死亡ノ日ハ家ニアリシト云ヒ今回ハ山ニ行キ歸途犯罪ノ現場ヲ目撃シト申立テ前後其陳述ヲ異ニシ信ヲ措キ難キモノナルニ探テ證據ト爲シタルハ不法ナリト云ヒ」第四ハ上告趣意書ヲ敷衍シ被害者榮藏ノ死ハ被告ノ所爲ニ基因スルモノト假定スルモ被告ハ殺意アリタル證據ハ一モアルコトナケレハ豫謀ノ殴打致死ヲ以テ論スヘキニ原院カ謀殺ナリトシテ同第二百九十二條ヲ適用シテ處斷シタルハ擬律錯誤ナリト云フニアリテ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル探證ノ當否事實ノ認定ヲ批難スルモノニ外ナラスシテ上告ノ理由ナシ

勇五郎公訴上告趣意書第一ハ一件記録中被告カ高橋榮藏ヲ殺害ス可キ原因及ヒ其事實ヲ視ルニ足ル可キ確證ナク果シテ豫謀ニ出タリトノ事實ハ毫モ證明セラレス又原院カ證據ニ採用シタル證人菊松卯藏ハ民事原告人ト親屬ノ關係アリ又伊太郎ハ證人タルノ資格ナク或ハ本件ニ付キ同原告人ヨリ運動費ヲ受ケテ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルモノナリ且ツヤ同卯藏及ヒ與三郎ノ陳述ハ前ニモ高橋榮藏カ何人ニ殺害セラレタルヤハ之レヲ確知セスト述ヘ後ニハ殺害セラレタル現場ヲ實見セリト述ヘ前後矛盾ノ陳述ニシテ信スヘカラサルモノナルヲ以テ證據ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○訴訟記録ニ付キ證人千葉菊松千葉卯藏ノ豫審調書ヲ查スルニ民事原告人トノ關係ヲ問查シ何レモ刑事訴訟法第二百二十

三條ニ抵觸スルコトナキ旨記載アリ佐藤伊太郎ノ豫審調書ヲ查スルニ毫モ證人資格ニ抵觸ス可キ事項ヲ見ル可キモノナケレハ原院カ右三名ノ證言ヲ採用シタルハ違法ニアラス其他ハ事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難スルモノニシテ上告ノ理由ナシ』第二ハ證人ハ刑事訴訟法第百八十八條ノ如キ法律ニ規定シタル外裁判所ノ職權ヲ以テ喚問スルコトヲ得サルモノニシテ而シテ同第百八十九條第一項ハ職權喚問ヲ許シタルモノニアラサルコトハ第百九十二條ニ依リテ解釋ス可キモノナルニ原院カ當事者ノ請求ヲ待タスシテ千葉菊松外三名ヲ喚問シ其證言ヲ採用シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第百八十九條ハ當事者ノ請求ニ依リ證人ヲ呼出可キノ明文ナキノミナテス刑事裁判所ハ眞實の事實ノ發見ヲ目的トスルカ故ニ職權ヲ以テ證人ヲ召喚スルコトヲ得ルモノナリ而シテ同第百九十二條ハ檢事被告及ヒ民事原告人ノ請求ニ因リ呼出ス證人ニ關シ手續ヲ定メタルモノニシテ證人喚問ニ付公訴裁判所ノ職權ヲ制限シタルモノニ非ス依テ原院カ職權ヲ以テ菊松外三名ノ證人ヲ召喚シテ其供述ヲ證據トナシタリトスルモ違法ニアラス』第三ハ原裁判長松浦判事ハ曩キニ本件豫審終結決定ニ對スル抗告事件ニ付キ鈴木判事等ニ向テ該抗告ニ對スル裁判ヲ求メタルコト記錄ニ明カナルヲ以テ松浦判事カ本案判決ニ干與シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○訴訟記錄ヲ查閱スルニ判事松浦龜藏ハ宮城控訴院刑事部長トシテ同院檢事ノ抗告ニ對スル意見ヲ求メ又抗告ニ對スル決定ノ後一件記錄ヲ豫審判事ニ返付シタル事蹟アルモ抗告ノ決定ニ干與シタルモノニアラサルヲ以テ本案判決ニ干與シタルハ違法ニアラ

ス

同辯明書第一ハ原院カ採用シタル證據中果シテ判文ニ認メタル如ク明治二十七年四月十八日以後ニ於テ被告カ被害者榮藏ニ向テ復讐ノ意ヲ漏シタリトノ事實ナシ而シテ原判決ヲ證據トシタル高橋錦策ノ證言中其事アルモ右ハ同十八日以前ノ事柄ニ係ルヲ以テ原院カ認メタル事實ノ證據トナラス故ニ證據ニ依リ説明セサルノ違法アリト云フニ在レトモ○右證言ヲ解釋シテ十八日以後ノ事柄ニ係ルモノトスルカ如キハ原院ノ職權ニ屬ス加之原判決ニハ其事實ヲ認定シタル證據トシテ證人鈴木安三郎同佐藤伊太郎同千葉卯藏等ノ調書ヲ掲載シテ説明シアレハ論旨ノ如キ違法ナシトス』第二第三ハ原判決ハ被告ニ讀聞ケサル所ノ證人佐藤初之丞ノ豫審調書及ヒ佐藤伊太郎明治二十七年六月十五日ノ豫審調書ヲ證據ニ採用シタルハ違法ナリト云フニアレトモ○原院公判始末書ヲ查スルニ「次ニ佐藤初之丞ノ豫審調書ヲ朗讀セリ」トアリ又「次ニ勇之助并ニ高橋金作佐藤伊太郎千葉菊松千葉卯藏千葉與三郎各豫審調書ヲ朗讀セリ」ト記載シアレハ右初之丞ノ調書ハ勿論伊太郎等カ豫審調書全部ヲ朗讀シタルコト明白ニシテ上告ハ理由ナシ』第四ハ原院ニ於テ被告カ本件ニ付キ其決意及ヒ豫備ヲ爲シタル證據ヲ明示セスシテ漫然謀殺罪アリト断定シタルハ不當ナリト云フニアレトモ○被告等カ決意豫謀アリタル事實ハ判文所載ノ諸證ヲ綜合シテ認定シタルコトヲ判文ニ明示アリテ論旨ノ如キ違法ナシトス

被告兩名辯護士曲木如長趣意追加ノ趣意ハ原院ノ判決ニ依レハ本件被告小野寺勇之助カ豫テ高橋榮藏

証人喚問ノ手續○私訴ニ關スル控訴ノ判決○私訴理由ノ不當

ナルモノニ對シ地所賣買ノ事ヨリ怨恨ヲ挿ミ之レカ復讐ヲ爲サントノ念慮ヲ生シ其弟ナル勇五郎ナルモノト通謀シ明治二十七年五月二十四日夜榮藏カ同村佐藤初之丞方ヨリ酩酊シテ歸宅スルノ途中之レヲ要撃シ亂打負傷セシメ死ニ至ラシメタルヲ以テ刑法第二百九十二條ニ據リ謀殺ノ刑ニ處セラレダリ然レトモ勇之助カ榮藏ニ對シ怨ミヲ晴ラサントシタルハ初メヨリ之レヲ殺スノ意アリテ然ルニアラス而シテ之レカ通謀ヲ爲シタリトノ事ハ管ニ一件記録ニ徵スルモ見ルヘキモノナキノミナラス此點ニ付テノ判文ノ理由不備タルヲ免カレテ元來被告ノ所爲ハ全ク一時ノ憤怒ニ乘シテ殺意ヲ生シ即チ故意ヲ以テ殺シタルモノナレハ刑法第二百九十四條ヲ適用シ故殺ヲ以テ論ス可キモノト思料ス故ニ原院ノ判決ハ法律ノ適用ヲ誤リタルモノナリト云フニ在レトモ

○前段ニ說明スル如ク被告等カ行爲ノ豫謀ニ出テタル事實及ヒ其證據ハ原判決ニ明示シアレハ本論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難スルモノニシテ上告ノ理由ナシ』私訴上告代理人花井卓藏擴張第三點前段ハ原判決理由ニハ「原私訴判決ハ其理由異ルモ主文ニ於テ同一ニ歸スルヲ以テ之レニ對スル控訴ハ結局其理由ナキモノトシ云々」ト判示セシモ主文ト理由トハ全ク別個ノモノトハ見ルコト能ハス從テ理由ニ異ル所アレハ控訴ハ理由アリトシ主文ト同一ニ歸スル時ト雖モ刑事訴訟法第二百六十一條第二項ニ基キ原判決ヲ取消シ更ラニ判決ヲ爲サルヘカラス然ルニ原判決カ主文ト同一ニ歸ストノ理由ニ依リ第一審判決ヲ取消サルハ幾多ノ判例ニ背キ且法則ヲ不當ニ適用シタルノ不法アリト云フニ在リ

○仍テ審按スル

判例第十一

ニ刑事附帶ノ私訴ニ付キ控訴ニ理由アルヤ否ヤヲ判決スルニハ刑事訴訟法第二百六十一條ニ據テサルヘカラス該條ニ依レハ公訴判決ニ對スルモノト私訴判決ニ對スルモノト區別ナキヲ以テ私訴ニ付テモ尙ホ公訴判決ニ對スル如ク第一審判決ノ理由ニ於テ不當ナル以上ハ同條第二項ニ依リ控訴ハ理由アルモノトシ原判決ヲ取消シ更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス然ルニ原判決ハ第一審判決ノ理由ニ於テ判斷ヲ異ニシ乍ラ主文カ同一ニ歸スルトテ控訴ヲ棄却シタルハ失當ニシテ上告ハ其理由アリトス既ニ此點ニ於テ原判決ヲ破毀ス可キモノト認ムル以上ハ他ノ論旨ニ對シテ一々說明スル要ノナシ

右ノ理由ヲ以テ公訴上告ハ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ之ヲ棄却シ私訴上告ニ付テハ同法第二百八十六條同第二百九十條末段ニ依リ原判決ヲ破毀シ事件ヲ函館控訴院ニ移ス

明治三十二年十月二十日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

支拂停止ノ確定○芝居茶屋業ノ性質○商人ノ支拂停止

五十二

○過怠破産ノ件

明治三十二年九月六號  
明治三十二年十月二十日宣告

○判決要旨

(判旨第一點) 支拂停止ハ破産決定ニ依リ確定シタル事實ナリ

(判旨第三點) 芝居茶屋業ハ商行爲ナリ

(参照) 左ニ掲ケタル行爲ヲ營業トシテ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行爲トス但專ラ賃金ヲ得ル目的ヲ以テ物ヲ製造シ又ハ勞務ニ服スル者ノ行爲ハ此限ニ在ラス(中略)客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ取引(下略)(商法第二百六十四條)

(判旨第四點) 商人ニシテ支拂ヲ停止シタルトキハ破産ノ宣告ヲ受ク

ヘキモノトス而シテ其商行爲ナルト否トハ之ヲ問ハサルモノトス

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 須原平三郎

右過怠破産被告事件ニ付キ明治三十二年七月三十一日大阪控訴院ニ於テ第一審判決ヲ取消シ被告ヲ重禁錮二月ニ處シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ仍テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意ヲ要スルニ第一ハ手形支拂滿期日ハ取引時間ニ慣習ナキトキハ其期間中ニ支拂ヲ爲セハ足レ

判旨第一點

リトス本件ハ滿期ノ午後一時ニ支拂ヲ拒絕シタルモノナレハ未タ法律上支拂停止アリトスルヲ得ス從テ届出ノ期日ヲ確定スルコトモ亦得可カラス然ルニ原判決ハ支拂期間ニ就テノ慣習ヲ認メスシテ法定期日ニ支拂停止ノ届出ヲ爲サ、ルモノトシテ處罰シタルハ不法ナリト云フニアレトモ○被告カ支拂ヲ停止シタルコトハ破産ノ決定ニ依リテ確定シタル事實ニシテ之レヲ論争シテ上告ノ理由トナスヲ得ス

第二ハ原判決ニハ第一審公判始末書ニ依リ被告ハ手形發行ノ當時ヨリ今日迄テ芝居茶屋業ヲ爲スモノト認メアレトモ被告カ同公廷ニ於テ芝居茶屋業ト答ヘタルハ公判開廷當時ノ營業ヲ陳述シタルモノナレハ之レニ依リテ手形振出ノ當時商人ナリト斷定シタルハ失當ナリ既ニ商人ニアラサルヲ以テ本件行爲ヲ有罪ナリトセシハ擬律錯誤ナリト云フニアレトモ○被告ノ供述ヲ解釋シ手形發行當時ハ勿論今尙ホ引續キ芝居茶屋營業ヲ爲スモノト認定スルハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ之レヲ論難シテ上告ノ理由トナスヲ得ス

第三ハ本件ノ如キ舊商法實施中ニ於ケル行爲ニ對シ商人タルヤ否ヤヲ判定スルニハ商法施行法第一條ニ依リ舊法ヲ適用ス可キニ原判決ニ新法第二百六十四條第七號ニ依リ商人ナリト判斷シタルハ違法ナリ殊ニ右條項ノ客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ取引トハ芝居茶屋ノ如キ劇場ニ看客若クハ飲食物ヲ周旋スル一種ノ紹介人ヲ云フニアラスシテ客ノ其營業所ニ來集スルニ依リ直チニ利益ヲ得ルヲ以テ業トス

支拂停止ノ確定○芝居茶屋業ノ性質○商人ノ支拂停止

五十三

ル劇場料理屋旅人宿ノ如キモノヲ指稱ス又原判決ニハ新商法實施前ニ於テモ慣習上商行爲トナスヘキモノナリトアレトモ右慣習アルコトヲ聞カサルノミナラス新商法第二百六十四條所定ノ場合ハ營業トシテ常ニ之レヲ爲スニアラサレハ商行爲ト認メス故ニ純然タル商引爲ニアラスシテ法律上ノ推定ニ基ク商行爲ニシテ法定ノ條規ナキ限リハ商行爲ト爲スヲ得ス從テ慣習ノ適用ヲ許サ、ル場合ナク而シテ舊商法第四條第五條ハ芝居茶屋ヲ商取引ト認メス況ンヤ商取引ナルモノハ第四條第一項ニ明示スル如クニシテ芝居茶屋ハ條理及ヒ慣習ニ於テ商行爲ト認メ得ヘカラス如此商行爲ニアラサル以上ハ被告ハ商人ニ非サルヲ以テ商法施行法第三百三十八條ヲ以テ商法第九百七十八條ヲ修正シタル結果被告ノ所爲ハ罪トナラス然ルニ原院カ之ヲ處罰シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○原院ニ於テ本案ヲ判決シタルハ明治三十二年七月三十一日ニシテ新商法施行後ニアリ而シテ其施行法第一條ニ於テ新法施行前ニ生シタル事項ト雖トモ施行法中別段ノ定メアル場合ニ於テハ新法ヲ適用スヘキモノナルカ故ニ同法第三百三十八條ノ如キ破産ニ付キ別段ノ規定アルニ於テハ則チ同條ニ依ルヘキモノトス而シテ同條ニ所謂商人トハ新商法第四條ノ自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ營業トスル者ヲ云ヒ其商行爲トハ同法第二百六十三條第二百六十四條ニ掲ケタルモノヲ指シタルヤ勿論ナリトス且原院ノ認定ニ依レハ被告ハ芝居茶屋ヲ營業トシ其芝居茶屋業トハ觀劇客ノ來集ヲ目的トシ其需ニ應シアル見所並ニ飲食物ヲ供給シ利ヲ得ル行爲ニシテ恰モ商法第二百六十四條第七號ニ該當スルヲ以テ原院カ同條ニ依リ被告ヲ商人ナリト判定シ又芝居茶屋業ハ前説明ノ如ク商行爲ナルヲ以テ舊法ノ下ニ在リテモ被告ハ同第一千五十一條ノ制裁ヲ受クヘキモノナレハ原院カ過意破産ノ罪アリトシテ處罰シタルハ相當ナリ

旨第三點

第四ハ原判決ハ被告ハ芝居茶屋ヲ業トスルモノニシテ手形ヲ發行シタルモノナレハ即チ商人カ商行爲ヲ爲シ以テ支拂ヲ停止シタルモノナリト判定シタルモ商法施行法第三百三十八條第二項ノ「商人カ支拂ヲ停止シ」トアル商人カ其業トスル所ノ商行爲ニ付キ支拂ヲ停止シタル場合ナルコト勿論ナリ新商法第二百六十五條第二項ニハ商人ノ行爲ハ其營業ノ爲メニスルモノトノ推定アレトモ本件ハ舊法時代ノ行爲ナルヲ以テ施行法第一條ニ從ヒ舊法ニ從ハサル可カラス舊商法ニ因レハ其第六條ニ於テ反證ヲ許シアルヲ以テ反證ヲ以テ營業上ノ行爲ニアラサルコトヲ主張シ得キモノニシテ本件被告ハ手形ノ轉換ヲ業トスルモノニアラサレハ手形振出ノ行爲カ商行爲ナリトスルモ其業ノ爲メニ非サルコト明カニ且ツ原院ニ於テ朗讀セシメタル第一審公判始末書ニ依レハ證人岡本金藏ノ證言及ヒ辯護人ヨリ提出シタル書面ニ因リ被告ハ營業以外ノ行爲ニ付キ借金ヲ爲シ手形ヲ振出シタルコト明カナレハ商人カ其業トスル所ノ商行爲ニ付キ支拂ヲ停止シタルモノニアラス從テ其所爲罪トナラサルニ之ヲ處罰シタルハ擬律ノ錯誤ナリ加之此反證ヲ許ス事項ニ關シ且ツ此事實確定ニ因ラサレハ罪ノ有無ヲ判定シ得可カラサル重要ノ事實ニ對シ判定ヲ下サ、リシハ審理不盡ノ不法アルモノナリト云フニ在レトモ○商法施行法第三百三十八條ヲ本件ニ適用スヘキコトハ前説明ノ如クニシテ同條ニハ「商人カ支拂ヲ停止シタルトキ

判旨第四點

ハ云々トアリテ苟モ商人ニシテ支拂ヲ停止シタルトキハ其商行為ニ依ルト否トヲ論セス破産ノ宣告ヲ受クルモノトス而シテ原判決ニハ被告カ商人ニシテ支拂停止ヲナシ之レカ届出ヲ怠リタル事實ヲ判示シ之レニ商法第千五十一條ヲ適用シアリテ論旨ノ如キ違法ナシトス

第五ハ原判決ハ「被告ハ支拂期日前手形所持人ヨリ豫メ支拂猶豫ヲ得タリト陳述スルモ破産裁判所ハ支拂停止ノ日時ヲ認メタルコト云々支拂停止ノ事實明白ナリトス」トアリ支拂停止ノ日時ニ於ケル破産裁判所ノ決定ハ動カスヘカラサルコト明ナリ然レトモ原院ニ於テハ假令其決定ニ牴觸スルモ其停止ノ届出ヲ爲サ、リシハ被告ノ怠慢ニ出タルヤ否ヤニ付キ支拂猶豫ノ點ニ關シ審理ヲ爲サ、ルヘカラス然ルニ原院ハ前記ノ如ク掲ケ去リテ其怠慢ト否トニ關シ理由ヲ付セス又タ被告ヨリ提出シタル支拂猶豫ノ證據ニ對シ理由ヲ付セス且ツ審判セサリシハ右支拂停止ノ日時ニ付テハ破産裁判所ノ決定ニ羈束セラレ刑事裁判所ニ審査權ナシトノ誤解ニ基クモノニシテ要スルニ怠慢ト否トハ本件犯罪ノ成否ニ關スル重要ノ事項ナルニ之ヲ審査セサリシハ審理不盡理由不備ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ被告ハ明治三十一年十一月三十一日午後一時ニ支拂ヲ停止シテ其後五日內ニ所轄地方裁判所ニ之ヲ届ケ出テサリシ事實ヲ判示シアレハ商法第千五十一條第五號ヲ適用スルニ理由ヲ盡サ、ルノ點ナシ又被告ヨリ提出シタル反證ニ對シ一々説明スヘキノ規定ナキヲ以テ之レヲ爲サ、ルモ違法ニアラス』第六ハ原判決ニ「商法第五十一條第一項」トアレハ同條ニハ數項アルヲ以テ其何レノ條項ナルヤヲ明示セ

ス又「商法施行法第百四十二條」トアレトモ同條ニハ三個犯罪ノ場合ヲ掲ケアレハ其何レノ部分ナルヤ之レヲ明示セサルハ理由不備ノ裁判ナリト云フニアレトモ○原判決ノ事實理由ニ於テ支拂停止ヲ爲シ乍ラ法定期間ニ届出ヲ爲サ、リシ事實ヲ認定シアレハ商法第千五十一條第一項トハ破産者カ支拂停止後第五項ニ掲ケタル行為ヲ爲シタルトキハ過怠破産ノ刑ニ處スト規定ヲ指シ又商法施行法第百四十二條トアルハ支拂停止届出ノ義務ヲ怠リタルトキトアルヲ指示シタルコト明白ナレハ理由不備ナリト云フヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之レヲ棄却ス  
明治三十二年十月二十日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○刑事附帶私訴ノ件

明治三十二年第一〇三四號  
明治三十二年十月二十日宣告

○判決要旨

司法警察官ニ宛タル告訴狀ニ私訴ノ申立ヲ爲スモ私訴提起ノ效力

司法警察官ニ對スル私訴申立ノ效力



第一審 名古屋地方裁判所岡崎支部 第二審 名古屋控訴院

公訴私訴上告人 宮道金三郎

私訴上告人 瀬川淨吉

右親權者 加藤フヨ

右金三郎外一名ニ對スル被告事件ニ付キ明治三十二年七月二十六日名古屋控訴院ニ於テ控訴ニ付テハ  
原判決ヲ取消ス被告兩名ヲ重禁錮一年ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス押收書類ハ各差出人ニ  
還付ス公訴費用ハ被告兩名連帶負擔スヘシ又私訴ニ付テハ本訴原告請求金ノ内九十圓ハ被告兩名ニ於  
テ原告ニ對シ連帶ニ辨濟スヘシ此他原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ被告兩名連帶負擔ス可シト言渡シ  
タル判決ヲ不法トシ被告金三郎ヨリ上告ヲ爲シタリ仍テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判  
決スル左ノ如シ

上告趣意第一點ハ判決謄本ニ依ルニ原判決ハ刑法第三百九十五條末段云々トノミ掲ケ第一項ノ末段ナ  
ルヤ將タ第二項ノ末段ナルヤヲ明示セヌ又タ刑事訴訟法第二百三條云々トノミ掲ケ其第何項ナルコト  
ヲ明示セザリシハ不法ナリト云フニアレトモ○刑法第三百九十五條ニハ一項二項ノ區別アルコトナキ  
ナ以テ前段論旨ハ謂ハレナキモノナリ又刑事訴訟法第二百三條云々トアルハ同條第一項ヲ指示シタル

モノナルコト判文上明瞭ナリトス』第二點ハ同謄本ニ依ルニ原判決理由中ニ被告兩告トアリテ其意味  
明瞭ナラサルハ不法判決ヲ免レスト云フニアレトモ○假シ判決原本ニ同一ノ誤記アリトスルモ上告ノ  
理由トナスニ足ラサルハ勿論ナルノミナラス同原本ニハ被告兩名トアリテ兩告トアラサレハ謄本ノ誤  
記タルコト明カナルヲ以テ本論旨ハ不相立

私訴上告趣意ハ明治三十二年三月七日附テ以テ瀬川淨吉ヨリ公訴ニ附帶シテ私訴告訴ニ及ヒ名古屋地  
方裁判所岡崎支部ハ之レヲ受ケ乍ラ只タ刑ノミノ言渡ヲ爲シ私訴判決ヲ爲サ、リシハ不法ナリ然ルチ  
原院カ公私訴共ニ判決ヲ言渡シタルハ是亦不法ナリト云フニアレトモ○明治三十二年三月七日附テ告  
狀ハ司法警察官ニ宛テ差出シタル書面ナルヲ以テ假令文中併セテ及私訴候云々トノ文詞アルモ私訴提  
起ノ效力ナキモノナリ而シテ其初メテ私訴ヲ提起シタルハ明治三十二年六月二十七日即第一審判決ノ  
後ニアルコト記録上明瞭ナルヲ以テ論旨ノ如キ違法ノ判決ニアラス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ總テ之レヲ棄却ス  
私訴上告費用ハ上告人ノ負擔トス

明治三十二年十月二十日大審院第二刑事公庭ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

○森林竊盜等ノ件

明治三十二年第一〇三五號  
明治三十二年十月二十日宣告

○判決要旨

(判旨第三點) 第一審ニ於テ甲者ヲ乙者ノ共犯トシテ處罰シタル場合ニ於テ第二審ニ於テ甲者ニ共犯ノ事實ナシトシテ無罪ヲ言渡スモ乙者ノ控訴ニシテ理由ナキトキハ之ヲ棄却スヘキモノトス  
(判旨第四點) 御料局技手ノ調査書ハ刑事訴訟法ニ依リ作成スヘキ文書ニ非ス

第一審 岐阜地方裁判所

第二審 名古屋控訴院

被告人 一安江増兵衛  
田口貝六

辯護人 高木益太郎

右森林竊盜及冒認被告事件ニ付キ明治三十二年八月四日名古屋控訴院ニ於テ控訴棄却ヲ言渡シタル判決ニ對シ被告兩名ヨリ上名ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ニ依リ判決スル左ノ如シ  
被告兩名上告趣意ヲ要スルニ第一本件ノ御料林ト民林トノ境界ハ明治三十一年一月御料局技手補横

山駒雄ノ検査ヲ受ケ同年三月二十三日再ヒ同技手福岡慶助ノ検査ヲ受ケ伐採ヲ爲スモ差支ナシトノコトニヨリ伐採又ハ販賣シタル事實ハ被告カ豫審以來ノ主張及福岡技手ノ證言スル所ナリ然ルニ原院ハ横山技手補カ境界ヲ巡回シタル事實ノミヲ認メ福岡技手ノ巡回ニ付何等ノ説明ヲ與ヘサリシハ理由ノ不備ナリト云フニ在レトモ  
○被告等ハ御料局技手補横山駒雄カ境界ヲ暗知セサルニ乘シ之レカ巡回ヲ求メ之レヲ瞞着シ御料林ヲ民有林ナリト指示シ置キ盜伐又ハ冒認販賣ヲ爲シタル事實ヲ認定シアレハ福岡技手ノ巡回ノ如キハ之レヲ示スノ必要ナク要スルニ本論旨ハ原院ノ認メサル事實ヲ掲ケテ事實ノ認定ヲ批難スルモノニシテ上告ノ理由ナシ  
第二ハ前述ノ如ク再度検査ノ上御料林境界トナリタル個所ハ被告人ノ占有ニ歸シタルモノナレハ其伐採販賣ハ犯罪ヲ爲スモノニアラサルヲ森林竊盜及ヒ冒認販賣ノ法ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニアレトモ  
○被告等カ技手補横山駒雄ニ御料林ヲ民有林ナリト指示シタルハ他日發覺ニ際シ罪責ヲ免レンカ爲メ口實ヲ設ケ置キタルモノニシテ本件御料林ヲ被告等ノ占有ニ移サシメタルニアラス故ニ被告等ノ行爲ヲ盜伐及ヒ冒認販賣ナリトシテ處斷シタルハ違法ニアラス

被告兩名辯護人高木益太郎ノ辯明書第一ハ本件ノ第一審判決ニ於テハ上告人兩名カ岩三郎ナルモノト共ニ冒認販賣ノ所爲アリタルモノト認メタルナリ原院ハ此判決ヲ變更シテ只タ上告人等兩名ニ右所爲アリテ岩三郎ハ無關係ナルモノト認メタリ左スレハ第一審判決ハ其事實認定上ニ付キ誤斷アリシコト

判旨第三點

明白ナルヲ以テ之ヲ取消シ相當ノ判決ヲ下ス可キ筈ナルニ原院ノ所措玆ニ出テスシテ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニアレトモ○第一審ニ於テ共犯トシテ處罰シタル相被告岩三郎ニ於テ共謀加功ノ證據十分ナラストシ無罪ヲ言渡シ同人ハ被告等ト共犯ニ非サルコトナルモ本件ニ付テハ被告等ノ控訴理由ナシトシテ棄却シタルハ不法ニアラス○第二ハ御料局技手ノ作りタル被害物件調査書ニハ立會人ノ連署ナキ無効ノ文書ナルニモ不拘原判決カ之ヲ罪證ニ供シタルハ違法ノ裁判ナリト云フニアレトモ○右調査書ハ刑事訴訟法ニ依リ作成シタルモノニアラサルヲ以テ立會人ナクシテ作成シタルトテ之レヲ無効ノ文書ナリト云フヲ得ス故ニ原院カ之ヲ採用シタルハ違法ニアラス

判旨第四點

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十二年十月二十日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事奥宮正治立會宣告ス

○私書偽造行使等ノ件

明治三十二年第一〇三六號  
明治三十二年十月二十日宣告

○判決要旨

印影ヲ偽造證書ニ押捺シテ行使シタルトキハ其印類ハ犯罪ノ用ニ供シタル物件ナリ

第一審 安濃津地方裁判所

第二審 名古屋院訴訟院

被告人

坂次郎 福森 豊次郎  
川崎 清太郎

右空次郎清太郎ニ對スル私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付キ明治三十二年七月三十一日名古屋控訴院ニ於テ第一審判決ヲ取消ス被告空次郎豊次郎ヲ各重禁錮一年罰金十圓監視六月被告清太郎ヲ重禁錮一年六月罰金十五圓監視六月ニ處ス押收物中偽造ノ地所買受約定證書一通及ヒ犯罪供用捺印一個ハ官ニ沒收シ其他ハ總テ各差出人ニ還付ス公訴ニ關スル訴訟費用金五圓八十錢ハ被告三名ノ連帶負擔トスト言渡シタル判決ヲ不法トシ被告三名ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スル如左

空次郎清太郎上告趣意ハ原判決ノ理由中ニ(前略)若シ違約ノ節ハ手附金ヲ沒收ス可キ旨ノ契約ヲ爲シ云々トアル契約ハ口約ナルヲ將テ證書ヲ以テ爲シタルヤ之レヲ明示セサルハ理由不備ナリト云ヒ尙

ホ清次郎ノ上告趣意ハ原判決ハ事實ニ相違スルモノナリト云フニ在レトモ○其契約ノ口約ナルト書面ヲ以テ爲シタルトハ毫モ犯罪成立ニ影響ナキコトナルヲ以テ之ヲ明示スルノ必要ナキモノナリ他ハ事實認定ノ批難ナルヲ以テ共ニ上告理由トナラス

豊次郎ノ上告趣意書ハ縷々陳辯スル所アルモ結局被告カ本件ノ共謀者ニアラサルコトハ記録ニ明カナルニ原院カ果シテ共謀シタリトノ證據ヲ明示セスシテ有罪ノ判決ヲ與ヘラレタルハ不法ナリト云フニアレトモ○被告カ本件共謀中ノモノナル事實ニ對スル證據ハ判決ニ明示シアルヲ以テ原判決ハ不法ニアラス

被告三名辯護士上告趣意辯明書ハ本件沒收ニ係ル檢印ハ偽造證書ニ押用シタルニ止マリ其行爲ニ直接供用セラレタルモノニアラサレハ原院カ之レヲ刑法第四十三條第二號ニ依リ犯罪供用ノ物件トシテ沒收シタルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○印類ハ印影ノ實體ナルヲ以テ印類ヲ偽造證書ニ押捺シテ其證書ヲ行使シタル上ハ則チ其印類モ犯罪供用ノモノナルコト勿論ナルヲ以テ原判決ハ不法ニアラス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十二年十月二十日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事奥宮正治立會宣告ス

○故殺未遂等ノ件

明治三十二年第一〇四三號  
明治三十二年十月二十日宣告

○判決要旨

(判旨第三點) 犯罪嫌疑ノ爲メ職權ヲ以テ逮捕セントスル巡查ニ對シテ抗拒シタル所爲ハ眞ノ犯罪者タルト否トチ問ハス官吏抗拒罪ヲ構成ス

(判旨第七點) 欠席判決ニ干與シタル判事ハ前審ニ干與シタルモノニ非ス

第一審 千葉地方裁判所八日場支部

第二審 宮城控訴院

被告人 佐瀬喜三郎

右故殺未遂及ヒ官吏抗拒被告事件ニ付キ明治三十二年八月十日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

被告ノ上告趣意書第一ハ原院ニ於テ押收物件ヲ被告ニ示シテ辯解セシメサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○押收物件ハ原院ニ於テ犯罪ノ證據ト爲サ、ルヲ以テ之レヲ被告ニ示シ辯解セシメサルモ不法ニアラス』第二ハ第一審裁判所ニ於テ故殺未遂被告事件ハ巡查ノ告發書並ニ石井平治ノ豫審調書ハ不實ナルヲ以テ無罪トナレリ然ルニ原判決ニ右平治ノ豫審調書ヲ證據トシテ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ

官吏抗拒罪ノ原因○欠席判決ノ干與

不法ナリト云ヒ」第三ハ巡查ノ告發書ト平治ノ調書トハ相違ノ廉アルニ原院カ併セテ之レヲ採用シタルハ理由不備又ハ齟齬ノ判決ナリト云フニアレトモ○證據ノ取捨ハ原院ノ職權ニ存スルヲ以テ右論旨ハ理由ナシ」第四ハ原判決ニ被告カ石井平治ヲ射殺スルト聲掛ケタル未平治ニ向テ發砲シタリトノ理由ノ説明アルモ右ハ既ニ公訴消滅シタル事實ニ係ルヲ以テ之レヲ判決ノ理由トシタルハ不法ナリト云フニアレトモ○故殺未遂ノ被告事件ニ付キ無罪ノ裁判アリタレハトテ被告カ發砲シタル事實ノ消滅スヘキ理由ナケレハ之レヲ判決ノ理由トスルモ固ヨリ不法ニアラス」第五ハ被告カ巡查ニ抗拒スルノ意思ヲ以テ其ノ職務執行ニ抗拒シタリト判定セラレタルモ被告ハ故殺未遂ノ犯人ニアラサルヲ以テ逮捕セラル、理由ナシ又々暴行脅迫ノ所爲ナキヲ以テ官吏抗拒罪ハ成立セサルモノナルニ原院カ被告チ有罪トシタルハ不法ナリト云フニアレトモ○原判決ニ依レハ原院ハ被告カ銃丸ヲ裝シテ銃口ヲ巡查ニ擬シテ抗拒シタル事實ヲ認定シタルモノナリ而シテ事實ノ認定ハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ他人ノ客隊ヲ容サス又々故殺未遂ノ犯人ナルト否トハ判決ヲ待テ初メテ知り得ヘキモノニシテ後日無罪ノ判決ヲ受ケタルモ其當時犯罪ノ嫌疑アリテ職權ヲ以テ逮捕セントスル巡查ニ對シテ拒絶シタル行爲ハ即チ犯罪行爲ナレハ原院カ被告チ有罪トシタルハ不法ニアラス

判旨第三點

第六ハ原判決中飯島村大堀石井平治ト記載シ又飯高村大堀石井平治ト記載セルハ理由ノ不備ナリト云フニ在レトモ○原院ノ認メタル所ハ飯高村ニシテ後ニ飯島村トアルハ告發書ニ記載シタル所ヲ示シタルニ過キサレハ毫モ不法ノ點ナシ第七押收品ハ差出人ニ還付ストアリテ如何ナル品ナルヤテ明示セザルハ違法ナリト云フニアレトモ○押收品ハ押收目錄ニ依リ明了ナレハ判文ニ詳記セサルモ不法トセ

ス  
明治三十二年八月二十二日付辯明書ノ要領ハ原判決ニ被告カ石井平治ニ邂逅シタルコトハ其當公廷ノ自供ニ徴シ明白ナリトアルモ被告ハ同人ニ邂逅シタルコトナシ其他原判決ニ採用シタル告發書豫審調書等ハ不實虛構ノモノナリト云ヒ尙ホ原判決ニ告訴狀及ヒ小林定吉豫審調書ト記載シアルモ本件ハ告訴狀ヨリ成立タルモノニアラスト云フニアレトモ○原判決ニ依レハ「被告カ云々里道ニ於テ發砲シタルコトハ其當公廷ニ於ケル自供ニ徴シ明白ナル處ナリ」トアリテ邂逅シタル云々ノ記載ナケレハ右ハ

原判決ニ副ハサルモノトス又々告訴狀トアルハ告發書ノ誤記ナルヘシト雖トモ右ハ原院ニ於テ第一審ノ判決ヲ取消シタル理由中ニ記載シタルモノニシテ告訴狀ヲ以テ證據トシタルニアラサレハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スニ足ラス其他ハ證據採擇ノ非難ニ過キサレハ本論旨ハ總テ其理由ナシ  
同年同月二十四日付辯明書ハ原判決ニ巡查小林定吉ニ銃口ヲ差向ケ云々ト記載シアルモ事實ニアラスト云フノ外趣意書及ヒ前辯明書ノ趣旨ヲ反覆陳辯スルニ過キス而シテ銃口ヲ差向ケタリトハ事實ノ認定ナレハ之ヲ非難スルモ上告ノ理由トナラス」同年同月二十六日付辯明書ヲ要スルニ原判決ニ干與シタル判事戸田敬一郎岡田晴次ハ其前本件ノ欠席判決ニ干與シタル判事ナリ如斯同一ノ判事カ同一事件

ニ付キ再ヒ干與シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○欠席判決ニ干與シタル判事ハ其事件ノ對審判決ニ干與スルヲ得ストノ法規ナキヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

同年同月三十一日付擴張書ハ本件告發書ノ不實ナルコトヲ陳辯シテ前辯明書ノ趣旨ヲ敷衍シ且ツ被告ハ豫審ニ於テ臨檢ノ請求ヲ爲シタルニ其處分ヲ爲サスシテ公判ニ付シタルハ不法ナリト云フニアレトモ○豫審終結決定ハ已ニ確定シタルモノナレハ豫審ノ手續ヲ攻撃シテ上告ノ理由ト爲スヲ得ス其他ハ前説明ノ通りナルヲ以テ重ネテ説明セズ

同年九月一日付擴張書第一ハ原判決ハ犯罪ノ證憑ヲ明示セラレサルモノニシテ刑事訴訟法第二百三條ニ違背セリト云フニアレトモ○原判決ヲ查スルニ被告カ犯罪ノ證憑ハ之レヲ明示シアリテ論旨ノ如キ不法ナシ』第二ハ原判決ニ千葉地方裁判所カ故殺ニ付キ無罪ヲ言渡シタル判決云々トアルモ被告ハ故殺未遂ニ付キ判決ヲ受ケタルモ故殺ニ付キ判決ヲ受ケタルコトナシ之レ誤謬ノ判決ナリト云フニ在レトモ○故殺未遂モ亦タ故殺罪ナルヲ以テ原判決ニ故殺ノ點ニ付キ云々ト説明シタルハ誤謬ニアラス』第三ハ本件故殺未遂及ヒ官吏抗拒ノ二罪ヲ同時ニ合セテ豫審終結決定シタルハ不法ナリト云フニアレトモ○同時ニ發シタル二罪ヲ合セテ終結決定シタルハ不法ノ廉ナシ

同年同月四日付擴張書ハ自己ノ所信ヲ事實ナリト主張シ以テ原判決ニ認メタル事實ヲ非難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由ナシ

同年同月十三日付擴張書第一ハ原院ニ於テ檢事ヨリ被告事件ノ陳述ナキニ裁判長カ被告事件ノ訊問ヲ爲シタルハ不法ナリト云フノ外前辯明書ノ趣旨ト同一ナリ○仍テ案スルニ本件ハ被告ノ控訴ニ係ルヲ以テ控訴シタル被告ヨリ控訴ノ趣旨ヲ陳述スヘキモノナルニ付キ原院ニ於テ檢事ヨリ被告事件ノ陳述ヲ爲サ、ルニ訊問ヲ爲シタルハ不法ニアラス其他ハ別ニ説明スルノ要ナシ』第二ハ裁判長カ被告ニ對シ誘導若クハ壓制ナル訊問ヲ爲シタルハ不法ナリト云フノ外前辯明書又ハ擴張書ノ趣旨ト同一ナリ○因テ原院公判始末書ヲ查スルニ毫モ不法ノ訊問ヲ爲シタル形跡ナクレハ擴張趣旨ヲ以テ眞實ト認メ難シ其他ハ別ニ説明ノ要ナシ』第三ハ本件ニ付テ合狀ヲ攜帶セスシテ家宅搜索ヲ爲シタルハ不法ノ處分ニシテ其所分ニ基キタル獵銃外二點ヲ犯罪ノ證憑トシタルハ不法ナリト云フノ外前趣旨ヲ反覆スルニ過キス然ルニ原判決ニハ獵銃外二點ヲ犯罪ノ證憑ト爲シタルコトナキヲ以テ本論旨ハ原判決ニ副ハサルモノニシテ不法ナリト云フニ在レトモ○原院ニ於テ前ニ被告ニ對シ欠席判決ヲ爲シタルハ被告カ呼出狀ヲ受ケ乍ラ期日ヲ懈怠シタルニヨルモノニシテ不法ニアラサルノミナラス被告ハ右欠席判決ニ對シ對審判決ヲ受ケタルモノナレハ今ニ至リ欠席判決ヲ批難シテ上告ノ理由ト爲スヲ得ス』第五石井平治カ警察署ニ於ケル外現行犯ニ關スル訊問調書ノ朗讀タモ爲サスシテ罪證ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院ハ右ノ如キ書類ヲ證憑トシテ採用シタルコトナキヲ以テ本論旨ハ原判決ニ副ハサルモノニシテ上告ノ理由トナラス

同年同月十四日付擴張書ハ前辯明書又ハ擴張書ノ趣旨ヲ反覆陳辯スルニ過キサルヲ以テ別ニ説明セ

同年同月十九日付辯明書ノ前段ハ原判決ニ採用シタル證憑ノ信ス可カラサル旨ヲ反覆陳辯シタルニ止  
マリ後段ハ其趣旨解シ難シ又々同年同月二十八日付辯明書ハ前擴張書ノ趣旨ト同一趣旨ヲ反覆陳辯  
スルニ過キサルヲ以テ何レモ上告ノ理由ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之レヲ棄却ス  
明治三十二年十月二十日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事奥宮正治立會宣告ス

○私印私書偽造行使等ノ件

明治三十二年第八八一號  
明治三十二年十月二十三日宣告

○判決要旨

(判旨第四點) 刑事訴訟法第二百六十五條ニ所謂原判決ヲ變更シテ被

告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サストノ法則ハ判決主文ノ刑ヲ重キ  
ニ變更スルコトヲ許サ、ルノ趣旨ナリ從テ第一審ニ於テ一罪ト認  
メタル事件ヲ第二審ニ於テ數罪ト認定スルコトアルモ判決主文ノ  
刑ヲ重ク變更セサル以上ハ被告人ノ不利益ニ變更シタルモノト謂  
フヲ得ス

(參照) 被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ  
被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サス(刑事訴訟法第二  
百六十五條一項)

(判旨第五點) 他人ノ地所ヲ冒認シテ抵當ニ差入レタル場合ニ於テ眞  
ノ所有者ヨリ提起スル抵當登記取消ノ訴ハ損害賠償ノ一部ニシテ  
贖物ノ還給ニ非ス

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

公訴上告人 (市)東 強彦 辯護人 花井卓藏

私訴上告人 高橋軍次郎

私訴被上告人 井口傳之丞

右謙吉強彦カ私印私書偽造行使冒認抵當詐欺取財上告事件并ニ右事件ニ附帶スル私訴事件ニ付明治三

十二年六月二十六日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不當トシ被告謙吉強彦ハ公訴判決ニ對シ民事上告人高橋軍次郎ハ私訴判決ニ對シ執レモ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十二條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

被告強彦謙吉上告趣意ノ第一ハ被告等ハ原院認定ノ如キ犯罪行為ヲ爲シタルコトナシ從テ亦何等ノ證據ナキニ拘ラス輒ク有罪ノ判決ヲ爲シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ〇是唯原承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ取捨ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

同第二ハ原院ノ公判ハ法定ノ形式ヲ履踐シテ終結セズ從テ原判決ハ違法タルヲ免カレスト云フニ在レトモ〇原院ノ公判始末書ニ徴スルニ本件審理ノ起頭ヨリ終結ニ至ルマテ其手續方式等ニ於テ更ニ瑕疵アルコトナキヲ以テ上告ノ理由ナシ

辯護人花井卓藏上告趣意擴張書ノ第一點ハ原判決第一項證據明示ノ部ニ「豫審廷ニ於ケル被告強彦ノ自白云々」トアレトモ豫審調書ニ於ケル内容ヲ示サズ又「證人杉本惣三郎カ前示ノ如ク貸借ニ關スル始末ヲ申立タル證言云々」トアレトモ是亦何處ニ於テ如何ナル事實ヲ證言シタルモノナリヤ豫審廷カ將タ公判廷カ茫乎トシテ看取スヘカラス假リニ豫審廷ノ證言ナリトセンカ調書ニ於ケル内容ヲ示サ、ルヲ以テ決シテ證據ヲ明示シタルモノト云フヘカラス況ハンヤ自白ト云ヒ證言ト云ヒ均シク法律上ノ術語ニシテ事實ニアラサルオヤ乃チ原判決ハ此點ニ於テ改正刑事訴訟法第二百三條ノ法則ニ背戾スルモ

ノナリト云フニ在レトモ〇原判決ニ豫審廷ニ於ケル被告強彦ノ自白トアルハ其第一項ニ認めタル事實ノ自白ヲ云フモノニシテ其内容ハ判文自體ニ於テ自カラ明カナリ又證人杉本惣三郎トアルハ豫審廷ニ於ケル證人タルコト明カナリ何トナレハ其前文ニ掲ケアル「豫審廷ニ於ケル」ノ文字ハ其以下ニ援用シアル參考人證人等ニ冠スヘケレハナリ又證人杉本惣三郎カ前示ノ如ク貸借ニ關スル始末ヲ申立タル證言云々トアル「前示ノ如ク」トハ判文ノ前段ニ示シタル事實ノ如クト云フ意ナルヲ以テ是亦其内容自カラ明カナルヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由トナラス

同第二點ハ原判決末段ニ「然ラハ即チ原判決ハ事實ノ說明ニ於テ第一乃至第六ノ數個ノ犯罪事實ヲ認メナカラ法律適用ニ至リテ之チ一個ノ犯罪行為トシテ處斷シタルハ理由ニ齟齬アル不法ノ裁判云々」トアリ然レトモ第一審カ一個ノ犯罪トシテ法律ヲ適用シタルヲ訂正シテ數個ノ犯罪ナリトシテ法律ヲ適用スルハ理由ノ齟齬ニアラスシテ犯罪増加ナリトス本件ハ被告人ノミノ控訴ニ係リ檢事ノ付帶控訴アリタルニ非ス從テ原因ハ刑事訴訟法第二百六十五條ニ基キ不利益ノ變更ヲ爲スコトヲ得サルモノタリ而シテ犯罪ノ増加ハ明ニ不利益ノ變更ナルヲ以テ原判決ハ此點ニ於テ法則違反ノ欠點アルモノトスト云フニ在レトモ〇刑事訴訟法第二百六十五條ニ所謂原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サストハ主文ノ刑ヲ原判決ヨリ重ク變更シ以テ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サストハ法意ナルヲ以テ縱シヤ第一審カ一罪ト認メタルモノナ第二審ニ於テ數罪ト爲シタレハトテ其判決主文ノ刑ヲ第一

不利益變更ノ意圖〇犯罪ニ基ク登記取消ノ私訴



審判決ヨリ重ク變更セサル以上ハ被告人ノ不利益ニ變更シタルモノト云フヲ得ス故ニ本論旨モ亦上告ノ理由トナラス

私訴上告人高橋軍次郎上告趣意第一點ハ被上告人カ本訴請求ノ趣旨ハ上告人ト井口邦男間ノ抵當登記ノ取消ヲ求ムルニ在レトモ本訴ノ地所タル被上告人ヨリ邦男名義ニ移轉シ邦男ヨリ上告人カ抵當ニ取リタルモノナレハ之カ抵當登記ノ取消ヲ求ムル訴ハ刑事訴訟法第二條ニ所謂贓物ノ返還ト云フヲ得ス隨テ此等ハ私訴トシテ提起スヘキモノニアラス然ルニ原院カ之ヲ認容シタルハ不當ナリ加之本訴提起ノ際ハ民法施行法第六十一條ニ依リ刑法附則第五十四條乃至第六十條モ削除セラレタルヲ以テ本訴ノ如キ善意ノ第三者ニ對シテハ犯罪ヲ原因トシテ追求權ヲ行使シ得ヘキモノニ非ス然ルニ原院カ尙其權利アルヲ認メタルハ法則ノ適用ヲ誤リタルモノナリト云フニ在リ〇依テ原判文ヲ閱スルニ其説明ノ前段ニ於テ「案スルニ第一審ノ共同被告井口邦男カ民事原告人名義ノ地所讓渡證書登記請求ノ委任狀ヲ偽造行使シテ登記ヲ經テ本件ノ地所ヲ擅ニ自己ノ所有名義トナシ之ヲ冒認抵當トナシ登記ヲ受テ民事被告人等ヨリ金圓ヲ借入レタルコトハ民事原告人カ引用シテ證據トナス井口邦男ニ對スル公訴ノ確定判決及ヒ之ヲ表示スル證據ニ徴シ明確ナルヲ以テ云々」トアリ此説明ニヨレハ本件係争ノ地所ハ被上人井口傳之丞カ不知ノ間ニ井口邦男カ冒認シテ上告人ニ抵當ニ差入レ之カ登記ヲ經タルモノト解スヘキニ依リ其地所ノ所有權ハ勿論其占有權ニ於テモ更ニ移動スルコトナク依然井口傳之丞ニ存在スル筋

判旨第五點

合ナレハ其地所ヲ以テ直チニ贓物ト云フヘキモノニアラス隨テ本件抵當ノ登記取消ノ訴ハ邦男カ犯罪ノ結果地所ノ處分上一ノ障害ヲ醸生シタルヲ以テ之ヲ匡救セントスルニ外ナラスト云ハサルヘカラス而シテ斯ル訴ハ損害賠償ノ一部ト認メ得ヘキヲ以テ素ヨリ公訴ニ附帶スル私訴トシテ提起スルヲ得ヘキモノ之ヲ以テ贓物ノ還給ヲ求ムルモノト云フヘカラス然ルニ其後段ニ於テ上告人カ刑法附則第五十四條以下ノ規定ハ民法施行後ハ私訴トシテ贓物ノ還給ヲ求ムルコトヲ得ストノ抗辯ニ對シ刑法附則第五十四條以下ノ規定ハ要スルニ此種ニ關スル民法ノ規定ト抵觸スル所アルニ因リテ之ヲ削除シタルニ外ナラス故ニ刑事訴訟法第二條ノ規定ノ廢止セラレサル上ハ私訴トシテ贓物ノ還給ヲ求ムルコトヲ得ルハ殆ント言テ俟タスシテ明ナリト説明シ本件ノ抵當登記取消ノ訴ヲ以テ贓物ノ還給ノ如ク認メタルハ法律ノ理由ヲ誤リタル不法ノ判決ニシテ破毀ヲ免レサルモノトス既ニ此點ニ於テ原院ノ私訴判決ヲ破毀スヘキモノト認ムル以上ハ他ノ上告論旨ニ對シ逐一説明ヲ付スルノ要ナシ

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件公訴ノ上告ハ之ヲ棄却シ同法第二百八十六條ニ從ヒ原院ノ私訴判決中井口傳之丞ヨリ高橋軍次郎ニ係ル部分ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ本件ヲ名古屋控訴院ノ民事部ニ移ス

明治三十二年十月二十三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十二年第一〇三八號  
明治三十二年十月二十三日宣告

○判決要旨

北海道町村ノ文書ハ公文書ニ非スシテ官文書ナリ

(參照) 刑法中官廳官署ニ關スル條項ハ公署ニ適用シ官ノ印文書及免狀鑑札ニ關スル

條項ハ公署ノ印文書及免狀鑑札ニ適用ス(明治二十三年十月法律第百號)

第一審 札幌地方裁判所

第二審 函館控訴院

被告人 早坂元之進

右詐欺取財竊盜並ニ官文書偽造行使被告事件ニ付明治三十二年八月八日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意第一點ノ要領ハ原判文第一項ニ被告ハ云々大澤雄吉方ニ被雇中雄吉ノ命ニ依リ云々ト判示シ刑法第三百九十五條末段ニ問擬セラレタレトモ該條ノ罪ハ委託ヲ受ケタル金員物件ニ付拐帶等ノ所爲アルニ非レハ構成セサルモノナルニ單ニ雄吉ノ命ニ依リトノミ判示シ法律行爲ノ委託關係アルヤ否ヤ

ニ關シ何等ノ判定ヲ與ヘサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判文ヲ見ルニ「被告ハ云々大澤雄吉方ニ被雇中雄吉ノ命ニ依リ云々提燈新調代金ノ内云々合計壹圓六十四錢ヲ受取リタル儘之レヲ雄吉ニ渡サスシテ云々携帶逃走シタリ」トアリテ即チ雇主雄吉ノ申付ニ依リ提燈新調代金取立ノ委託ヲ受ケ之レヲ受取リナカラ雄吉ニ渡サスシテ携帶逃走シタリトノ事實理由ナルヤ明知スルニ足ルヲ以テ何等委託關係ノ明示ナシト云フヲ得ス

同第三點ノ要領ハ原判文第二項ニ於テ「役場ノ戶籍簿用紙ヲ用ヒ云々入籍ト記入セシメ之レヲ同役場ニ携ヘ行キ戶籍原簿ニ編入シ云々ト判示シ刑法第二百三條第一項ニ擬セラレタレトモ官文書偽造罪ノ一性質トシテ一定ノ資格アルモノカ一定ノ方式ヲ以テ作製スヘキ文書ヲ偽造スルコトヲ要スルハ疑ナキ所ナルニ拘ハテス原院ハ前掲ノ如ク判示シ果シテ資格アル官吏カ一定ノ方式ヲ以テ作りタルカ如ク偽造シタルヤ否ヤハ之レヲ判示セス漫然恰モ役場員カ正當ニ作製シタルモノ、如ク仕做シテ行使シ云々判定シタルハ理由不備ノ不法アル裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決ヲ見ルニ「戶籍面ヲ偽造シ自己ノ氏名ヲ早坂基ト變シ右判決ノ執行ヲ免カレンコトヲ圖リ戶長役場ノ戶籍簿用紙ヲ用ヒ之レニ云々記入シ尙ホ母ナトリノ上欄ニハ云々入籍ト記入セシメ之レヲ同役場ニ携ヘ行キ役場備附ノ戶籍原簿ニ編入シ恰モ役場員カ正當ニ作製シタルモノ、如ク仕做シテ行使シタリ」トアリテ即チ戶長役場カ作製スヘキ戶籍簿ヲ偽造シ正當ニ作製セラレタルカ如ク仕做シ其役場ニ備附以テ行使シタル事實理由ノ明

示アレハ、毫モ所論ノ如キ不法ナシ』同擴張書第一點ノ要旨ハ原判決ノ認定セラレタル偽造行使ノ戸籍原簿ハ公文書ニシテ官文書ニ非ス然ルニ明治二十三年法律第百號ノ適用ヲ欠キタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○北海道町村ノ事務ハ、戸長ノ擔任スル所ニシテ而シテ戸長ハ官吏ニ准スルモノナルヲ以テ原判決カ本件ニ付明治二十三年法律第百號ヲ適用セサルハ相當ナリトス』同第二點ノ要旨ハ原院カ押收ノ戸籍原簿ヲ沒收スルニ當リ刑法第四十三條第一號ノミチ適用シ刑法第四十四條及ヒ同法第四十三條第一項ヲ適用セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○制禁物ノ沒收ニ付刑法第四十三條第一號ヲ示シタルハ即チ四十三條ノ本文ト及ヒ其第一號トチ適用シタルモノナリ又該法條ヲ適用シタル以上ハ特ニ同法第四十四條ヲ適用セサルモ不法ニ非ス』同第三點ハ本件ノ罪ニ供セラレタル戸籍原簿ハ一件記録中ニ存在セサルモノナリ即チ原院ハ虛無ノ證據ニ依リ被告ヲ處罰シタルノ不法アリト云フニ在レトモ○原記録公判始末書ヲ閱スルニ其第三葉裏面ニ「裁判長ハ押收セル偽造ノ戸籍原簿ヲ被告ニ示シ辯解ヲ爲サシム答ソレハ明治三十一年六月末ト覺役場ノ簿冊ヲ鉛筆ニテ寫シ後用紙ニ認メサセ」云々トアリテ即チ戸籍原簿ハ公廷ニ提出セラレ被告ノ辯解ヲ經タルモノナレハ虛無ノ證據ニ供シタリト云フチ得ス』同第四點ハ原判決ハ其第一項ノ事實ニ依リ三箇ノ犯罪ニ問擬セラレダレトモ右認定ノ事實ニ依レハ犯罪目的物ノ借用品ナルト預リ品ナルト金錢ナルトノ相違アルノミニシテ特別ノ犯意アルニアラサル一箇ノ拐帶犯ニ外ナラサルナリ即チ原裁判ハ事實法律ノ理由チ欠キタル不法アリト云フニアリ○

依テ原判決ヲ見ルニ「被告ハ云々雄吉方ニ被雇中雄吉ノ命ニ依リ明治二十六年八月七日頃ヨリ同月九日迄ノ間ニ於テ云々木村爲次郎方ニテ提燈新調代金ノ内八十錢云々以上六名ヨリ合計金壹圓六十四錢ヲ受取りタル儘之ヲ雄吉ニ渡サスシテ同人ヨリ借用スル毛織外套帽子ト預リタル革靴並ニ風呂敷二枚トチ併セテ同月九日携帶逃走シタリ」ト説明シ即チ同時ニ同一ノ意思ヲ以テ金錢物品ヲ携帶逃走シタル一個ノ犯罪ヲ認メタルニ不拘法律ノ適用ニ至リ「雇主ノ命ヲ受ケ木村爲次郎外五名ヨリ請取りタル金員ト同人ヨリ借用シタル外套帽子及同人ヨリ預リタル風呂敷二枚革靴トチ拐帶シタル三個ノ所爲ハ何レモ刑法第三百九十五條末段同第三百九十四條ニ該リ」云々之ヲ三個ノ犯罪ナリト判斷シタルハ擬律錯誤ノ不法アルモノニシテ破毀ヲ免カレス』同第五點ハ原判決ハ本件公文書偽造ノ證據ヲ示シタルノミニシテ之ヲ行使シタリトノ證據並ニ其年月日ノ證據ヲ示サ、リシハ不法ナリト云フニアレトモ○原判決ニハ「證人筒江侃ノ豫審調書中二十一年五月カ六月カ迄旭川村戸長奉職シマシタ早坂元之進ハ代書ヲ爲シ居リタルモノニテ度々役場ニ出入シマヌ云々證人後藤啓松ノ豫審調書中云々自分ニ示シテ此一項ヲ記入シテ吳レト云ヒマシタカラ左様ニ認メテ遣ツタノテアリマス云々並ニ押收シタル偽造戸籍原簿ニ前掲ノ如ク記載アル等ニ依リ前記ノ行爲アルコト明瞭」云々トアリテ即チ偽造ノ證據ヲ示スト共ニ其行使及ヒ日時ノ證據モ示サレタルモノニシテ之レニ對スル論難ハ謂ハレナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十七條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スルコト左ノ如シ

早坂元之進

原院ノ認定シタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照ラシ原判文第一項雇主ノ命ヲ受テ木村爲次郎外五名ヨリ受取リタル金員ト同人ヨリ借用シタル外套帽子及ヒ同人ヨリ預リタル風呂敷二枚革鞆トチ拐帶シタル所爲ハ刑法第三百九十五條末段同第三百九十條同第三百九十四條ニ該リ同第二項旭川村戸長役場備附ノ戸籍原簿ヲ偽造行使シタル所爲ハ同第二百三條第一項ニ該リ二罪俱發ニ付キ同第百條ニ從ヒ一ノ重キ官文書偽造行使ノ所爲ニ依リ被告元之進ヲ輕懲役七年ニ處ス  
他ハ原判決ノ通り

明治三十二年十月二十三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

○私書偽造行使詐欺取財未遂ノ件

明治三十二年第一〇四一號  
明治三十二年十月廿三日宣告

○判決要旨

他人ノ注意ニ因リ畏懼ノ念ヲ生シテ犯罪ヲ中止シタルハ中止犯ニ非スシテ未遂犯ナリ

第一審 浦和地方裁判所熊谷支部 第二審 東京控訴院

被告人 田島善藏 辯護人 〔卜部喜太郎〕 廣田實

右私書變造行使詐欺取財未遂被告事件ニ付明治三十二年八月二十二日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ本院立會檢事ハ附帶上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告ノ趣旨ハ本件ハ法律ニ違背シタル不當ノ裁判ナリト云フニ在リテ ○其違法ノ點ヲ指示セサレハ之レカ當否ノ説明ヲ與フルニ由ナシ

辯護人卜部喜太郎廣田實辯明書ノ要旨第一ハ原院ニ於テ本件私書變造ノ原因タル財物騙取ノ所爲ハ被告自ラ中止シタルモノト判定セリ然レハ詐欺取財ヲ爲スニ因リ私書ヲ變造行使シタル所爲即チ實質上ノ一罪ナルモノハ此中止犯ニシテ全然罪トナラサルモノト謂ハサル可カラズ然ルニ原判決ハ詐欺取財ヲ爲スニ因リ私書ヲ變造行使シタル場合ハ實質上ノ一罪タル法文ヲ無視シ此兩個ヲ分離シテ詐欺取財

他人ノ注意ニ因ル犯罪ノ中止

ヲ中止犯トシテ無罪ノ判決ヲ爲シタルニ拘ハラズ因テ犯シタル私書變造行使ノ點ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲セシハ擬律錯誤ナリト云フニ在リ。然レモ原院カ中止犯ト認メタル事實ハ下文ニ掲クル檢事ノ附帶上告ニ對スル説明ノ如ク中止犯ト認ムヘカラサルモノナルニ付右論旨ニ對シ特ニ説明スルノ要ナシ。其第二ハ原判決第一ノ犯罪事實ハ第一二審ニ於テ事實上ノ認定ヲ異ニシナカラ原判決ハ毫モ其理由ヲ示ササルハ不法ナリト云フニ在リ。然レトモ原判決ニ於テ證據ニ依リ事實ヲ認メタル理由ヲ説明シテ上ハ尙ホ他ニ第一審判決ト其認定ヲ異ニシタルノ理由ヲ示スノ要ナシ。其第三ハ原判決ハ其後段ニ於テ「且ツ其事實認定ノ部ニ於テ明治十七年四月二日附ノ證書中年號ノ十ヲ二十ト描改シタリトノ點ハ誤謬ノ認定ナルヲ以テ之レヲ取消シ」云々ト説明シタレトモ第一審判決中ニハ右ノ如キ事實ノ認定ナシ即原判決ハ第一審判決ノ事實認定中ニ存セサル事實ヲ不法ニ認定シタルモノト謂ハサルヲ得スト云フニ在リ。然レトモ第一二審ノ判文ヲ參照スルニ其認定ヲ異ニシタル點即チ第一審判決ニ於テハ明治十七年十一月三日附ノ借用證書中年號ノ十ヲ二十ニ描改シ金額ノ五ノ字ノ上ニ拾ノ字ヲ挿入セシト認メ第二審ノ判決ニ於テハ明治二十七年十一月三十日附ノ借用證書中六ヲ十五ト描改シタリト認メタル差異アルノミ而シテ第二犯罪ノ事實ニ依ル明治十八年四月二日ノ證書變造ニ付テハ第一二審ニ於テ其認定ノ異ナル點ナシ然ラハ則チ二審ノ判決ニ於テ第一審ト其認定ヲ異ニシタルハ明治二十七年十一月三日附ノ證書ニ關スルノミナルコトハ其判文自體ニ示ス如クナレハ原院カ之レヲ掲記スルニ當リ第一審ノ事實認定ノ部ニ於テ明治十七年十一月二日附ノ證書中云々ト掲クルコソ當然ナルニ之レヲ明治十七年四月二日附證書中云々ト掲ゲタルハ第二犯罪ノ事實ニ係ル證書ノ月日附ト第一犯罪ニ係ル證書ノ月日附トチ誤記シタルモノト認ムルノ外ナシ現ニ之レヲ誤記ト認ムル上ハ之ヲ以テ原判決ヲ破毀スルノ原因ト爲スヲ得ス。其第四ハ原判決ニ（前略）口頭辯論ノ際同區裁判所公庭ニ於テ訴訟代理人佐久間正親ヲシテ右二通ノ變造證書ヲ證據トシテ提出セシメタリト認メ以テ被告ニ私書變造行使罪アルモノト判定セラレシモ原判決ニ所謂二通ノ變造證書ハ證據トシテ何人ニ提出シタルヤ其提出ヲ受ケタルモノハ果シテ證書ト認メテ之レヲ取扱ヒタル事實アリヤノ點ニ關シ毫モ説明スルトコロナシ即チ原判決ハ罪トナルヘキ事實ヲ明示セサル不法アルヲ免レス又原院判決ハ告訴狀ヲ證據トシテ取扱ヒタルコトハ特ニ説明ヲ要スヘキモノニアラス又後段ノ論旨ニ付原判文ヲ閱スルニ「田島庄次郎ノ告訴狀ニモ同一旨意ノ記載アル所ヨリ觀ル時ハ云々」トアリテ其同一旨意トハ其上文ニ掲記スル證人伊野熊五郎伊野周八ノ豫審調書中ノ掲載ヲ指示シタルモノナレハ原判決ハ所論ノ如ク證據ノ明示ヲ欠キタルモノニアラス。其第五ハ原判決ノ認定ニ依レハ拾五圓ノ三文字中何レノ文字カ六ノ字ノ變造ニ依ルモノナルカ知ルニ由ナシ若シ拾五圓ノ三字カ六ノ字ヲ描改シタルモノトセハ其前後ノ文字何レモ楷書ニシテ其大サ同一ナレハ之レヲ描改スルニ由ナシ況ンヤ前段ニハ六ヲ拾五ト描改シタリト云ヒ其後段ニハ六ヲ拾五ト改竄シタリト云ヒ到底其變造ノ部分ヲ知ルニ由ナシト云フニ在リ。然レトモ原判文ニハ六

ノ字ヲ拾五ノ二字ニ描改シタルモノト認メアリテ六ノ字ヲ拾五圓ノ三字ニ描改セリトハ證人佐久間正親ノ供述中ニアルモノナリ而シテ六ノ字ヲ拾五ノ二字ニ描改シタルモノト認メアル上ハ尙ホ他ニ描改前後ノ字體ヲ細説スルノ要ナシ

檢事ノ附帶上告ノ趣旨ハ被告カ口頭辯論ノ際訴訟代理人ヲシテ變造證書二通ヲ區裁判所へ提出セシメタルハ已ニ取財ニ着手シタルモノナリ故ニ着手以後ニ中止ヲナスモ其效ナシ況ンヤ當職ハ本件ハ中止犯ナリトハ認メズ他人ノ忠告ニ依リテ犯罪ヲ止メタルモノナリ是レ意外ノ障礙ニ逢ヒテ犯罪行為ヲ止メタルモノニシテ真心ヨリ悔悟シテ中止シタル者ニアラサルナリ依テ當被告ニ對シテハ私書變造行使詐欺取財未遂罪トシテ刑法第三百九十條第二項ヲ適用スヘキモノナルニ原院ニ於テ此條項ヲ適用セサルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ

依テ按スルニ凡ソ中止犯ハ自己ノ意思ヲ以テ之レヲ中止スルヲ要ス然ルニ原院カ被告ノ所爲ヲ中止犯ト認メタル事實ハ佐久間正親カ被告ニ對シテ斯ル證言ニ因リ請求スルトキハ勾留セラル、恐アリト認定シタルヨリ被告ハ犯罪中止ノ念ヲ發シ該訴ヲ取下ケタルモノニシテ被告カ犯罪ヲ中止シタルハ全ク佐久間正親ノ注意ニヨリ畏懼ノ念ヲ生シタルニ基キシコトハ著明ノ事實ナリトス既ニ此中止カ畏懼ノ爲メ止ムヲ得サルニ出テ而シテ其畏懼ノ念カ正親ノ注意ニ基キタルモノトセハ其注意ハ即チ意外ノ障礙ニシテ其中止ノ任意ニアラサルコトハ知ルヘキナリ然レバ則本件詐欺取財ノ點ハ未遂犯ヲ構成スヘキ

モノニシテ中止犯ヲ以テ論スヘカラサルモノナルニ原判決茲ニ出テス之レヲ中止犯ト誤認シ處罰セザリシハ附帶上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判タルヲ免カレサルモノトス

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ被告ノ上告ハ之レヲ棄却シ檢事ノ附帶上告ハ其理由アルニ付同法第二百八十七條ニ從ヒ原判決ヲ取消シ本院ニ於テ直チニ判決スル左ノ如シ

田 島 善 作

原院ノ認メタル事實ニ依リ之レヲ法律ニ照スニ私書變造行使ノ所爲ハ共ニ刑法第二百十條第一項第二百十二條ニ該リ詐欺取財未遂ノ所爲ハ同法第三百九十條第三百九十七條第三百九十二條第三百九十四條ニ該當ス而シテ詐欺取財ヲ爲スニ因リ文書ヲ變造行使シタルモノニ付同法第三百九十條第二項ニ從ヒ一ツノ重キ金高拾五圓ノ變造證書行使ノ罪ニ從ヒ處斷スヘキモノトス依テ被告善作ヲ重禁錮八月罰金拾圓ニ處シ六月ノ監視ニ付ス其他ハ總テ原判決ノ通り

明治三十二年十月二十三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

○賭博ノ件

明治三十二年第一〇九九號  
明治三十二年十月二十三日當告

○判決要旨

現行犯ニ關スル司法警察官ノ假豫審處分ノ調書作成ノ場所ハ犯所ニ限ルヘキモノニ非ス

第一審 甲府地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 山本 稔 辯護人 新井要太郎

右賭博被告事件ニ付明治三十二年九月十五日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告ノ趣旨ハ原院ニ於テ被告カ利益ノ爲メ援用シタル第一審調書「志村藤松申立部」ニ對シ何等ノ説明ヲ下サス單ニ被告ニ不利益ナル部分ノミヲ採テ裁判シタルハ刑事訴訟法ノ精神ニ戻ル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○然レトモ原院カ採用セサル證據ニ對シ之レヲ採用セサルノ理由ヲ説明スルノ要ナシ

辯護人新井要太郎擴張書ノ要旨第一ハ原判決カ證據ニ供シタル「志村藤松三浦義仙ニ關スル警察調書」ハ不法ナリ即チ刑事訴訟法第二十條ニ依レハ官吏公吏ノ面前ニ於テ書類ヲ作ルヘキ場合ニ關係人カ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ記載スルヲ以テ足ルモノトス特ニ署名捺印セシムルノ規定ナシ然ルニ志村ノ調書末段ニハ之レニ署名捺印セシメ又三浦ノ調書ノ末段ニハ警部鈴木保吉カ代署シテ

捺印セシメタル趣ヲ記載セリ該二調書ハ共ニ違法ニ調成セラレタル不法ノ文書ナルニ拘ハラヌ原院カ之レヲ證據トセシハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○然レトモ法律中捺印トアルハ拇印モ包含セラレタルモノナレハ無印ノ場合ニ押印ヲ以テ之レニ換フルハ固ヨリ違法ニアラス故ニ志村藤松ノ警察調書ハ違法ノ調成ニアラス又三浦義仙ノ調書ニ付刑事訴訟法第二十條ヲ援用シテ論難スル處アルモ同法第二十條第二項末段ハ明治三十二年法律第七十三號ニ依リ削除セラレ改正第二十一條ノ二第三項ニ官吏公吏ノ面前ニ於テハ本人署名スルコト能ハサル場合ト雖モ云々官吏公吏代表シテ其事由ヲ記スヘシトアリテ該調書ノ作製ハ同法實施以後ニ係ルハ警部鈴木保吉カ被告三浦義仙ノ無筆ナル爲メ其氏名ヲ代署シ又實印ナキ爲メ之レニ押セシメタルモノナレハ該調書ハ適法ニ作製セラレタルモノナリ故ニ原院カ之レヲ斷罪ノ證據トセシハ相當ナリ』其第二ハ巡查里吉久治郎並ニ警部鈴木保吉カ志村及ヒ三浦ニ對シテ訊問調書ヲ作成シタルハ共ニ司法警察官トシテ訊問シ逮捕並ニ告發共現行犯ニ對スル假豫審處分ヲ爲シタルモノナリ然レトモ現行犯ノ假豫審處分ハ刑事訴訟法第四百四條以下ノ規定ニ從ヒ犯所ニ臨檢シテ其處分ヲ爲スヘク自己ノ便宜撰ム所ニ於テ之レカ處分ヲ行フノ特權ヲ與ヘラレス然ルニ前顯巡查警部ハ違法ニモ斯權限外ニ於テ志村三浦ノ訊問調書及逮捕告發書ヲ作製シタリ原院ハ此違法ナルヲ願ミテ調書等ヲ採テ證據ニ供セシハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ刑事訴訟法ニ從ヒ司法警察官カ假豫審處分ヲ爲スハ同法第四百四十七條ニ依リ同第四百四十四條ノ規定ニ從フヘキモノナリ而シテ同條

中、犯、所、ニ、臨、檢、シ、豫、審、判、事、ニ、對、ス、ル、處、分、ヲ、爲、ス、コ、ト、ヲ、得、ル、ト、ア、ル、ハ、司、法、警、察、官、カ、犯、所、ニ、臨、檢、シ、タ、ル、場、合、ニ、ア、ラ、サ、レ、ハ、之、レ、ヲ、爲、ス、コ、ト、ヲ、得、ス、ト、ノ、謂、ヒ、ニ、シ、テ、調、書、作、製、等、ノ、場、所、迄、ヲ、モ、犯、所、ト、限、定、セ、ラ、レ、タ、ル、モ、  
 ハ、ニ、ア、ラ、ス、故、ニ、本、件、現、行、犯、ノ、場、合、ニ、於、テ、司、法、警、察、官、カ、犯、所、ニ、臨、檢、シ、之、カ、檢、證、調、書、ヲ、作、リ、而、シ、テ、右、左、口、  
 分、署、ニ、於、テ、被、告、ノ、訊、問、調、書、ヲ、作、製、シ、タ、ル、モ、ノ、ナ、レ、ハ、毫、モ、違、法、ノ、點、ア、ル、ヲ、見、ス、又、司、法、警、察、官、カ、逮、捕、及、ヒ、  
 告、發、調、書、ヲ、作、ル、ハ、刑、事、訴、訟、法、第、五、十、九、條、ノ、規、定、ス、ル、處、ニ、シ、テ、假、豫、審、處、分、ニ、對、ス、ル、モ、ノ、ニ、ア、ラ、ス、此、場、合、  
 ニ、司、法、警、察、官、カ、職、權、上、當、然、作、製、ス、ル、ノ、義、務、ア、ル、モ、ノ、ナ、リ、故、ニ、原、院、カ、被、告、ノ、警、察、調、書、及、ヒ、逮、捕、告、發、調、書、  
 ナ、斷、罪、ノ、證、料、ニ、供、セ、シ、ハ、共、ニ、相、當、ノ、措、置、ニ、シ、テ、上、告、論、旨、ハ、其、理、由、ナ、シ、  
 右、ノ、理、由、ニ、付、刑、事、訴、訟、法、第、二、百、八、十、五、條、ニ、從、ヒ、本、件、上、告、ハ、之、レ、ヲ、棄、却、ス、

明治三十二年十月二十三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事奥宮正治立會宣告ス

○手形偽造行使ノ件

明治三十二年第一〇一三號  
 明治三十二年十月二十四日宣告

○判決要旨

(判旨第一點) 約束手形ノ要件ヲ具備セサルモ約束手形トシテ人ヲ欺

シニ足ルヘキ文書ヲ偽造シテ行使シタルトキハ手形偽造行使罪ヲ構成ス

(判旨第七點) 判事ハ裁判所構成法第六條ノ規定ニ從ヒ檢事ノ代理ヲ爲スコトヲ得

(參照) 若シ一人ノ檢事又ハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ裁判所長又ハ區裁判所ニ於テ判事若クハ監督判事ハ其事件摘豫スヘカラザルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命シ其事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得(裁判所構成法第六條第四項)

第一審 京都地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 岡村萬吉 辯護人 高木益太郎

右手形偽造行使事件ノ控訴ニ付キ明治三十二年七月二十一日名古屋控訴院ニ於テ原判決ヲ取消ス被告岡村萬吉ヲ輕懲役六年ニ處ス抑收ノ偽造手形四通ハ之ヲ沒收シ其他ノ書類ハ差出人ニ還付シ公訴裁判費用金二十三圓三十錢ハ被告ノ負擔トスト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ノ要旨第一點ハ本件手形ハ手形ノ要件ヲ具備セサル無効ノモノナルニ原院カ之ヲ約束手形ト認メ且ツ證人ノ不當ナル證言ヲ採用シタルハ不法ナルノミナラス被告ハ手形ノ幾部ヲ記入シタル

要件不備ノ手形偽造○判事ノ檢事代理



判旨第一點

モ久吉ノ筆墨ヲ以テ同人ト同日同所ニテ記入調印セシモノナレハ原院カ墨色ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供シ又筆跡モ一八十號ノ文字ヲ以テ他ノ文字ト對照シ同筆跡ト認定シタルハ不法ナリト云フニアレトモ○本件手形カ約束手形ノ要件ヲ具備セサルコトハ原判決ノ認メサル所ナルノミナラス假リニ其要件ヲ具備セサル手形ナリトスルモ約束手形トシテ人ヲ欺クニ足ルモノナルトキハ約束手形偽造罪ヲ構成スルハ勿論ナルヲ以テ上段ノ論旨ハ其理由ナク、其他ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難スルニ過キササルヲ以テ上告ノ理由トナラス』其第二點ハ本件ハ非現行犯ナルニ司法警察官カ調書ヲ作成シ他ノ書類ト共ニ被告ヲ檢事ニ送致シタルニ檢事ハ司法警察官ノ作リタル違法ノ書類ニ請求書ヲ添ヘスシテ豫審判事ニ送致セシハ起訴ノ手續ニ違法アルモノナリト云フニ在レトモ○本件ニ付キ檢事ノ豫審請求書アルコトハ訴訟記録ニ徴シ明白ナレハ本論旨ハ其謂ハレナシ』其第三點ハ本件ニ於ケル檢事ノ起訴ハ約束手形偽造行使罪ノミナルニ原院カ詐欺取財ヲ爲スニ依リ手形ヲ偽造行使シタルモノニシテ實質上ノ一罪ナルヲ以テ詐欺取財ノ點モ起訴セラレタルモノナリト認メタルハ不法ノ認定ナリ若シ其認定ハ正當ナレハ豫審判事カ刑法第三百九十條第二項ヲ適用セス二罪ノ法則ヲ適用シタルハ失當ニシテ起訴ナキ事件ヲ合セテ終結シタルモノナレハ其手續ハ全部無効タルヘキモノナリト云フニ在レ

凡○原判決ノ認メタル事實ニ依レハ本件ハ財物ヲ騙取スルタメ約束手形ヲ偽造行使シタルモノナレハ實質上ノ一罪ナルカ故ニ詐欺取財ノ點ハ約束手形偽造行使罪ノ起訴中ニ自ラ包含セラレタルモノナル

ヲ以テ原院ノ認定ハ敢テ不法ニアラサルヲ以テ原判決ニ對スル上告ノ理由ト爲スヲ得ス』其第四點ハ豫審終結決定正本ニ被告ノ職業ヲ記載セサルハ刑事訴訟法第七十六條ニ違背シタルモノナリト云フニ在リテ○豫審終結決定ニ對スル批難ニ過キササルヲ以テ原判決ニ對スル上告ノ理由ト爲スヲ得ス

上告趣意辯明書ノ要旨第一點ハ偽造手形ヲ處分スルニ刑法第四十三條第一號第四十四條ヲ適用シタルモ其前段ナルヤ後段ナルヤヲ明示セサルハ失當ナリト云フニ在レトモ○刑法第四十三條第一號ヲ適用シタル以上ハ同法第四十四條前段ヲ適用シタルモノナルコト自ラ明カナルヲ以テ本論旨ハ其理由ナシ

其第二點ハ上告趣意書第一點ノ趣旨ヲ敷衍シ其第三點ハ同第三點ノ趣旨ヲ敷衍シタルニ過キササルヲ以テ重テ説明ヲ與フルノ要ナシ

其第四點ハ原判決ハ證人岡村久吉同大槻瀧右衛門ノ供述ノ外ハ各豫審調書ニ因ルトノミアリテ如何ナル證憑ニ依リ罪ヲ認メタルヤ之レヲ知ルニ由ナク刑事訴訟法第二百三十條ニ違背シタル判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ヲ閱スルニ各證人參考人ノ供述ヲ掲ケタル末「以上證人大槻瀧右衛門岡村久吉參考人山内九左衛門和泉常松カ供述ノ趣旨ハ各豫審調書ニ因ル」ト記載シアリテ其證憑ヲ明示シタルヲ以テ本論旨ハ其謂ハレナシ

其第五點ハ本件ニ付テハ一審以來證人ノ出頭ナク且ツ第一審ニ於テ公訴裁判費用ノ言渡ナキニ原院カ

公訴裁判費用ノ負擔ヲ命シタルハ不當ナリト云フニアレトモ○本件ニ關シ公訴裁判費用ヲ要シタルコトハ訴訟記録ニ徴シ明瞭ナルノミナラス第一審判決ニ裁判費用ノ言渡アルコトハ同判決書ニ徴シ明カナレハ本論旨モ其謂ハレナシ

其第六點ハ本件豫審終結ノ處分ニ付キテハ檢事代理馬場氏隆名義ノ意見書アルモ判事カ檢事代理ニテ意見ヲ付スルハ無効タルヘク結局適式ナル檢事ノ意見書ナキ不法ノ豫審終結ナリト云フニ在レトモ○判事カ檢事ノ代理ヲ爲シ事件ノ取扱ヲ爲スヲ得ルコトハ裁判所構成法第六條末項ノ規定スル所ナルノミナラス假令豫審終結決定ニ檢事ノ意見ヲ聽カサル違法アリトスルモ之ヲ以テ原判決ニ對スル上告ノ理由ト爲スヲ得ス

判旨第七點

辯護人高木益太郎上告辯明書ノ要旨ハ原判決ノ事實ニ依レハ上告人カ約束手形四通ヲ偽造行使シタルコトヲ認メアリテ之レヲ一所爲ト看做ス旨ノ判示ナキニ依レハ即チ四箇ノ手形偽造行使ノ所爲アリト認メタルヤ明ナリ然ルニ其法律ノ理由ノ部ニ於テ四箇ノ手形偽造行使ノ所爲中其何レヲ重シト認メタルヤ之レヲ説明セス「只ダ重キ手形偽造行使ノ所爲ニ從ヒ」ト說示シタルハ即チ法律理由ノ明示ヲ欠キタル裁判ナリト云フニアレトモ○原院カ上告人ニ於テ約束手形四通ヲ偽造行使シタルハ意思繼續シテ之ヲ爲シタル一所爲ナリト認定シタルモノナルコトハ原判文上自ラ明カナレハ原判決ニ「重キ手形偽造行使ノ所爲ニ從ヒ云々」ト判示シタルハ相當ニシテ本論旨ハ其理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十二年十月二十四日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

○偽證ノ件

明治三十二年第一〇五五號  
明治三十二年十月二十四日宣告

○判決要旨

(判旨第一點) 證人ノ資格ナキ者ト雖モ證人トシテ宣誓ノ上虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ偽證罪ヲ構成ス

(判旨第三點) 問税官吏カ犯罪者本人其他ノ者ヲ訊問スルニハ刑事訴訟法ニ據ルヘキモノニアラスシテ間接國接犯則者處分法第六條ニ據ルヘキモノトス而シテ同條ニ據レハ訊問ニ立會人ヲ要セス

(參照) 問税官吏臨檢ヲ爲スニ際シ犯罪者及證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ必要トスルトキハ之ヲ尋問スルコトヲ得(間接國接犯則者處分法第六條)

第一審 仙臺地方裁判所 第二審 宮城控訴院

證人無資格者ノ偽證○問税官吏ノ訊問

右偽證事件ノ控訴ニ付キ明治三十二年八月十七日宮城控訴院ニ於テ原判決ハ之ヲ取消ス被告ヲ重禁錮一月十五日ニ處シ罰金三百圓ヲ附加ス公訴裁判費用ハ被告ノ負擔トスト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ノ要領ハ被告ハ早阪源七ノ雇人且同居人ナルコトハ間稅官吏稅務屬三浦修治外一名ノ臨檢調書並ニ右三浦修治ノ豫審調書ニ依リ明瞭ニシテ右源七ニ對スル酒造稅法違犯事件ニ付テハ刑事訴訟法第二百二十三條ニ依リ證人タルノ資格ナキモノナリ故ニ被告ノ供述ハ偽證罪ヲ構成セサルニ依リ原院ニ於テ控訴ノ理由トシテ之ヲ申立タルニ原院カ此緊要ナル争點ニ對シ判斷ヲ爲ササルハ刑事訴訟法第二百六十九條ニ背キタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○實際證人タル資格ナキモノト雖トモ苟モ證人トナリ宣誓ノ上偽證ノ陳述ヲ爲シタルトキハ偽證罪ヲ構成スルハ論ヲ俟タサル所ナルノミナラス控訴ノ理由ニ對シ一々判斷ヲ與フ可シトノ規定ナキヲ以テ原院カ被告ノ申立タル控訴ノ理由ニ對シ判斷ヲ與ヘサルモ違法ニアラス故ニ本論旨ハ其理由ナシ

辯護士村松山壽上告趣意擴張書ノ要旨第一點ハ間接國稅犯則者處分法第四條ニ依レハ間稅官吏カ證憑集取ヲ爲スルハ本人若シハ其同居ノ親族又ハ雇人ヲ立會ハシムヘシ若シハ警察官吏又ハ町村吏員或ハ隣佑二名以上ヲ立會ハシムヘキ者ナリ然ルニ本件間稅官吏稅務屬三浦修治外一名ノ作リタル臨檢調書

判旨第一點

ニハ前記何レニモ該當セサル上告人ニ於テ立會ヒタルモノナレハ立會人ナキニ均シキ無効ノ調書ナリ然ルニ原院カ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ失當ナリ若シ又上告人ヲ右ノ所謂本人若シハ雇人ニ當ルモノトセハ證人タル資格ナキモノニ付キ原院カ偽證罪ナリト判決シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニアレトモ○上告人カ本人早阪源七ヲ代表シ間稅官吏ノ臨檢ニ立會ヒタルコトハ其臨檢調書ニ徴シ判明ナレハ該調書ハ立會人ナキ無効ノ調書ナリト云フヲ得ス故ニ前段ノ論旨ハ其理由ナシ又後段論旨ノ理由ナキコトハ上告趣意書ニ對スル說明ニ依リ了解スヘシ其第二點ハ間稅官吏カ犯則者又ハ證人ノ訊問ヲナスニハ相當ノ立會人ヲ要スヘキモノナルニ上告人ヲ訊問シタルコトヲ記載シタル臨檢調書ニ上告人ノ以外ニ立會人ナキハ間接國稅犯則者處分法第四條及ヒ刑事訴訟法ノ規定ニ背キタル無効ノ調書ナル

判旨第三點

ニ之ヲ證據ニ供シタル原判決ハ失當ノ裁判ナリト云フニアレトモ○間稅官吏カ犯則者本人及ヒ其他ノ者ヲ訊問スルニハ刑事訴訟法ノ規定ニ據ルヘキモノニアラサルコトハ論ヲ俟タサル所ナルノミナラス間接國稅犯則者處分法第四條ハ犯則ニ係ル物件ニ關シ證憑集取ヲ爲ス場合ノ規定ニシテ犯則者本人及ヒ其他ノ者ノ訊問ヲ爲スコトハ同法第六條ノ規定スル所ナルモノ之レニ關シテハ別ニ立會人ヲ要ストノ規定ナキヲ以テ本論旨ハ上告適法ノ理由トナラス其第三點ハ間接國稅犯則者處分法第九條ニ依レハ間稅官吏ハ調書ヲ作リタルトキハ之ヲ本人ニ讀聞カセ本人ト共ニ署名捺印スヘキモノナルニ本件臨檢調書ハ代人タル上告人ニ讀聞ケ代人タル上告人カ署名捺印シタルモノニシテ本人ニ讀聞ケ署名捺印セ

シメタルコトナキモノナレハ無効ノ調書ナリ然ルニ原院カ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ失當ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○上告人カ問稅官吏ノ臨檢ニ立會ヒタルハ畢竟本人早阪源七ヲ代表シテ之ヲ爲シタルモノナレハ其臨檢調書ヲ上告人ニ讀聞ケ上告人カ之レニ署名捺印シタルハ當然ニシテ本人早阪源七ニ讀聞ケ同人ニシテ之レニ署名捺印セシメサルモ敢テ違法ニアラス故ニ本論旨ハ其理由ナシ其第四點ハ原院カ證據ニ採リタル證人三浦修治ノ豫審調書ニ依レハ本件臨檢調書ハ上告人ニ示シ熟讀セシメタルモノニシテ讀聞ケサルモノナルニ該調書ニハ讀聞ケタリト偽リノ記載アルノミナラス之ヲ示シタルニ過キサルヲ以テ違法ノ調書ナルニ原院カ之ヲ斷罪ノ證據トナシタルハ失當ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○右臨檢調書ヲ閱ミスルニ其末尾ニ「依テ此調書ヲ作り代人内藤卯兵衛ニ讀聞セタルニ毫モ相違ナキ旨申立テ共ニ署印捺名スル者也」ト明記シアリ且ツ如此方式ノ遵守ハ其調書ニ依リテ之ヲ見ルノ外之レナキヲ以テ本論旨ハ相立タス其第五點ハ本件ノ場合ニ在テハ裁判所カ豫審判事ニ送致ノ手續ヲ爲スヘキ筈ナルニ裁判長カ送致書ヲ發シタルハ無効ナリ然ルニ原院カ無効ノ手續ニ基キタル書類ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ失當ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○本件送致書ヲ發スルカ如キコトハ裁判長カ裁判所ヲ代表シテ之ヲ爲シ得可キヤ勿論ナルヲ以テ本論旨ハ上告適法ノ理由トナラス右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十二年十月二十四日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事奥宮正治立會宣告ス

○竊盜等ノ件 明治三十二年第一〇六六號  
明治三十二年十月二十四日宣告

○判決要旨

控訴棄却ヲ爲スニ付法條ヲ明示スヘキ規定ナキヲ以テ之ヲ示サ、  
ルモ違法ニアラス

(參照) 控訴裁判所ニ於テハ控訴ノ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却ス可シ(刑事訴訟法第二  
百六十一條一項)

- 第一審 安濃津地方裁判所
- 第二審 名古屋控訴院
- 公訴私訴上告人 島竹之進
- 私訴被上告人 倉田眞一
- 右親權者 倉田トウ

右竹之進カ竊盜及私印私書偽造行使詐欺取財被告事件並ニ之ニ附帶スル私訴ニ付キ明治三十二年八月十八日名古屋控訴院ニ於テ公訴ニ付テハ第一審判決ヲ取消シ被告竹之進ヲ重禁錮一年附加罰金十圓監

控訴棄却ノ法條